



0011949-000

CZ-3-17

現行法令全書

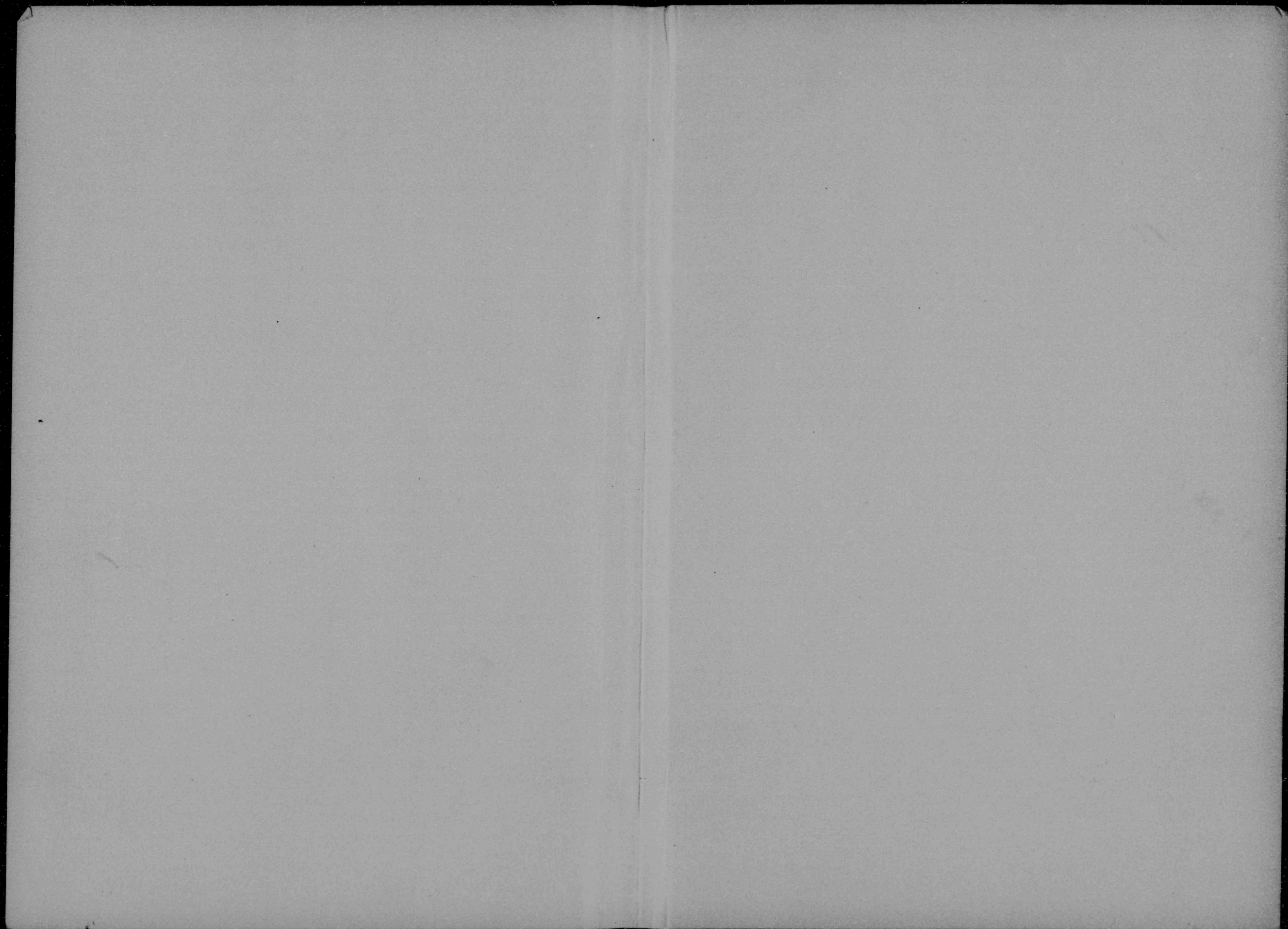
法令普及会・編纂

法令普及会

[5]

1929. 8

ACA



シシ3L-70

在自除加

70

現行法令全書

第七類 地方制度 財務	第三級	第六類 刑事 事	第五類 商事	第四類 民事 事	第二級	第三類 裁判 監獄	第二類 官制 官規	第一類 憲法 議會	第一級	第八類 稅制 專賣	第九類 土地 治水	第十類 警察 衛生	第十一類 社會 施設 宗教	第十二類 學事 兵事	第五級	第十三類 產業 移民	第十四類 交通 電氣 及 瓦斯	第十五類 統計 報告
-------------------	-----	----------------	-----------	----------------	-----	-----------------	-----------------	-----------------	-----	-----------------	-----------------	-----------------	------------------------	------------------	-----	------------------	-----------------------------	------------------

(シシ3L70)

シ 3470
(目録あり)

94.



加除
自在
現行
法令
全書

法令普及會編纂

法令普及會藏版



法令普及會全書

第一卷	第二卷	第三卷	第四卷	第五卷	第六卷	第七卷	第八卷	第九卷	第十卷	第十一卷	第十二卷	第十三卷	第十四卷	第十五卷	第十六卷	第十七卷	第十八卷	第十九卷	第二十卷
第一卷	第二卷	第三卷	第四卷	第五卷	第六卷	第七卷	第八卷	第九卷	第十卷	第十一卷	第十二卷	第十三卷	第十四卷	第十五卷	第十六卷	第十七卷	第十八卷	第十九卷	第二十卷

CZ
3
17



320.91

80W01254

第十三類 產業移民

第十三類 產業、移民

第一編 產業

第一章 農業

- 大正一一年四月法律第四〇號 ●農會法……………一
- 大正一一年八月農商務省令第一六號 ●農會法施行規則……………一六
- 大正一〇年四月法律第三六號 ●米穀法……………二

第二章 工業

- 明治四四年三月法律第四六號 ●工場法……………二一
- 大正五年八月勅令第一九三號 ●工場法施行令……………二五
- 大正五年八月農商務省令第一九號 ●工場法施行規則……………二
- 大正一二年三月法律第三四號 ●工業労働者最低年齡法……………二六
- 大正一五年六月內務省令第一四號 ●工業労働者最低年齡法施行規則……………三九

第三章 商業

- 昭和二年四月法律第四九號 ●商工會議所法……………四〇
- 昭和二年一二月勅令第三七五號 ●商工會議所法施行令……………四七
- 昭和二年一二月商工省令第一三號 ●商工會議所法施行規則……………四九
- 明治二六年三月法律第五號 ●取引所法……………五四

大正一一年七月勅令第三五三號	●取引所令	一五
大正三年六月農商務省令第一六號	●取引所法施行規則	一六
昭和二年三年法律第二一號	●銀行法	一七
昭和二年一月大藏省令第三一號	●銀行法施行細則	一七
大正一〇年四月法律第七四號	●貯蓄銀行法	一八
大正一〇年八月大藏省令第二九號	●貯蓄銀行法施行細則	一八
明治三三年三月法律第六九號	●保險業法	一九
大正元年一月農商務省令第二九號	●保險業法施行規則	一九
大正一一年四月法律第六二號	●信託法	二〇
大正一一年四月法律第六五號	●信託業法	二〇
大正一一年一月大藏省令第五七號	●信託業法施行細則	二〇
明治三八年三月法律第五二號	●擔保附社債信託法	二一
明治三八年五月大藏省令第三五號	●擔保附社債信託法施行細則	二一
大正四年六月法律第二四號	●無盡業法	二二
大正四年一月大藏省令第三〇號	●無盡業法施行細則	二二

第四章 鑛業

明治三八年三月法律第四五號	●鑛業法	二五
明治三八年六月農商務省令第一七號	●鑛業法施行細則	二五
明治四二年三月法律第一三號	●砂鑛法	二六
明治四二年六月農商務省令第二六號	●砂鑛法施行細則	二六

第五章 水產業

明治四三年四月法律第五八號	●漁業法	二八
明治四三年一月農商務省令第二五號	●漁業法施行規則	二八
大正一〇年四月法律第六〇號	●水產會法	二九
大正一〇年六月農商務省令第一七號	●水產會法施行規則	二九

第六章 產業組合

明治三三年三月法律第三四號	●產業組合法	三〇
明治四二年八月農商務省令第三五號	●產業組合法施行規則	三〇

第七章 計理士

昭和二年三月法律第三一號	●計理士法	三二
昭和二年九月勅令第二八一號	●計理士法施行令	三二

第八章 辨理士

大正一〇年四月法律第一〇〇號	●辨理士法	三三
大正一〇年一月勅令第四六六號	●辨理士法施行令	三三

(注意) 以下追録ヲ以テ登載ス

第十三類 産業、移民

第一編 産業

第一章 農業

●農會法

(大正十一年四月十二日) 總、農、大臣副署
法律第四十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農會法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農會法

- 第一條 農會ハ農業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 農會ハ法人トス
- 第三條 農會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
 - 一 農業ノ指導獎勵ニ關スル施設
 - 二 農業ニ從事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
 - 三 農業ニ關スル研究及調査
 - 四 農業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
 - 五 其ノ他農業ノ改良發達ヲ圖ルニ必要ナル事業
- 第四條 農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 農會ハ農業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第十三類 産業、移民 第一編 産業

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條 行政官廳ハ農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ノ提出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條 政府ハ農會ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第八條 農會ハ町村農會、市農會、郡農會、道府縣農會及帝國農會トス

第九條 農會ノ地區ハ町村農會ニ在リテハ町村又ハ町村組合、市農會ニ在リテハ市、郡農會ニ在リテハ郡又ハ島司ヲ置キタル島嶼、道府縣農會ニ在リテハ道府縣、帝國農會ニ在リテハ内地ノ區域ニ依ル

特別ノ事由アルトキハ農會ノ地區ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十條 農會ノ名稱ニハ町若ハ村農會、市農會、郡農會、道府若ハ縣農會又ハ帝國農會ナル文字ヲ用キルヘシ但シ農會ノ地區カ町、村、市、郡、道、府又ハ縣ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ此等ノ區域ヲ示スヘキ文字ヲ用キサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用キルコトヲ得ス

第十一條 農會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ國、公共團體及命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ノ耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及其ノ地區内ニ於テ農業ヲ營ム者、郡農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ町村農會、道府縣農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ市農會、郡農會及郡農會ノ會員ニ非サル町村農會、帝國農會ニ在リテハ道府縣農會ヲ以テ其ノ會員トス

第十二條 農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

町村農會及市農會ニ在リテハ前項ノ同意ヲ爲シタル者ノ所有シ又ハ占有スル其ノ地區内ノ耕地、牧場及原野ノ面積ハ私用ニ供スル其ノ地區内ノ耕地、牧場及原野ノ面積ノ二分ノ一以上ナルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ條件ニ依ラサルコトヲ得

第十三條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ農會ノ會員タルヘキ農會ハ其ノ總會ニ於テ創立委員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ但シ道府縣農會ヲ設立スル場合ニ於テ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ヲ選任スル創立委員ノ選出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫備議員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ

豫備議員ハ議員事故アルトキハ之ヲ代理シ議員闕ケタルトキハ議員ト爲ル

前條第三項但書ノ規定ハ豫備議員ニ付之ヲ準用ス

第十九條 行政官廳ハ農業ニ關スル學識經驗アル者ヲ郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ特別議員ニ任命スルコトヲ得

特別議員ノ員數ハ議員定數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條 左ニ掲クル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 事業報告及收支決算
- 四 借入金
- 五 基本財産ノ造成、管理及處分
- 六 會則ノ變更
- 七 役員、議員及豫備議員ノ選任及解任
- 八 第十二條第一項、第二十四條第二項及第三十五條ノ同意

前項第一號、第二號、第四號及第六號ニ掲クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 總會ハ會長之ヲ招集ス

第十四條 町村農會及市農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ其ノ役員並其ノ組織スヘキ農會ノ議員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ、其ノ他ノ農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ創立委員中ヨリ其ノ役員並其ノ組織スヘキ農會ノ議員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ選任スヘシ但シ第二十七條第二項但書及第三項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 農會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十六條 農會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總會ニ加入シタルモノト看做ス但シ行政官廳力特別ノ事由ニ依リ加入ノ必要ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 農會ニ總會ヲ置ク

總會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會長副會長及會員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ會長副會長議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ議員ハ其ノ農會ノ會員タル農會ニ於テ各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ但シ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ヲ選任スル議員ノ選出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郡農會、道府縣農會及帝國農會ノ設立ノ場合ニ於テハ創立委員其ノ農會ノ議員ト爲ル

第十八條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ノ會員タル農會

總會ヲ組織スル者ハ其ノ總數ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後十四日以内ニ總會ヲ招集セザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ行政官廳ハ會員又ハ議員若ハ特別議員ヲ指定シテ總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第二十二條 總會ノ議長ハ會長、會長事故アルトキハ副會長ヲ以テ之ニ充ツ會長及副會長共ニ事故アルトキ又ハ前條第三項若ハ第四項ノ場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム

第二十三條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 會則ノ變更ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

第二十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ會則ノ定ムル所ニ依リ書面ヲ以テ其ノ總會ヲ組織スル者ノ意見ヲ徵シ總會ノ議決ニ代フルコトヲ得但シ町村農會及市農會ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ置キ總會ニ代フルコトヲ得

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選舉シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ニ關スル規定ハ總代會ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 農會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人
副會長 一人
評議員 數人

役員ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會員中ヨリ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ議員及特別議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス
前項但書ノ規定ニ依リ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 行政官廳ハ農會ニ對シ會務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、會務執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、會則收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ノ提出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 行政官廳ハ農會ノ議決又ハ役員ノ行爲方法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ特別議員ヲ解任シ、議員豫備議員若ハ總代ノ改選ヲ命シ、農會ノ事業ヲ停止シ又ハ農會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 農會解散又ハ合併ヲ爲サムトスルトキハ其ノ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得、道府縣農會ニ在リテハ尙其ノ會員タル郡農會及市農會ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且合併ノ場合ニ於テハ會則ヲ議定シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

農會分割ヲ爲サムトスルトキハ前項ノ規定ニ準スル同意ノ外分割ノ各農會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得農會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ且會則ヲ

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ並會務執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十九條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルモノハ會長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得
町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得

町村農會及市農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

議定シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 第二項、第十三條乃至第十五條及第十七條第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 合併後存続スル農會又ハ合併ニ因リテ設立シタル農會ハ合併ニ因リテ消滅シタル農會ノ權利義務ヲ承繼ス
分割ニ因リテ設立シタル農會ハ前條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ農會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十七條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第三十八條 農會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ規定アルトキ又ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人關テタルトキ亦同シ

第三十九條 清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條 行政官廳必要ト認ムルトキハ清算方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條 本法ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道廳支廳長管轄區域トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年八月勅令第三百五十七號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行)
明治三十二年法律第三百三號農會法ハ之ヲ廢止ス
明治三十二年法律第三百三號農會法ニ依リ設立シ本法施行ノ際現ニ存スル農會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス
本法施行ノ際現ニ前項ノ農會ノ役員、議員、豫備議員又ハ特別議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期中仍其ノ職ニ在ルモノトス

●農會法施行規則

(大正十一年八月十七日)
(農商務省令第十六號)

沿革 大正一四年四月農林省令第六號、一五年六月第一三號改正
農會法施行規則左ノ通定ム

農會法施行規則

- 第一條 町村農會又ハ市農會ノ地區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル農業ノミヲ營ム者ハ其ノ農會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス
 - 一 一段歩未滿ノ他人ノ土地ニ於テ行フ耕種
 - 二 一箇年ヲ通シテ框製蠶種四枚未滿又ハ之ニ相當スル蠶種ヲ掃立テテ行フ養蠶
 - 三 前二號ニ掲クルモノヲ併セ行フ農業

★

前項ニ掲タル者ノ外地方長官ニ於テ特ニ町村農會及市農會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
第二條 町村農會又ハ市農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ地區内ニ居住セサル會員ヲシテ其ノ地區内ニ代理人ヲ設ケシムルコトヲ得
農會ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得

第三條

農會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、創立費用、收支概算及經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第四條

農會法第十三條但書ノ創立委員ノ選出ニ付テハ第十四條ノ規定ヲ準用ス

第五條

創立總會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者、其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ創立委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條

發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ帝國農會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ創立總會ヲ組織スヘキ者ニ通知シ尙町村農會及市農會ニ在リテハ之ヲ公告スヘシ

第七條 創立總會ノ議事ハ之ヲ組織スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

町村農會及市農會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ
創立總會ノ議長ハ出席者中ヨリ之ヲ互選スヘシ
第二十四條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第八條 農會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第九條 郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ組織スヘキ道府縣農會ノ議員及豫備議員ト爲ルヘキ者ノ選任ハ之ヲ行ハス
第十條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク設立認可申請書ヲ行政官廳ニ差出スヘシ
前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十一條 會則ニハ農會法及本則ニ規定スルモノノ外左ニ掲

前項ニ掲クルモノノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱
- 二 事業
- 三 事務所
- 四 農會法第九條第一項ノ區域ニ依ラサル農會ニ在リテハ其ノ地區
- 五 役員ノ定數
- 六 總代會ヲ置ク農會ニ在リテハ總代ノ定數、任期、選任及辭任ニ關スル規定
- 七 會議ニ關スル規定
- 八 會計ニ關スル規定
- 第十二條 農會ノ設立ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ農會ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
- 第十三條 町村農會及市農會ハ會員名簿ヲ調製シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ會員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 會員ノ氏名及住所
 - 二 會員タル資格
 - 三 地租納額其ノ他經費賦課ノ基礎ト爲ルヘキ事項
 - 四 代理人ノ氏名及住所
 會員名簿ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ農會ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ

會員名簿ノ閲覧ヲ求ムル者アリタルトキハ農會ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ノ選出スヘキ道府縣農會ノ議員及豫備議員ハ郡毎ニ各一名トシ其ノ郡内ニ在ル郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ハ其ノ役員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第十五條 郡農會、道府縣農會及帝國農會成立シタルトキハ其ノ會員タル農會ハ最近ノ總會ニ於テ豫備議員ヲ選任スヘシ但シ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ノ行フ豫備議員ノ選任ニ付テハ其ノ組織スル道府縣農會ノ指定スル期日ニ依ルル農會ハ最近ノ總會ニ於テ豫備議員ヲ選任スヘシ

第十七條 役員、議員及豫備議員ノ任期ハ農會ノ事業年度ニ從ヒ四箇年トス但シ補闕ノ役員、議員及豫備議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十八條 會員百人以上ヲ以テ組織スル町村農會及市農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ置クコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ總代會ニ付之ヲ準用ス

第十九條 町村農會又ハ市農會ノ總代ハ其ノ會員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選舉ス

第二十條 總代ヲ選舉スルノ權利ハ一人一箇トス但シ同一ノ土地ヲ共有スルニ因リテノミ會員タル資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人ト看做ス

第二十一條 總代ノ選舉ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス

第二十二條 總會ヲ召集セムトスルトキハ帝國農會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ總會ヲ組織スル者ニ通知スヘシ

第二十三條 總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 總會ノ議長ハ議事録ヲ作り左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 總會ヲ組織スル者ノ定數又ハ員數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項及贊否ノ數

第二十五條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十六條 町村農會及市農會ノ經費ヲ賦課セムトスルトキハ左ノ賦課方法及金額ノ制限ニ依ルヘシ但シ總會ノ決議ヲ以テ其ノ一ニ依ルコトヲ得

- 一 會員割 一人ニ付金五十錢以内
- 二 會員ノ資格要件タル土地ノ地租割 地租納額百分ノ五十以内
- 三 原野ニシテ農業ニ利用セサル土地ニ付テハ地租割ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ町村農會又ハ市農會ハ地方長官ノ認可ヲ受テ第一項ノ賦課方法及金額ノ制限ニ依ラスシテ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第二十七條 町村農會及市農會ハ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ穀物、繭其ノ他ノ農産物ヲ以テ經費ヲ負擔セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ物品ノ價格ハ經費ノ賦課額ニ相當スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ經費ヲ負擔セシメラレタル會員ハ金錢ヲ

以テ物件ノ納付ニ代フルコトヲ得

第二十八條 收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年二月末日迄ニ之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ差出スヘシ

第二十九條 會則、收支豫算及經費分賦收入方法ノ變更並借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スヘシ尙借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總會ノ承認ヲ受ケ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第三十一條 農會法第二十七條第三項ノ規定ニ依リ役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第三十二條 農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ幹事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十三條 農會ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區ノ増減ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ尙合併ノ場合ニ於テハ合併後存続スル農會又ハ合併ニ因リテ設立スル農會ノ會則ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各農會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

農會法第三十五條第三項ノ規定ニ依リ準用スル同法第十二

條第二項但書ノ場合ニ於ケル合併又ハ分割ノ認可申請書ニハ前項ノ書類ノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十四條 農會ノ解散、合併又ハ分割ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條 清算終了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨行政官廳ニ届出ツヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ農會ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出ツヘシ

一 役員ノ選任又ハ解任アリタルトキ
二 清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第三十七條 町村農會、市農會、郡農會及道府縣農會ヨリ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ地方長官又ハ北海道廳支廳長ハ農林大臣ニ報告スヘシ

一 農會ノ設立、解散、合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキ
二 農會法第三十二條ノ規定ニ依リ會則、收支豫算若ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ又ハ同法第三十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

三 道府縣農會ノ特別議員ヲ任命シタルトキ
前項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ報告書ニ事由書ヲ添附スヘシ

第三十九條 農會法第十二條、第十六條、第二十條、第二十七條、第三十四條、第三十五條、第三十九條及第四十條並ニ稱スルハ町村農會、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、道府縣農會及帝國農會ニ在リテハ農林大臣トス但シ北海道ニ於ケル町村農會ニ在リテハ北海道廳支廳長トス

北海道廳支廳長農會法第十六條ノ認可及第三十四條ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ北海道廳長官ニ經伺スヘシ

農會法第十九條、第二十一條及第三十八條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ町村農會、市農會、郡農會及道府縣農會ニ在リテハ地方長官、帝國農會ニ在リテハ農林大臣トス但シ北海道ニ於ケル町村農會及郡農會ニ在リテハ北海道廳支廳長トス

本則ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年農商務省令第十二號、明治三十五年農商務省令第二十六號及明治三十八年農商務省令第二十四號ハ之ヲ廢止ス

農會ハ當分ノ内從前ノ例ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作成シ地方長官ヲ經テ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

附則 (大正十五年農林省令第十三號)
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長ニ對シ爲シタル申請ハ本令

米穀法

(大正十年四月四日)總、大、農、副署
法律第三十六號 大

沿革 大正一四年三月法律第三十六號改正

ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル米穀法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

米穀法

第一條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條 政府ハ帝國内ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 政府ハ米穀ノ數量又ハ市價調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業

七條、第三十四條、第三十五條、第三十九條及第四十條並ニ稱スルハ町村農會、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、道府縣農會及帝國農會ニ在リテハ農林大臣トス但シ北海道ニ於ケル町村農會ニ在リテハ北海道廳支廳長トス

附則

本則ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年農商務省令第十二號、明治三十五年農商務省令第二十六號及明治三十八年農商務省令第二十四號ハ之ヲ廢止ス

農會ハ當分ノ内從前ノ例ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作成シ地方長官ヲ經テ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

附則

第二章 工業

工場法

(明治四十四年三月二十九日)總、内、農、副署
法律第四十六號 大

沿革 大正一二年三月法律第三十三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場法

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス

一 常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ

二 事業ノ性質危險ナルモノ又ハ衛生上有害ノ虞アルモノ

本法ノ適用ヲ必要トセサル工場ハ勅令ヲ以テ除外スルコトヲ得

第二條 (削除)

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス
主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得
就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス

第四條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 (削除)

第六條 (削除)

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ
前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

コトヲ得ス

第八條 天災事變ノ爲又ハ事變ノ虞アル爲必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ事業ノ種類及地域ヲ限り第三條、第四條及前條ノ規定ノ適用ヲ停止スルコトヲ得
避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ期間ヲ限り第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ、第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ前條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ急速ニ廢敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防タ爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亙ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ行政官廳ニ届出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得
季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割合ヲ超エサル限り就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第九條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ

修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導裝置ニ調整、調査ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其ノ他危險ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十條 工業主ハ十六歳未満ノ者ヲシテ毒藥、劇藥其ノ他有害料品又ハ爆發性發火性若ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務及著シク塵埃、粉末ヲ飛散シ又ハ有害瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務其ノ他危險又ハ衛生上有害ナル場所ニ於ケル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十一條 前二條ニ掲ケタル業務ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム
前條ノ規定ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ病者又ハ産前産後若ハ生兒哺育中ノ女子ノ就業ニ付制限又ハ禁止ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建設物並設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ

就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條 職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得
工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ得

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命

令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス但シ工

業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 本法ニ依リ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ外官立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正五年一月勅令第八號及同年五月第五十六號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

附則 (大正十二年法律第三十三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年六月勅令第百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

本法中十六歲トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歲トス職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法

施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス
前項ノ規定ニ依リ十五歲未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

工場法施行令

(大正五年八月三日) 總、農、大
勅令第九十三號 臣副署

沿革 大正一一年一月勅令第四七一號、一五年六月第一五三號改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ工場法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場法施行令

第一章 通則

第一條 左ニ掲クル事業ノミヲ營ム工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 寒天、凍蒟蒻、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ麩ノ製造
- 二 行李、簾、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、篾、竹、竹ノ皮、經木、蓆、莖又ハ藁ノ手工品ノ製造
- 三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製
- 四 「アタン」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモノヲ以テスル帽

第十三類 産業、移民 第一編 産業

子其ノ他ノモノノ編製

五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トスル玩具又ハ造花ノ製造

七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造

八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類ノ裁縫

九 手工ニ依ル組紐ノ編製

一〇 刺繡、「レース」、「パテンレース」又ハ「ドローンウエー、ク」ノ業

第二條

鑛業法ノ適用ヲ受クル工場ニ付テハ工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條

左ニ掲クル事業ヲ營ム工場ハ工場法第一條第一項第一號ニ該當スルモノトス

- 一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造
- 二 動物ノ剥製
- 三 水銀ヲ用フル計器ノ製造
- 四 水銀唧筒ヲ用フル魔法機ノ製造
- 五 鉛ヲ用フル鑪ノ製造
- 六 珐瑯鐵器又ハ珐瑯藥ノ製造
- 七 塗料、顏料、印刷用インキ又ハ繪具ノ製造
- 八 亞硫酸瓦斯、「クロール」瓦斯又ハ水素瓦斯ヲ用フル事業

九 硫黄ノ精製

- 一〇 「チアン」加里又ハ硝酸鹽ヲ用フル金屬ノ熱處理
- 一一 「フクチス」ノ製造
- 一二 脂肪油ノ精製
- 一三 「ポイル」油ノ製造
- 一四 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造
- 一五 溶劑ヲ用フル護膜製品ノ製造
- 一六 溶劑又ハ「ラパーセメント」ヲ用フル護膜製品ノ貼合
- 一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 一九 溶劑ヲ用フル野草莖ノ捺染
- 二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)
- 二二 溶劑ヲ用フル絆創膏ノ製造
- 二三 「タンニン」酸ノ製造
- 二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工
- 二六 硝化綿ノ製造
- 二七 「コロチウム」ヲ用フル紙捻製品ノ製造

- 二八 「エーテル」ノ製造
- 二九 酒精ノ製造又ハ變性
- 三〇 「ヴィスコーズ」ノ製造
- 三一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三二 鑛油ノ蒸溜、精製又ハ罐詰
- 三三 「アスファルト」ノ精製
- 三四 瀝質物ヲ用フル建築用ノ「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三五 燐寸ノ製造
- 三六 火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 四〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷
- 四一 動力ニ依ル製材
- 四二 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)
- 四三 電球ノ製造
- 四四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉碎
- 四五 金屬、骨、角又ハ貝殻ノ乾燥研磨
- 四六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
- 四七 動力ニ依ル鑛石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
- 四八 電氣用「カーボン」ノ製造
- 四九 石炭瓦斯又ハ骸炭ノ製造

五〇 「カーバイト」ノ製造

- 五一 石灰ノ製造
- 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
- 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
- 五四 製綿
- 五五 麻ノ梳解
- 五六 古綿、落綿、古麻、屑紙、屑綿絲、屑毛又ハ縲纒類ノ選別
- 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
- 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
- 五九 毛髮又ハ羽毛ノ精製
- 六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘ

シ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ
賃金五百四十日分以上
- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ
賃金三百六十日分以上
- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ
賃金百八十日分以上
- 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハサルト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
賃金四十日分以上

第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ

且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分(其ノ金額二十圓ニ滿チサルトキハ二十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年

長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主

二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三 職工死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコ

トヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケタル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ
- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病力職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間
- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間
- 三 試ノ雇傭期間
- 四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セララル手當ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス
前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃

金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 (削除)

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工若ハ第七條第一號第二號ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十ニ日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ己ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲クル期間ハ之ヲ算入セス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

第二十一條 工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信認金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト

二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セララルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セザルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 當時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ
一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
- 二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト
- 三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト
- 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラルルコト

第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 徒弟ノ員數
- 二 徒弟ノ年齡
- 三 指導者ノ資格
- 四 教習ノ事項及期間
- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法
- 八 給與ノ方法
- 九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避け及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰則

第三十三條 工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レンシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條乃至第三十六條 (削除)

附則

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則 (大正十五年勅令第五百十三號)

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年七月一日)

第二條 從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク就業ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以內ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依ル支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間內ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セサル限り本令施行ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

トヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間内ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間内ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

工場法施行規則

(大正五年八月三日 農商務省令第十九號)

沿革 大正一五年六月内務省令第一三號改正
工場法施行規則左ノ通定ム

工場法施行規則

第一條 工場法施行令第一條ノ規定ニ依ル原動機ハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機トス

第二條 工場法第四條及第七條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ同法第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認

可ノ申請又ハ届出ニ付亦同シ

第三條 器械生絲製造ノ業務、紡績ノ業務及地方長官ノ告知シタル工場ニ於ケル輸出絹織物ノ業務ニ付テハ工業主ハ大正二十年八月三十一日ニ至ル間ハ十六歳未満ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得但シ職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 工場法第八條第二項但書ノ規定ニ依リ工業主行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ就業時間ヲ延長シ、十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメ又ハ休日ヲ廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五條

工場法第九條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ附屬スル勢輪、曲柄、連桿、聯桿器、啣子桿、發電機ノ「コンミューター」、轉子、銳利ナル刃物、齒輪、調帶車、車軸、車軸接手又ハ之ニ準スヘキ危險ナル部分ヲ其ノ運轉中ニ掃除、注油、検査又ハ修繕スル業務

二 危險ナル方法ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ調帶、調索ノ取附ケ又ハ取外シヲ爲ス業務

三 汽罐ノ焚火、給水弁、阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱發電機、電動機、發電機ノ抵抗器若ハ變壓器ノ取扱又

ハ高壓電線ノ接続

五 鋸機ニ木材ヲ送給スル業務

六 危險ナル齒輪、調帶車、勢輪、調索ニシテ完全ナル柵圍其ノ他危險豫防裝置ナキモノ又ハ之ニ準スヘキモノニ接近シテ行フ業務

七 完全ナル柵圍其ノ他ノ危險豫防裝置ナキ車軌道、足場其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第六條

工場法第十條ニ掲クル業務ノ範圍左ノ如シ

一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、黃磷、硫化磷、チアン水素酸、「チアンカリウム」、フルオール水素酸、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性ナトロン、石炭酸其ノ他之ニ準スヘキ毒劇性料品ヲ取扱フ業務

二 「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ナトリウム、「エーテル」、石油ベンゼン、「アルコール」、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性ノ料品ヲ取扱フ業務

三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ取扱フ業務

四 火藥、爆藥又ハ火工品ヲ取扱フ場所ニ於ケル業務

五 金屬、礦物、土石、骨、角、櫛、獸毛、棉、麻、藁等ノ塵埃、粉末ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

六 砒素、水銀、黃磷、鉛、チアン水素酸、「フルオール」「アニリン」、「クロム」若ハ「クロール」又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣若ハ瓦斯

又ハ酸性瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

七 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ業務又ハ金屬、礦物、土石類ノ熔融若ハ煨燒ヲ爲ス高熱ノ場所、高熱ノ乾燥室其ノ他之ニ準スヘキ場所ニ於ケル業務

第七條 工場法第十條ノ規定ハ前條第六號及第七號ニ掲クル業務ニ關シ十六歳以上ノ女子ニ付之ヲ適用ス

第八條 工業主ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病
二 癩、肺結核、喉頭結核
三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四 瘧毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
五 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

工業主ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腫鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス
工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業

務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 工業主ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス
工業主ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第九條ノ二 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分以内ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ工業主ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ前二條ニ掲ケル場合ノ外工業主ニ對シ病者又ハ産婦ノ就業ノ制限又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十一條 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ

ヨリ三年間扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ
二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ
三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ
二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ
三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條 (削除)

第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診断又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ
一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與
二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條 職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日

第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲ケル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

一 火災又ハ爆發
二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂
三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂
四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損
五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壞
六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十七條 (削除)

附則

第二十八條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條 本工施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月内ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 工場法施行ノ際十歳以上十二歳未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ届出ツヘシ前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則 (大正十五年内務省令第十三號)
本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(大正十五年七月一日)
本令(様式第二號)改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ十五歳トス
(様式第一號)

第 號 大正 年 月 日交付

社會局又ハ
廳府縣印
官 職 氏 名

工場法第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設

解 雇	雜

職工名簿記載心得

- 一 職工名簿ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
- 二 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 三 各欄ノ位置ハ本様式ニ掲クル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得
- 四 職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十六歳未滿ノ男工ト其ノ他ノ職工トヲ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス
- 五 履歷欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ履歷ノ概略ヲ記載スヘシ職工十六歳未滿ノ者ナル場合ニ於テハ尋常小學校

物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ヲ檢診スヘシト得此ノ場合ニ於テハ其ノ診票ヲ携帶スヘシ

工場法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

堅八センチメートル横十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工場臨檢票」ト記ス

(様式第二號)

入 雇	歴 履	所 住	名 氏	
			男	女
			籍 本	

- 五 ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス
- 六 雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 七 解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 八 職工死亡シタルトキハ本欄ニ其ノ年月日、死亡ノ原因死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ
- 九 雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - イ 女工及十六歳未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニモ就業スル場合ニ於テハ他工場ニ於ケル就業時間(工場法第三條第三項)
 - ロ 職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職工トノ關係及豫告ノ年月日(工場法施行令第十二條但書)
- 十 尙本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス
- 十一 各票作成ノ當務者ハ雜欄其ノ他便宜ノ場所ニ作成ノ年月日ヲ記載シ署名又ハ捺印スヘシ

職工死傷報告

死者	災害ノ原因及發生狀況				被災ノ生シタル部分	其ノ部分ノ速度、大サ等
	氏名	生年月	職務又ハ職名	雇入年月		
氏名	生年月	職務又ハ職名	雇入年月	賃金	被害ノ部位及症狀	死亡ノ日時又ハ休業見込日數
動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項	名	稱	大サ又ハ能力	災害ヲ生シタル部分		
危害豫防裝置ノ狀況						

職工死傷報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ職工死亡シ又ハ療養ノ爲休業二週日以上ヲ要スヘキ見込ノ場合ニ於テハ二通其ノ他ノ場合ニ於テハ一通ヲ差出スヘシ
- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ

- 四 本報告ハ死傷者一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ同一ノ事故ニ依リ數人ノ死傷者ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ中一枚ノ報告ニ詳細記入シテ他ノ報告ニハ其ノ重複スル部分ヲ省略スルコトヲ得
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製糖業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依リ員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ機關室、鍛工場、木工場、乾燥室、原料粉碎室、苛性曹達煮詰釜場、叩解作業室、機關室ト貯炭所トノ間ノ軌道、入渠中ノ修理船何丸ノ足場等)ヲ記入スヘシ
- 十 當日被害者ノ作業開始時刻欄ニハ被害者ノ當日作業ヲ開始シタル時刻ヲ記入スヘシ前日ヨリ引續キ夜業ヲ爲セル場合ニ於テハ前日ノ開始時刻ヲ記入スヘシ
- 十一 死傷者欄中
 - (一) 業務又ハ職名欄ニハ被害者ノ擔當業務又ハ職名(例ヘハ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スヘシ
 - (二) 雇入年月欄ニハ當該工場ニ於テ被害者ヲ雇入レタル年月ヲ記入スヘシ
 - (三) 賃金欄ニハ被害者ノ日給(稼高ノ場合其ノ他收入一定セサル場合ニ於テハ最近ニ於ケル通常一日ノ賃金額)ヲ記入スヘシ
 - (四) 被害ノ部位及症狀欄ニハ例ヘハ頭部打撲、右上膊骨折、左第三指及第四指挫傷、電擊、腹部火傷、瓦斯中毒、窒息等ヲ記載スヘシ
 - (五) 死亡日時又ハ休業見込日數欄ニハ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ日時、生命危篤ノ者ニ付テハ其ノ旨、其ノ他ノ者ニ付テハ治療ノ爲休業シタル日數ト其ノ後ノ休業見込日數トノ合算日數ヲ記入スヘシ
- 十二 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作、操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害力機械又ハ設

備ニ依リテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力、電壓又ハ溫度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ケテ其ノ顛末ニ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ
第二十六條ニ規定セル事故ニ因リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ様式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ

十三 動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

(一) 名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等)ヲ記入スヘシ

(二) 大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何種、幅何種、厚サ何種等)ヲ記入スヘシ

(三) 災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ

(四) 其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ迴轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何種、厚サ何種等ヲ記入スヘシ

十四 危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何種ノ眞鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル様爲シタル危險部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ

十五 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

十六 災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ
(様式第五號)

工場名	工場所在地		工場主又ハ工場管理人	事故發生日時 年 月 日 午前 時 分	事故發生場所
	種 業 類	職 工 數			
	計	男	女		

工場災害事故報告

災害原因				被害者數			災害狀況		
災害ニ因ル作業休止ノ損害	原料、材料、製品等ノ損害	機械、設備等ノ損害	被害建物ノ種類	坪數	損害見積金額	死	傷	狀況設施難避	狀況設施防豫
						性	男		
圓	圓	圓							

工場災害事故報告記載心得

- 一 本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス
- 二 本報告ハ二通差出スヘシ

- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ届出後五年間之ヲ保存スヘシ
- 四 本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ
- 五 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルヲ妨ケス
- 六 工業主又ハ工場管理人欄ニハ届出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ
- 七 事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械修理業、煙火製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ
- 八 職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ
- 九 事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前、熔接作業場、硝化作業室、原料煮熱罐室、鑄込場、脫水作業場等)ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セラルル物品ヲ明示シ得ル名稱(例ヘハ綿花倉庫、石油貯藏庫等)ヲ記入スヘシ
- 十 災害ノ原因及發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

(一) 火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、狀態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ尙消火唧筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

(二) 爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ
 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口径、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付テハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業、操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(三) 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ(直徑厚サ等)、常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

記載スヘシ

(四) 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分(鎖、索、梁又ハ支柱)ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(五) 工場、附屬建設物、煙突、高架槽ノ倒塌ノ場合ニ於テハ倒塌ノ直接原因(風、地震等)、被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

(六) 五人以上ノ負傷者(職工以外ヲ含ム)ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ從ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ舉ケ其ノ顛末ヲ記載スヘシ

十一 前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ
 十二 死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ
 十三 災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其ノ種類別ニ(例ヘハ木造二階建、石造平家建、木骨亞鉛引鐵板張平家建等)、坪數(延坪)及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ因ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四 豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消火防火ノ施設(例ヘハ自働撒水裝置、消火唧筒消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戸等)ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ墻壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ

十五 避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ
 十六 災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

工業労働者最低年齢法

(大正十二年三月三十日) 總、内、農、通、法律第三十四號) 大臣副署

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル工業労働者最低年齢法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業労働者最低年齢法

- 第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ
- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
 - 二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業(造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム)
 - 三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事
 - 四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク
 - 五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱
- 第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミ使用スル事業又ハ

行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

- 第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
- 第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其代理者ニ對シ無償ニシテ證明ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス
- 第九條 使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其

ノ他ノ僱業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スル者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十五年六月勅令第五百五十二號) 昭和七年七月一日ヨリ施行

工業労働者最低年齢法施行規則

(大正十五年六月七日) 内務省令第十四號

工業労働者最低年齢法施行規則

工業労働者最低年齢法施行規則

第一條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ) 鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第十三條 産業、労働、警察 第一編 産業

第二條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

附則

本令ハ工業労働者最低年齢法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十五年七月一日)

工業労働者最低年齢法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歳以上十四歳未満ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ怠リタル者又ハ其ノ届書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第 號

大正 年 月 日交付

社會局、廳府縣又ハ鑛山監督局印
官 職 氏 名

工業労働者最低年齢法第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

工業労働者最低年齢法第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

堅八センチメートル横十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工業臨檢票」ト記ス

第三章 商業

●商工會議所法

(昭和二年四月五日)總、商、朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商工會議所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商工會議所法

第一條 商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的ト

ス

第二條 商工會議所ハ法人トス

第三條 商工會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ商工業ノ狀況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ町ノ區域ニ依ルコトヲ得特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得

第四條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ第十二條第一號ノ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ者三十人以上發起人ト爲リ其ノ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 商工會議所ハ前條ノ設立ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス

商工會議所成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱、地區及事務所ノ所在地
- 二 議員ノ定數並ニ其ノ選舉及選定ニ關スル規定
- 三 役員ノ定數、權限及選任ニ關スル規定
- 四 會議ニ關スル規定
- 五 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 六 庶務及會計ニ關スル規定

第七條 商工會議所ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 商工業ニ關スル通報
- 二 商工業ニ關スル仲介又ハ斡旋
- 三 商工業ニ關スル調停又ハ仲裁
- 四 商工業ニ關スル證明又ハ鑑定
- 五 商工業ニ關スル統計ノ調査及編纂
- 六 商工業ニ關スル營造物ノ設置及管理
- 七 其ノ他商工業ノ改善發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第八條 商工會議所ハ商工業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

商工會議所ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

商工會議所ニ商業部及工業部ヲ置ク場合ニ於テハ部ハ定款ノ定ムル所ニ依リ各前二項ノ建議又ハ答申ヲ爲スコトヲ得

第九條 行政官廳ハ商工會議所ニ對シ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第十條 商工會議所ハ商工業者ニ對シ商工業ニ關スル統計其ノ他ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 商工會議所ニ議員總會ヲ置ク

第十二條 議員總會ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 第十四條乃至第十八條ノ規定ニ依リ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉シタル議員
- 二 地區内ノ重要商工業ヲ代表セシムル爲第十九條ノ規定

ニ依リ選定シタル議員

第十三條 議員ノ定數ハ五十人以内トシ前條第二號ノ議員ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一トス但シ地方ノ狀況ニ依リ其ノ割合ヲ五分ノ一未滿トスルコトヲ妨ケス

同一商工會議所ニ於テ前條第一號ノ議員ト同條第二號ノ議員トヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十四條 左ノ條件ヲ具フル者ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有ス

- 一 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ナルコト但シ會社ニ在リテハ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民(帝國法令ニ依リ設立シタル法人ヲ含ム)ニ屬スルモノタルコトヲ要ス
- 二 商工會議所ノ地區内ニ於テ引續キ二年以上本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スルコト
- 三 自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鑛業權者ニシテ商工會議所ノ地區内ニ於テ營業收益稅取引所營業稅又ハ鑛山稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項第三號ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス

會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資カ命令ノ定ムル金

額以上ナル場合ニ於テハ第一項第三號ノ納税ニ關スル條件ヲ具ヘサルトキト雖モ第一項ノ選舉權ヲ有ス
家督相續ヲ爲シタル者ニ付テハ第一項ノ選舉權ニ關スル條件ニシテ被相續人ノ具備シタルモノハ之ヲ其ノ者ノ具備シタルモノト看做ス
合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ選舉權ヲ有セ

一 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

二 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十六條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ其ノ被選舉權ヲ有ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ被選舉權ヲ有セ

一 禁治産者及準禁治産者

二 女子及年齢三十歳未満ノ者

第十八條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行

投票ハ一人一票ニ限ル

投票ハ選舉人自ラ之ヲ行フ但シ會社及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ單記投票又ハ五人以内ノ連名投票ノ方法ニ依ル選舉ハ選舉人ヲ二級ニ分チテ之ヲ行フコトヲ得

第十九條 第十二條第二號ノ議員ハ地區内ノ重要商工業一業種ニ付各一人トス

第二十條 議員タル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ代表者ト

八 第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ノ停止

九 商工會議所ノ解散

十 日本商工會議所設立ノ同意

十一 其ノ他重要ナル事項

第二十二條 議員ハ名譽職トス

第二十三條 議員ノ任期ハ四年トス

第二十四條 第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ被選舉權ヲ有セタルニ至リタル者ハ其ノ職ヲ失フ但シ納税ニ關スル條件ヲ失ヒタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 左ノ事項ハ議員總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

一 定款ノ變更

二 經費ノ豫算及賦課徵收方法

三 事業報告及收支決算ノ承認

四 借入金

五 顧問ノ選任又ハ解任

六 議員又ハ役員ノ解任

七 過怠金ノ賦課

第二十六條 議員總會ハ會頭之ヲ招集ス

第二十七條 商工會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人
副會頭 一人又ハ二人
會頭ハ商工會議所ヲ代表シ所務ヲ總理ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理

ス

會頭及副會頭ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十八條 役員ハ議員總會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選任ス

第二十九條 役員ノ任期ハ四年トス
前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

第三十條 役員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ役員ノ職ヲ失フ

第三十一條 議員タル會社役員ニ選任セラレタル後第二十條第一項ノ規定ニ依ル其ノ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ會社ハ役員ノ職ヲ失フ

第三十二條 役員ノ職務終了シタル場合ニ於テ所務ノ遂行ニ支障ヲ生スル虞アルトキハ退職シタル役員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ後任者ノ就職スル迄引續キ仍其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第三十三條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事項ニ付諮問ヲ爲ス爲議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル員數ノ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ商工業ニ關スル學識經驗アル者又ハ十年以上議員トシテ功勞顯著ナル者ヨリ之ヲ選任ス
顧問ハ名譽職トス

第三十四條 商工會議所ニ理事一人ヲ置ク

依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條 商工會議所ハ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條 商工會議所ハ經費ヲ滯納シタル者ニ對シ其ノ滯納中、前條ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ニ對シ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第四十二條 商工會議所ハ收支決算ヲ主務大臣ニ報告スヘシ
商工會議所ハ少クモ毎年一回其ノ事業成績ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第四十三條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第四十四條 商工會議所解散シタルトキハ議員總會ニ於テ清算人ヲ選任スヘシ清算人缺ケタルトキ亦同シ

第四十五條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス

第四十六條 清算人ハ商工會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要

四四

理事ハ會頭ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
理事ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十五條 商工會議所ハ必要ニ應シ商業部、工業部又ハ其ノ他ノ部ヲ置クコトヲ得

第三十六條 商工會議所ハ第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第四十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ選舉權ヲ停止セラレタル者ニ對シテハ停止中ト雖モ經費ヲ賦課スルコトヲ得
商工會議所ノ經費賦課ノ額ニ關スル制限及經費賦課ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 商工會議所ノ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第三十八條 經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工會議所ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ

ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十七條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

議員總會前項ノ議決ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

第四十八條 商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十六條及第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 主務大臣必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法又ハ清算及財産處分ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十二條第一號ノ議員ノ選舉法令又ハ定款ニ違反スルトキハ主務大臣ハ選舉又ハ當選ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 商工會議所ノ議決又ハ議員、役員若ハ清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 議員、役員又ハ清算人ノ解任
- 二 商工會議所ノ議決ノ取消
- 三 商工會議所ノ事業ノ停止
- 四 商工會議所ノ解散

第五十二條 主務大臣ハ不正ノ行為アリタルニ因リ第五十條ノ規定ニ基キ當選ヲ取消サレタル者又ハ前條第一號ノ規定ニ依リ解任セラレタル議員若ハ役員ニ對シ取消又ハ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第五十三條 商工會議所ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ日本商工會議所ヲ設立スルコトヲ得

日本商工會議所ハ法人トス

日本商工會議所ヲ設立セントスルトキハ六人以上ノ商工會議所發起人ト爲リ商工會議所總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 日本商工會議所成立シタルトキハ商工會議所ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス

日本商工會議所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル商工會議所ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ加入セシムルコトヲ得

第五十五條 日本商工會議所ニ總會ヲ置ク

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十六條 日本商工會議所ニ常議員會ヲ置ク

常議員會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他

ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

常議員會ハ定款ニ依リ委任セラレタル總會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス但シ定款ノ變更及日本商工會議所ノ解散ノ議決ハ之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 日本商工會議所ノ役員ハ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ會頭又ハ副會頭ニ限リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

日本商工會議所所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中ヨリ選任セラレタル役員其ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ノ職ヲ失ヒタルトキハ日本商工會議所ノ役員ノ職ヲ失フ

第五十八條 日本商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第五十九條 第五條第一項、第六條乃至第十條、第二十條乃至第二十二條、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條第一項、第三十二條乃至第三十五條、第三十六條第三項、第三十八條第三項、第三十九條、第四十條、第四十二條乃至第四十九條及第五十一條ノ規定ハ日本商工會議所ニ之ヲ準用ス

第六十條 主務大臣ハ本法ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第六十一條 第三條及第三十八條中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年十二月勅令第三百七十四號ヲ以テ同三年一月一日ヨリ施行)

商業會議所法ハ之ヲ廢止ス

商業會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商業會議所ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル商工會議所ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付テハ議員ノ選舉又ハ選定ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ施行前ニ於ケル議員ノ選舉ニ關スル事項ハ仍舊法ノ規定ニ依ル

第三項ノ規定ニ於ル商工會議所ニ付テハ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

日本銀行及橫濱正金銀行ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ會社ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

商工會議所法施行令

(昭和二年十二月二十八日)總商、商、(勅令第三百七十五號)大臣副署

朕商工會議所法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商工會議所法施行令

第一條 商工會議所ハ商工會議所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ對シ一年間ノ營業收益稅、取引所營業稅又ハ礦產稅ノ地區内ニ於ケル納稅額ヲ標準トシ左ノ制限内ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得

- 一 營業收益稅 百分ノ二十五
- 二 取引所營業稅 百分ノ十
- 三 礦產稅 百分ノ二十

前項ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス

第二條 會社ニ對スル經費ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス

第三條 商工會議所ハ商工會議所法第十四條第三項ノ規定ニ依リ議員ノ選舉權ヲ有スル會社ニ對シ拂込資本又ハ財產ヲ目的トスル出資ノ金額ヲ標準トシ其ノ萬分ノ一以内ニ於テ定ムル賦課率ニ依リ其ノ經費ヲ賦課スルコトヲ得但シ商工會議所ノ地區外ニモ營業場ヲ有スル會社ニ付テハ別ニ命令ノ定ムル方法ニ依リ地區内ニ於ケル經費賦課ノ標準ト爲スヘキ金額ヲ算出シ經費ヲ賦課ス

第四條 商工會議所法第十四條第一項ノ規定ニ依リ議員ノ選

專權ヲ有スル會社ニシテ同條第三項ノ規定ニ基ク命令ノ定
ムル金額以上ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ヲ有ス
ルモノニ對シテハ第一條ノ規定ニ拘ラス前條ノ例ニ依リ經
費ヲ賦課スルコトヲ妨ケス

第五條 商工會議所ノ經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ
受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル
日ヨリ三十日以内ニ商工會議所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコ
トヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ商工會議所ハ遲滯ナク議
員總會ノ議決ヲ經テ決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘ
シ

異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九
條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 前條ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ
地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴
願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ商工會議所ヨリ
モ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七條 商工會議所法第三十八條第一項ノ處分ヲ受ケタル者
其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不
服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

ケタル日ヨリ三十日以内ニ日本商工會議所ニ對シ異議ノ申
立ヲ爲スコトヲ得

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ異議ノ申立ニ之ヲ準
用ス

第十三條 前條ノ異議ノ申立ニ關スル決定ヲ受ケタル者其ノ
決定ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ
出訴スルコトヲ得

附則

本令ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和三年一月一
日ヨリ施行）

大正五年勅令第七十號ハ之ヲ廢止ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ノ經費ハ次
ノ總選舉ニ至ル迄ノ間商業會議所法ノ規定ニ依リ議員ノ選舉
權ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

前項ノ賦課ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

前二項ノ規定ハ商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會
議所カ同法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナ
ル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス

●商工會議所法施行規則

（昭和二年十二月二十八日）
（商工省令第十三號）

第八條 前二條ニ於テ地方長官トアルハ樺太ニ在リテハ樺太
廳長官トス

第九條 第一條乃至前條ノ規定ハ商工會議所法第四十八條ノ
規定ニ依リ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル
場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ賦課率ハ第一條、第三條又ハ第
四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十條 日本商工會議所ハ商工會議所ニ對シ最近其ノ經費賦
課ノ標準ト爲シタル一年間ノ納稅額ノ總額ヲ標準トシ其ノ
百分ノ一以内ニ於テ定ムル率並ニ最近其ノ經費賦課ノ標準
ト爲シタル拂込資本及財産ヲ目的トスル出資ノ金額ノ總額
ヲ標準トシ其ノ二十萬分ノ一以内ニ於テ定ムル率ニ依リ其
ノ經費ヲ分賦スルコトヲ得但シ定款ノ定ムル所ニ依リ經費
ノ二分ノ一ヲ限り商工會議所ノ前年度ノ豫算額ヲ標準トシ
之ヲ分賦スルコトヲ妨ケス

商工會議所以外ノ所屬團體ニ對スル日本商工會議所ノ經費
分賦ノ方法ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 前條ノ規定ハ商工會議所法第五十九條ノ規定ニ依
リ準用シタル同法第四十八條ノ規定ニ依リ債務ヲ完済スル
ニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スル場合ニ之ヲ準用ス但シ其ノ
分賦スル率ハ前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 日本商工會議所ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ
通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受

商工會議所法施行規則左ノ通定ム

商工會議所法施行規則

第一條 商工會議所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事
項ヲ記載シタル書面ヲ以テ商工會議所法第十二條第一號ノ
議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

一 設立ノ理由

二 地區

三 事業計畫ノ概要

四 一事業年度ノ經費ノ收支概算

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之ヲ
爲スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サントスル場
合ニ於テハ各市町村ニ付少クトモ一人ノ發起人アルコト及
商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者
三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク創立
總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タ
ル事項、日時及場所ヲ商工會議所法第十二條第一號ノ議員
ノ選舉權ヲ有スヘキ者ニ通知スヘシ

第三條 創立總會ニ於ケル議決ハ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サントスル場合ニ於テハ各市町村ニ付其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 創立總會ニ於テハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但シ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本及左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ設立認可申請書ヲ遲滞ナク商工大臣ニ差出スヘシ

- 一 設立ノ理由
- 二 地區
- 三 事業計畫ノ概要
- 四 商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者ノ數
- 五 商工會議所法第十九條第二項ノ規定ニ依リ地區内ノ重要工業ノ種目ヲ定メタル理由
- 六 一事業年度ノ經費ノ收支概算
- 七 町ヲ以テ地區ト爲ストキハ其ノ町ニ於ケル商業ノ狀

況

八 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲ストキハ商工會議所法第三條第二項ノ特別ノ事情

第六條 商工會議所設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ商工大臣ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ所在地ヲ告示ス

第七條 商工會議所設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ六月以内ニ商工會議所法第十二條第一號ノ議員ノ選舉ヲ行フヘシ

第八條 發起人ハ議員ノ選舉及選定ヲ爲シタル後遲滞ナク議員總會ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費及其ノ償却方法ノ承認ヲ求ムヘシ

第九條 商工會議所法第十四條第一項第三號ノ納稅額ヲ左ノ通定ム

商工會議所

商工會議所	營業收益稅 又ハ礦產稅	取引所營業稅
東京市、大阪市ニ事務所ヲ有スルモノ	五十圓	二千圓
京都市、横浜市、神戸市、名古屋市ニ事務所ヲ有スルモノ	三十圓	五百圓
其ノ他ノモノ	十五圓	百圓

第十條 商工會議所法第十四條第一項第三號但書ニ掲ケタル者ニ付テハ商工會議所ノ地區ノ屬スル市町村ニ於テ營業收益稅又ハ礦產稅附加稅賦課ノ歩合ノ定アルトキハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ地區内ニ於ケル納稅額ト看做ス

第十一條 商工會議所法第十四條第三項ノ會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額ヲ左ノ通定ム

商工會議所	金額
東京市、大阪市ニ事務所ヲ有スルモノ	五十萬圓
京都市、横浜市、神戸市、名古屋市ニ事務所ヲ有スルモノ	三十萬圓
其ノ他ノモノ	十萬圓

第十二條 議員ノ當選又ハ選定アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ氏名ヲ、會社ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ツヘシ代表者變更ノ場合亦同シ

商工會議所法第十二條第二號ノ議員ニ付テハ前項ノ届出書中ニ其ノ代表スル重要工業ノ種目ヲモ記載スヘシ

第十三條 役員又ハ顧問ノ選任アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ履歷書ヲ、會社ニ在リテハ其ノ代表者ノ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名又ハ名稱ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 議員、役員又ハ顧問ノ退任アリタルトキハ商工會議所ハ其ノ氏名又ハ名稱及退任ノ事由ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ツヘシ但シ商工大臣ニ於テ解任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 理事ノ選任アリタルトキハ履歷書ヲ添附シ、其ノ退任アリタルトキハ事由ヲ具シ商工會議所ハ其ノ氏名ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 商工會議所ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 商工會議所法施行令第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ經費賦課ノ標準ト爲スヘキ會社ノ拂込資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ金額ハ前年中其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算出ス

第十八條 第十條ノ規定ハ商工會議所法施行令第三條但書ノ經費賦課ノ標準ト爲スヘキ金額ノ算出方法ニ付之ヲ準用ス

第十九條 商工會議所ハ經費負擔義務者ニ對シ其ノ負擔義務ノ發生シタル月ヨリ其ノ消滅シタル月迄ノ月割額ヲ超エテ

經費ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ既ニ徵收シタル經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ還付セサルコトヲ得

事業年度一年ニ滿タサル場合ニ於テハ商工會議所法施行令第一條、第三條及第四條ノ制限ハ其ノ年度ノ開始シタル月ヨリ其ノ終了シタル月迄ノ月割ヲ以テ計算ス

第二十條 商工會議所ハ毎年一月末日迄ニ次年度ノ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ商工大臣ニ申請スヘシ但シ商工會議所ヲ新ニ設立シタル場合ニ於テハ議決アリタル日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十一條 借入金ヲ爲サントスルトキハ商工會議所ハ金額、利率、期間、擔保ノ有無及種別、借入先、借入ヲ必要トスル事由竝ニ償還ノ方法ヲ具シ商工大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十二條 商工會議所ハ毎年七月末日迄ニ前年度ノ收支決算及事業成績ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ
前項ノ届出書ニハ前年度末日現在ニ依リ調製シタル財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第二十三條 商工會議所解散シタルトキハ商工大臣ハ其ノ旨ヲ告示ス
第二十四條 商工會議所ニ於テ清算人ヲ選任シタルトキハ其

ノ履歷書ヲ添附シ認可申請書ヲ遲滯ナク地方長官ニ差出スヘシ

第二十五條 清算人ノ選任ヲ認可シ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ地方長官ハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經ヘシ
前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ議員總會ノ議決ヲ經タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

第二十七條 清算終了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ遲滯ナク商工大臣ニ届出ツヘシ

第二十八條 商工會議所法第二十五條第一項第一號、第四號及第九號ノ議決ニ關スル認可申請書ニハ會議ノ議事録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二十九條 商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リ商工大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
第三十條 日本商工會議所ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第三十一條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證スル書面、定款、創立總會ノ決議錄ノ謄本及左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ日本商工會議所ノ設立認可申請書ヲ遲滯ナク商工大臣ニ差出スヘシ

- 一 設立ノ理由
- 二 事業計畫ノ概要

三 創立費及其ノ償却方法

四 初年度ノ經費ノ豫算及分賦收入方法

五 役員ノ氏名及其ノ履歷、會社役員タルトキハ其ノ名稱竝ニ代表者ノ氏名及其ノ履歷

第三十二條 商工會議所法第五十四條第二項ノ規定ニ依リ法人其ノ他ノ團體ヲ加入セシメントスルトキハ日本商工會議所ハ其ノ團體ノ加入申込書、定款、團體ヲ組織スル者ノ數竝ニ最近ノ事業年度ノ事業成績及經費ノ豫算ヲ記載シタル書面ヲ添附シ認可申請書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

第三十三條 商工會議所法第五十五條第二項ノ規定ニ依リ選定スヘキ者ノ員數ハ商工會議所其ノ他ノ團體ニ付各一名トス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ經費負擔額ニ應シ其ノ員數ヲ三名迄増加スルコトヲ妨ケス

第三十四條 商工會議所ニ關スル規定ハ第一條第三項、第五條、第七條、第八條第一項第二項第四項、第九條乃至第十

二條、第十七條、第十八條及第二十九條ノ規定ヲ除クノ外日本商工會議所ニ之ヲ準用ス但シ第二十四條及第二十五條中地方長官トアルハ之ヲ商工大臣トス

附則
本則ハ商工會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和三年一月一日ヨリ施行）

商業會議所法施行規則ハ之ヲ廢止ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付テハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間議員ノ選舉及經費賦課ニ關スル事項ハ仍從前ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 議員總會ハ商工會議所法第十二條及第十三條ノ規定ニ拘ラス從前ノ規定ニ依ル議員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 二 商工會議所法中第十二條第一號ノ議員トアルハ從前ノ規定ニ依ル議員トス

三 商工會議所法施行前同法第二十九條第一項ノ規定ニ異ル任期ヲ定メタル定款ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス
商業會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル認可其ノ他ノ處分及行爲ハ商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ商工會議所法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

商工會議所法附則第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ハ商工會議

所法施行ノ日ヨリ三月以内ニ定款變更ノ認可ヲ申請スヘシ其ノ認可前ニ於テハ從前ノ定款ハ仍其ノ效力ヲ有ス

取引所法

(明治二十六年三月四日)總、農、法律第五號 大臣副署

沿革 明治三十二年三月法律第五八號、大正三年三月第三三號、一年四月第六〇號、昭和四年三月第二九號改正 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章 取引所ノ設立

- 第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得
- 第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區内ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第四條ノ二 有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ

本法ニ依ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章 取引所ノ組織

- 第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得
- 第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得
- 第八條 取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス
- 第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得
- 第十二條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得但シ物件又ハ銘柄ノ一部ニ付賠償ノ責ニ任セサル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第三章 取引所ノ會員及取引員
- 第十條 取引所ノ取引員トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受ケヘシ
- 第十一條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非

サレハ取引所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス

無能力者、復權セサル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第三二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十一條乃至第二百六十二條第八章第九節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十三號商法第三編第九章、同年法律第一百號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ヲ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ取引員トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ

合名會社、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ其ノ無限責任社員ノ全員カ帝國臣民タルモノ、株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬シ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ノ全員カ帝國臣民タルモノニ非サレハ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス無限責任社員又ハ取締役其ノ

他ノ業務ヲ執行スル役員中前二項ニ該當スル者アル場合亦同シ

第十一條ノ二 會員前條第一項、第二項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脱退ス

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ前條第一項、第二項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脱退セシムルコトヲ得

取引員前條第一項、第三項又ハ第四項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ取引員タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項、第三項若ハ第四項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ

第十一條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハスニ以テ上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大

臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキ免許料ヲ納ムヘシ
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得
第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス
取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許力取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス
株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議スヘシ

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ三箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス
第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員及商議員會

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ

テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十二條ノ二 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十四條ノ二 取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因ル債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス
第二十五條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買

取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所之ニ一箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條 取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各會員又ハ各取引員ノ賣買高ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ二 差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引

員ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第七章 罰則

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ二 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

用ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則 (昭和四年法律第二十九號)

本法ハ昭和四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ爲シタル取引所ニ於ケル賣買取引ハ其ノ賣買取引力完了スルニ至ル迄舊法ノ規定ヲ適用ス

取引所令

(大正十一年七月三十一日)總、農、勅令第三百五十三號 大臣副署

一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者

二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

四 免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適

沿革 大正一二年六月勅令第三二二號、一三年一二月第四六九號
一四年一〇月第三〇四號改正

取引所令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所令

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス
農商務大臣必要ト認ムルトキハ資本金ノ變更又ハ株金ノ拂
込ヲ命スルコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少クトモ
十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得
ス

第二條 會員組織ノ取引所ノ資本金ハ會員ノ贖金ヲ以テ之ニ
充ツ

會員組織ノ取引所ハ營利ノ目的ヲ以テ業務ヲ行フコトヲ得
ス

第三條 取引員ノ免許料ハ三百圓トス

第四條 身元保證金ノ額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ會員
ニ付テハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得ス取引員ニ付テハ其ノ取引
所ノ資本金ノ千分ノ五以上ニシテ農商務大臣ノ指定スル金
額ヲ下ルコトヲ得サルモノトシ其ノ千分ノ五ノ金額カ一萬
圓未滿ナルトキハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス
資本金ノ額カ二千萬圓ヲ超ユルトキハ其ノ超過金額ニ付テ
ハ農商務大臣ハ其ノ定ムル別段ノ率ニ依リ身元保證金ノ額

ヲ指定スルコトヲ得

支所ヲ設クル取引所及取引員ノ營業ノ部類ヲ數個ニ分ツ取
引所ニ在リテハ農商務大臣ハ本支所及部類毎ニ資本金ヲ區
分シテ前二項ノ規定ニ依ル金額ヲ指定スルコトヲ得
身元保證金ハ取引所ノ定ムル所ニ從ヒ有價證券ヲ以テ之ニ
代用スルコトヲ得

農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ有價證券ノ種類又ハ
其ノ代用價格ヲ變更セシムルコトヲ得

取引所身元保證金ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ供託ス
ヘシ

第五條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ賣買手数料ノ率ノ變
更ヲ命スルコトヲ得

第六條 取引所ハ毎日一定ノ時ニ於テ市場ヲ開クヘシ

開市及休業ニ關スル事項ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條 取引所ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ立會ノ停止又ハ
會員若ハ取引員ノ市場ニ於ケル賣買取引ノ差止ヲ爲スコト
ヲ得

第八條 賣買取引ノ期限ハ棉花、綿絲又ハ綿布ニ在リテハ十
二箇月、青豌豆、鶉豆、馬鈴薯澱粉又ハ砂糖ニ在リテハ六
箇月、大豆粕ニ在リテハ五箇月、小麥、大豆、小豆又ハ鍊
肥料ニ在リテハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 賣買取引ハ賣物市場ニ於ケル賣買取引及清算市場ニ

於ケル賣買取引ノ二種トス

第十條 賣物市場ニ於ケル賣買取引ニ在リテハ差金ノ授受ニ
依リ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 有價證券ノ清算市場ニ於ケル賣買取引ニシテ七日
以內ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノニ限
リ受渡其ノ他ノ決済ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ賣買成立
ノ日ヨリ一箇月以內ノカ繰延ヲ爲スコトヲ得

第十二條 取引所ハ清算市場ニ上場セムトスル有價證券ノ各
銘柄ニ付農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ國債證券及地方
債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ會員
又ハ取引員ヲシテ賣買證據金ヲ納メシムヘキコトヲ命スル
コトヲ得

第十四條 清算市場ニ於ケル賣買取引ニ限リ業務規程ノ定ム
ル所ニ依リ標準物ヲ定メ格付受渡ノ方法ヲ用キルコトヲ得
受渡格付表ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十五條 清算市場ニ於ケル賣買取引ノ單位ハ業務規程ノ定
ムル所ニ依ル

前項ノ單位ハ米ニ付テハ百石、株式ニ付テハ十株ヲ下ルコ
トヲ得ス但シ米ニ付テノ單位ニ關シテハ地方ノ狀況ニ依リ
特別ノ必要アル場合ニ限リ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

取引所賣物市場ニ於ケル賣買取引ノ單位ヲ定メムトスルト
キハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ハ業務規程ノ定ムル
所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

受渡其ノ他ノ決済及其ノ繰延ニ關スル事務ハ取引所自ラ之
ヲ行フヘシ

受渡場所ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十七條 取引所ハ業務規程ヲ設ケ賣買取引ノ方法ニ關スル
細則ヲ定ムヘシ

業務規程ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
農商務大臣必要ト認ムルトキハ業務規程ノ變更ヲ命スルコ
トヲ得

第十八條 株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ二十分ノ一ニ相
當スル營業保證金ヲ供託シタル後ニ非サレハ取引所法第二
十二條ノ規定ニ依ル業務ヲ行フコトヲ得ス營業保證金ニ不
足ヲ生シ農商務大臣ノ指定シタル期間內ニ其ノ不足額ヲ供
託セサル場合ニ於テ其ノ期間經過後ニ爲ス賣買取引ニ付亦
同シ

營業保證金ハ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其ノ種

類及代用價格ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十九條 取引所ハ商議員會ヲ常置シ左ニ掲クル事項ヲ諮問スルコトヲ要ス

- 一 資本金、會員、取引員、商議員會又ハ賣買取引ニ關スル定款ノ變更
 - 二 業務規程ノ變更
 - 三 會員又ハ取引員ノ加入又ハ處分
 - 四 市場ノ臨時閉閉又ハ立會停止
 - 五 上場物件ノ銘柄ノ決定又ハ廢止
 - 六 賣買取引ノ標準物ノ決定又ハ廢止
 - 七 賣買手數料ニ關スル事項
 - 八 賣買證據金ニ關スル事項
 - 九 賣買取引ノ違約ニ關スル事項
 - 十 定款又ハ業務規程ニ於テ特ニ定メタル事項
- 第二十條 商議員會ハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選シタル者及役員ノ互選シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ノ數ハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ總數ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス但シ役員タラサル會員又ハ取引員ノ總數カ百名ヲ超ユルトキハ其ノ超過員數ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ率ヲ定ムルコトヲ得
- 前項ノ商議員ノ數ハ役員ノ互選スル商議員ノ數ヲ下ルコト

ヲ得ス

第二十一條 支所ヲ設クル取引所及會員又ハ取引員ノ營業ノ部類ヲ數個ニ分ツ取引所ニ在リテハ役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ハ本支所及部類毎ニ之ヲ互選スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ數ハ本支所及部類毎ニ役員ノ互選スル商議員ノ數ヲ下ルコトヲ得ス

第二十二條 商議員會ニ會長一人及副會長若干人ヲ置ク會長及副會長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ商議員中ヨリ之ヲ選舉ス

會長ハ會務ヲ整理シ會議ノ議長ト爲ル副會長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

第二十三條 商議員會ノ議事ハ議事ニ關與スルコトヲ得ル商議員ノ過半數カ出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス但シ第十九條第三號、第四號、第八號及第九號ニ掲クル事項ニシテ臨時急施ヲ要スルモノニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ商議員ノ互選スル總代ノ過半數及議長タル會長又ハ副會長ノ出席アルヲ以テ足ル

第二十四條 商議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 役員タラサル會員又ハ取引員ノ互選スル商議員ハ其ノ屬スル本支所及部類ニ關係ナキ事項ニ付テハ議事ニ

關與スルコトヲ得ス議長トシテ行フ職務ニ付亦同シ

第二十六條 商議員ノ任期、選舉方法及定數其ノ他商議員會ノ組織及會議ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年三月三十一日迄ニ爲ス有價證券ノ賣買取引ノ期限ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

取引所ハ本令施行後一箇月以内ニ本令ニ依リ業務規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル營業細則ハ前項ノ認可ヲ受クル迄本令ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル業務規程ト看做ス

本令施行ノ際現ニ定期取引市場ニ上場スル有價證券ノ銘柄ハ本令第十二條ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

取引所法施行規則

(大正三年六月二十九日 農商務省令第十六號)

沿革 大正十一年七月農商務省令第一五號、一四年四月商工省令第三號改正

取引所法施行規則左ノ通改正ス

第十三類 産業、移民 第一編 産業

取引所法施行規則

第一條 取引所ヲ設立セムトスルトキハ發起人ハ發起認可申請書ニ定款、業務規程及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 株式會社組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數、會員組織ノ取引所ニ付テハ發起人各自ノ贖金額

二 資本又ハ贖金ノ使用ノ概算及收支ノ見込

三 賣買取引スヘキ物件ノ其ノ地方ニ於ケル集散ノ狀況及取引所ニ於ケル賣買高ノ見込

四 取引所ノ地區

第二條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ商法第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後、發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ後總役員ハ設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 定款及業務規程

二 株主名簿

三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其ノ決定ノ寫本

四 創立總會ノ決議錄

第三條 發起人會員ノ募集ヲ終リタルトキハ設立總會ヲ開キ

總會員ノ半數以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選任スヘシ

前項ニ依リテ選任セラレタル總役員ハ設立免計申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

一 定款及業務規程
二 會員ノ氏名又ハ名稱、營業種目及營業所ヲ記載シタル書面

三 各會員ノ贖金額及其ノ拂込額ヲ記載シタル書面

第四條 取引所ヲ設立セムトスル地ニ於テ一年以上引續キ賣買取引スヘキ物件ノ商業ヲ營ム商人各物件毎ニ三十人以上發起人ト爲リタル場合ニ非サレハ取引所發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第五條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱及所在地
- 三 會員ノ贖金ニ關スル事項
- 四 會員ノ入退ニ關スル事項
- 五 會計ニ關スル事項
- 六 會議ニ關スル事項
- 七 役員ノ職務權限、定數、任期及任免ニ關スル事項
- 八 解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ處分ニ關スル事項

第六條 設立免許ノ申請ハ發起ノ認可ヲ受ケタル後六月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

設立ノ免許ヲ受ケタル後一年内ニ業務ヲ開始セサルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 取引所繼續ヲ出願セムトスルトキハ其ノ免許年限滿了前三月以上六月内ニ地方長官ヲ經由シテ其ノ願書ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

第七條ノ二 商工大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第七條ノ三 商工大臣ハ會員組織ノ取引所ニ付左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 設立ヲ免許シタルトキハ目的、名稱、所在地及免許ノ年月日

二 役員ノ選任ヲ認可シタルトキハ氏名及認可ノ年月日

三 繼續ヲ免許シタルトキハ免許ノ年月日

四 解散シタルトキハ其ノ年月日及清算人ノ氏名

五 清算力結了シタルトキハ其ノ年月日

第八條 取引員ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ會社ニ在リテハ定款、貸借對照表、財産目錄、株主名簿及役員ノ履歷書ヲ、其ノ他ノモノニ在リテハ履歷書及資産調査ヲ添附シ取引所ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ
取引所ハ前項ノ願書ニ其ノ意見書ヲ添附スヘシ

取引所其ノ取引員ノ員數ヲ制限シタルトキハ缺員アル場合ニ非サレハ第一項ノ願書ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ得ス

第九條 取引所取引員免許狀ヲ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ免許料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ
取引員ノ免許ヲ出願シタル者取引所カ免許狀ヲ送付ヲ受ケタル日ヨリ十五日内ニ請書及身元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第十條 取引員免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ取引所ヲ經由シテ其ノ再下付ヲ申請スヘシ
取引員其ノ氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ取引所ヲ經由シテ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第十一條 取引員死亡、解散、廢業、除名其ノ他ノ事由ニ因リ取引員タル資格ヲ失ヒタルトキハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ免許狀ヲ添ヘ之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 取引所カ會員又ハ取引員ノ身元保證金及賣買證據金ニ代用スルコトヲ得ヘキ有價證券ノ種類及代用價格ヲ決定シ又ハ變更シタルトキハ其ノ有價證券ノ時價ヲ附記シ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ代用價格ハ國債證券及地方債證券ニ在リテハ時價以下ニ、其ノ他ノ有價證券ニ在リテハ時價ノ九割以下ニ之ヲ

定ムヘシ其ノ有價證券ノ時價カ代用價格ヲ下リタルトキハ遲滞ナク之ヲ變更スヘシ

第十二條 役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ但シ再選ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 取引所清算市場ニ於ケル賣買取引ノ標準物ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ一部ヲ商工大臣ニ差出シ其ノ一部ヲ會員又ハ取引員ニ交付シ之ヲ其ノ營業所ニ保管セシムヘシ

前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル賣買取引ノ受渡期日後六箇月ヲ經過スル迄取引所之ヲ保管スヘシ

第十四條 取引所ハ其ノ取引銀行、所有有價證券ノ種類其ノ他財産保管ノ方法ヲ定メ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ
商工大臣必要ト認ムルトキハ前項保管方法ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 會員又ハ取引員ハ委託手数料率及委託契約準則ヲ定メ取引所ヲ經由シテ商工大臣ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

取引所ハ前項ノ認可申請書ニ其ノ意見書ヲ添付スヘシ
商工大臣必要ト認ムルトキハ委託手数料率又ハ委託契約準則ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 取引所法第二十五條第二項ニ依ル處分ハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 取引所法第八條及第二十二條ノ規定ニ依ル業務ニ

關スル細則ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 賣買成立ノ値段ヲ以テ公定相場トス

取引所ハ公定相場及其ノ平均値段ヲ毎日市場ニ公示スヘシ

取引所ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ公定相場ノ一部ヲ公示セサ

ルコトヲ得

第十九條 取引所ハ毎日相場表ヲ發行スヘシ

第二十條 各會員又ハ各取引員ノ賣買高ハ賣買取引ノ種類、

物件若ハ銘柄及受渡期日ノ區別ニ從ヒ賣付及買付ニ別チ毎

日取引所之ヲ揭示スヘシ

商工大臣ハ賣買高ノ公示方法ノ變更ヲ命シ又ハ其ノ公示ヲ

要セサル銘柄若ハ賣買取引ノ種類ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 取引所其ノ受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ヲ選任シタ

ルトキハ遲滞ナク履歷書ヲ添附シ左ノ事項ヲ申告スヘシ

一 氏名、住所、職業

二 報酬

三 在職期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間

受渡物件ノ格付ヲ爲ス者退任シタルトキハ取引所ハ遲滞ナ

ク其ノ旨ヲ申告スヘシ

取引所ハ其ノ物件ヲ取引スル取引所ノ會員又ハ取引員ヲシ

テ受渡物件ノ格付ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十二條 取引所ハ左ノ書類ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ商工大

臣ニ差出スヘシ

一 相場表

二 賣買高表

三 毎期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告

書

四 毎期末日現在株主及其ノ持株

五 毎期末日現在取引員又ハ會員表

前項第一號及第二號ノ書類ハ實物市場ニ於ケル賣買取引及

七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲ス清算市場ニ於ケル賣買

取引ニ付テハ毎月末日其ノ他ノ賣買取引ニ付テハ每受渡期

日ニ之ヲ作成スヘシ

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ取引所ハ遲滞ナク其ノ事項ヲ

商工大臣ニ報告スヘシ

一 取引所其ノ會員又ハ取引員ニ付取引所法第十一條ノ二

第二項若ハ第四項又ハ第十五條ノ二第二項ニ掲ケタル

事由アリト認メタルトキ

二 取引所法第十五條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキ

三 賣買取引ノ違約ヲ生シタルトキ及其ノ賠償ヲ爲シタル

トキ

四 臨時ニ市場ヲ開始シ又ハ休止シタルトキ

五 有價證券ノ賣買取引ヲ開始、中止又ハ廢止シタルトキ

六 市場ノ立會ヲ停止シ又ハ會員若ハ取引員ノ賣買取引ヲ

差止メタルトキ

七 仲裁判斷ヲ爲シタルトキ

八 役員其ノ任期中ニ於テ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ退任シ

タルトキ但シ解職ノ場合ヲ除ク

九 取引所、役員又ハ會員若ハ取引員カ其ノ職務又ハ業務

ニ關シ訴訟ノ當事者ト爲リタルトキ及其ノ判決アリタ

ルトキ

十 會員又ハ取引員カ國稅徵收法ニ依リ滯納處分ヲ受ケタ

ルトキ若ハ間接國稅犯則者處分法ニ依リ處分ヲ受ケタ

ルトキ

十一 取引所ノ役員、受渡物件ノ格付ヲ爲ス者又ハ會員若

ハ取引員カ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ起訴セラレタルトキ

十二 株式會社組織ノ取引所カ商法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲

シタルトキ

十三 會員カ入退シタルトキ

十四 會員又ハ取引員タル會社ノ目的、資本金若ハ無限責

任社員、取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員ニ變更アリ

タルトキ

十五 商議員就任又ハ退任シタルトキ

十六 商議員會ニ於テ決議ヲ爲シタルトキ

商工大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ外報告スヘキ事項ヲ指

定スルコトアルヘシ

附則

第二十四條 本則ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 明治三十二年農商務省令第十八號、明治三十五

年農商務省令第十一號及明治三十九年農商務省令第三十三

號ハ之ヲ廢止ス

○大正十一年農商務省令第十五號附則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ農商務大臣ニ差出シタル仲買人免許ノ願書ハ本

令ノ規定ニ依リテ差出シタル取引員免許ノ願書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ身元保證金又ハ賣買證據金ノ納入ニ付有價

證券ヲ以テ代用セシムル取引所ニ在リテハ其ノ代用價格ハ本

令施行後二月内ニ本令ノ規定ニ依リ之ヲ變更スヘシ其ノ變更

ヲ爲ス迄仍從前ノ例ニ依ル

會員又ハ取引員ハ本令施行後二月内ニ第十五條ノ規定ニ依ル

認可ヲ申請スヘシ其ノ認可ヲ受クル迄仍從前ノ例ニ依ル

銀行法

(昭和二年三月三十日)總、大、
法律第二十一號)大臣副署

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

銀行法

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ銀行トス

- 一 預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セ爲スコト
- 二 爲替取引ヲ爲スコト
- 營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス
- 第二條 銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營業ムコトヲ得ス
- 第三條 銀行業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營業ムコトヲ得ス但シ勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ指定アリタル場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ニシテ資本金二百萬圓未滿ノモノハ指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金ニ依ラサルコトヲ得
- 第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用フヘシ銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス
- 第五條 銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ミ又ハ保護預リ其ノ他ノ銀行業ニ附隨スル業務ヲ營業ムノ外他ノ業務ヲ營業ムコトヲ得ス
- 第六條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 商號ヲ變更セントスルトキ
 - 二 資本金ヲ變更セントスルトキ

- 三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ
- 四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ
- 五 支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セントスルトキ
- 第七條 銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス
- 銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス
- 第八條 銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
- 第九條 銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス
- 第十條 銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 第十一條 銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ
- 第十二條 銀行ノ監督役ハ銀行ノ業務及財産ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監督書ヲ每營業年度二回作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クヘシ
- 第十三條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人カ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第十四條 銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第十五條 銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スヘキ催告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セス
- 第十六條 銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書ノ期間ニ付亦同シ
- 第十七條 銀行カ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限り之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス
- 貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十八條 銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハルル一般ノ休日ニ限ル
- 銀行カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十九條 銀行カ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大臣ニ届出ツヘシ
- 第二十條 主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ其ノ業務ニ關ス

- ル報告ヲ爲サシメ又ハ監督書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得
- 第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得
- 第二十二條 主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第二十三條 銀行カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監督役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第二十四條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命セラレタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第二十五條 銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第二十六條 銀行カ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營業ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ銀行ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社カ預金債務ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ銀行ニ非サル會社カ銀行ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同シ
- 第二十條及第二十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 銀行ノ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ選任ス其ノ清算人ノ解任亦同シ

第二十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條 裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託ヲ命シ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十一條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行カ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ

適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第六條、第八條、第十二條乃至第十七條、第二十五條及第二十七條乃至前條ノ規定ニ拘ラス命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第一項ノ免許ニ付テハ主務大臣ハ特ニ必要ナル制限ヲ附スルコトヲ得

第三十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虚偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隠蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

一 第五條乃至第八條又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十七條ニ於テ準用スル貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依リ銀行ニ備ヘ置クヘキ書類ノ備付若ハ主務大臣ニ提出スヘキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 本法ニ定メタル届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不實ノ届出若ハ公告ヲ爲シタルトキ

五 第二十二條、第二十三條、第二十六條又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ主務大臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

六 本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第三十六條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年一月勅令第三百二十六號ヲ以テ同年一月一日ヨリ施行)

第三十九條 銀行條例ハ之ヲ廢止ス
舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行ニシテ本法施行ノ

際現ニ存スルモノハ第四十條及第四十一條ノ定ムル制限ニ從ヒ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十條 前條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノハ本法施行後五年ヲ限り仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

商法施行前ニ設立シタル合資會社ニシテ舊法ニ依リ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行カ本法施行後五年内ニ其ノ組織ヲ變更シ又ハ合併ニ因リ株式會社ト爲リタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス

第四十一條 第三十九條第二項ノ銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限り第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セス第三十九條第二項ノ銀行ノ合併ニ因リテ設立シタル銀行ノ資本金ニ付亦同シ

命令ヲ以テ定ムル人口一萬未滿ノ地ニ本法施行ノ際現ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ本法施行後五年内ニ五十萬圓以上ト爲スコトヲ要ス

第四十二條 本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用ヒサルモノ及銀行ニ非スシテ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルモノニ付テハ本法施行後六月ヲ限リ第四條ノ規定ヲ適用セス

第四十三條 本法施行ノ際現ニ第五條ノ業務以外ノ業務ヲ營ム銀行ハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第四十四條 第三十九條第二項ノ銀行ノ本法施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行後一年內ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ存續スルコトヲ得ス
前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月內ニ主務大臣ニ提出スヘシ

第四十五條 本法施行ノ際現ニ銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第四十六條 第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十七條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノニ付テハ其

ノ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員)ニ之ヲ準用ス

銀行法施行細則

(昭和二年十一月十七日)
大藏省令第三十一號

沿革 昭和三年七月大藏省令第九號改正

銀行法施行細則左ノ通定ム

銀行法施行細則

- 第一條 銀行業ヲ營マントスル株式會社ハ免許申請書ニ總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
 - 一 定款
 - 二 株式ノ引受ヲ證スルニ足ル書面
 - 三 株式申込證ノ雛形並ニ株式申込人ノ氏名又ハ商號、住所及申込株式數ヲ記載セル書面
 - 四 取締役及監査役又ハ検査役ノ調査報告書及其ノ附屬書類
 - 五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其ノ謄本
 - 六 發起人カ取締役及監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類
 - 七 創立總會ノ決議錄
 - 八 會社設立ノ際ニ設置スル支店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ記載シタル書面

九 免許申請前日ニ於ケル日計表

十 預ケ先ノ預金證明書

株式會社カ其ノ目的ヲ變更シテ銀行業ヲ營マントスル場合ニ於ケル免許申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 定款
- 二 會社登記簿ノ謄本
- 三 認可申請前日ニ於ケル日計表
- 四 免許申請ノ際現ニ存スル取引ノ性質ヲ知ルニ足ル書面
- 五 最終ノ財産目録及貸借對照表
- 六 最終ノ損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書面
- 七 株主ノ氏名又ハ商號及其ノ持株數ヲ記載シタル書面
- 八 支店其ノ他ノ營業所ヲ有、ル者ニ在リテハ其ノ位置ヲ記載シタル書面

第二條 銀行カ營業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ業務ヲ開始セサルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ但シ己ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銀行カ業務ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第四條 銀行カ銀行法第六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 理由書

二 認可ヲ受クル事項ニシテ定款ノ變更ヲ伴フ場合ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄

三 資本金ヲ減少スル場合ニハ第十二條第四號及第五號ニ掲ケタル書類

四 資本金ヲ増加シ又ハ支店ヲ設置スル場合ニハ最近ノ日計表

五 代理店ヲ設置スル場合ニハ代理店契約書

第五條 銀行カ資本金ノ變更又ハ支店其ノ他ノ營業所若ハ代理店ノ設置ニ付認可ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ之ヲ實行セサルトキハ其ノ認可ハ效力ヲ失フ但シ己ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 銀行ノ本店及支店以外ノ營業所ニハ出張所ナル名稱ヲ附スヘシ

第七條 代理店設置ノ認可ハ代理店ノ位置ニ變更アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ己ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 銀行法第十條ノ規定ニ依ル業務報告書ハ營業報告書、貸借對照表、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關ス

ル書面並ニ支拂準備ニ關スル明細書ニ分チ附屬雛形ニ依リテ之ヲ作成スヘシ

前項ノ業務報告書ハ營業年度經過後一月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ豫メ大藏大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ之カ提出ヲ延期スルコトヲ得

第九條 銀行カ公告スヘキ貸借對照表ハ大藏大臣ニ提出スル業務報告書ノ一部タル貸借對照表ト同一ノ様式ニ依ルヘシ前項ノ貸借對照表ニハ取締役及監査役全員ノ氏名ヲ附記スヘシ

第十條 銀行法第十二條ノ規定ニ依ル監査書ハ毎年一月ヨリ三月迄、四月ヨリ六月迄、七月ヨリ九月迄及十月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル業務及財産ノ狀況ニ關シ調査シタル結果ヲ附屬雛形ニ依リテ記載作成シ各期間經過後一月内ニ之ヲ本店ニ備ヘ置クヘシ但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ期間内ニ監査書ヲ作成備ヘ置クコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ監査書ニ附記スヘシ

第十一條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人カ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 理由書
- 二 履歷書
- 三 銀行及常務ニ從事セントスル他ノ會社ニ於ケル常務ノ

處理方法ヲ記載シタル書面

- 四 常務ニ從事セントスル他ノ會社ノ定款、最終ノ營業報告書、財産目錄、貸借對照表、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書面其ノ他最近ニ於ケル業務、財産及損益ノ狀況ヲ知ルニ足ル書面
- 五 銀行ト常務ニ從事セントスル他ノ會社トノ取引其ノ他ノ關係ヲ記載シタル書面

第十二條 銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ規定ニ依ル手續ヲ了シタル後銀行ノ總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 株主總會ノ決議録及社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面
- 二 合併ニ關スル契約書
- 三 合併後存續スル銀行又ハ合併ニ因リ設立スル銀行ノ定款
- 四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表
- 五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告、催告及商法第二百二十條ノ二ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面

第十三條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時三十分迄

トス但シ土曜日ニ限り之ヲ午十二時迄短縮スルコトヲ得

前項ノ營業時間ハ營業ノ都合ニ依リ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第十四條 銀行カ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ銀行法第十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル後遲滞ナク左ノ書類ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 預金拂戻停止前日ノ日計表及各種預金ノ口數ヲ記載シタル書面
- 二 預金ノ拂戻ヲ停止スルニ至リタル經過ヲ記載シタル書面
- 三 資産負債ノ實情ヲ明ニシタル書面
- 四 預金拂戻ニ關シ執ラントスル處置又ハ方針ヲ記載シタル書面

第十五條 銀行カ銀行業ノ廢止又ハ解散ノ決議ヲ爲シタルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 理由書
- 二 株主總會ノ決議録
- 三 最近ノ日計表
- 四 資産負債ノ内容ヲ明ニシタル書面
- 五 預金ノ支拂方法ヲ記載シタル書面

第十六條 銀行カ支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ廢止シタ

ルトキハ廢止ノ年月日、廢止ノ理由及預金者ニ對スル處置ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

- 一 定款ヲ變更シタルトキ
- 二 銀行法第六條及第十四條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ實行シタルトキ
- 三 銀行ヲ代表スル取締役又ハ銀行ノ常務ニ從事スル取締役若ハ支配人ノ就任又ハ退任アリタルトキ
- 四 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スルモノカ該會社ノ常務ニ從事セサルニ至リタルトキ
- 五 代理店契約ノ變更、消滅又ハ更新アリタルトキ
- 六 預金拂戻停止中ノ銀行カ預金ノ拂戻ヲ開始シタルトキ
- 七 和議開始ノ申立ヲ爲シ、和議認可ノ決定カ確定シ又ハ和議カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 八 破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキ
- 九 強制和議認可ノ決定カ確定シ又ハ強制和議カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 十 會社合併ノ方法ニ依ラスシテ他人ノ營業ヲ讓受ケタル

トキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ株主總會ノ決議録、第一號及第五號ノ場合ニ於テハ變更シタル條項ヲ記載シタル書面、第六號ノ場合ニ於テハ預金拂戻開始前日ノ日計表、第七號ノ場合ニ於テハ和議ノ條件ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
銀行法第十八條第二項ノ事由ニ因リ休業シタル銀行カ開業シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 銀行法施行地外ニ本店ヲ有スル會社カ銀行法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスルトキハ其ノ營業所ノ位置並ニ該營業所ニ付定メタル代表者ノ氏名及住所ヲ記載シタル免許申請書ニ會社代表者署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面
二 會社ノ代表者タル資格ヲ證スル書面
三 代理店ヲ設ケタルトキハ代理店契約書
四 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ知ルニ足ル書面
五 營業所ノ設置カ他ノ官廳(外國官廳ヲ含ム)ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書ノ謄本
六 會社ノ最終ノ財産目録、貸借對照表、損益計算書、利益ノ處分ニ關スル書面其ノ他會社ノ營業狀態ヲ知ルニ足ル書面
七 會社ノ重ナル出資者及役員ノ氏名、國籍及住所ヲ記載

遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ
第二十三條 外國銀行カ供託シタル國債又ハ有價證券ノ下戻ヲ受ケントスルトキハ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ
外國銀行カ前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由並ニ國債又ハ有價證券ノ種類、記號、番號、枚數、券面額、拂込額及時價ヲ記載シタル申請書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
第二十四條 第六條ノ規定ハ外國銀行ノ銀行法第三十二條第一項ノ營業所ニ付之ヲ適用セス
第二十五條 銀行法第三十二條ノ銀行ハ銀行法第十條ノ規定ニ依リテ提出スヘキ業務報告書ノ外其ノ營業事業ノ全部ニ關シ本店ニ於テ決算期ニ作成シタル營業報告書、貸借對照表、損益計算書及利益ノ配當ニ關スル書面等ヲ其ノ作成ノ都度遲滞ナク大藏大臣ニ提出スヘシ
第二十六條 昭和二年勅令第三百二十八號第五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
一 理由書
二 定款ノ變更ヲ伴フ場合ニハ株主總會ノ決議録
三 營業所廢止ノ場合ニハ第十五條第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類
第二十七條 第十一條ノ規定ハ昭和二年勅令第三百二十八號第六條ノ規定ニ依リ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第十三類 産業、移民 第一編 産業

シタル書面

前項ノ規定ハ會社ニ非スシテ銀行法施行地外ニ本店ヲ有スルモノカ銀行法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營マントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 外國銀行カ昭和二年勅令第三百二十八號第二條ノ規定ニ依リ供託スヘキ有價證券ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
一 發行者及其ノ住所
二 國債以外ノ公債又ハ社債ニ在リテハ利率並ニ擔保ノ有無及其ノ種類
三 取引所ニ於ケル最近ノ相場其ノ他實價ヲ知ルニ足ル事實

第二十條 昭和二年勅令第三百二十八號第二條ノ規定ニ依リ供託ハ各營業所所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第二十一條 外國銀行ハ昭和二年勅令第三百二十八號第二條ノ規定ニ依リ供託シタル國債又ハ有價證券ノ時價カ營業年度末ニ於テ十萬圓ヲ下ルニ至リタルトキハ營業年度經過後二月内ニ其ノ不足額ニ相當スル金額ノ國債又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ供託スヘシ
第二十二條 外國銀行カ昭和二年勅令第三百二十八號第二條ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ヲ添附シテ

第二十八條 銀行法第三十二條ノ銀行ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ
一 昭和二年勅令第三百二十八號第五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ實行シタルトキ
二 銀行法第三十二條第一項ノ營業所ノ代表者ノ就任又ハ退任アリタルトキ
三 銀行法第三十二條第一項ノ營業所ノ常務ニ從事スル代表者ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スルモノカ該會社ノ常務ニ從事セサルニ至リタルトキ
第二十九條 銀行法、昭和二年勅令第三百二十八號又ハ本令ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルトコトヲ要ス但シ銀行法第二條ノ規定ニ依リ提出ヲ命セラレタル書類及銀行法第二十一條ノ規定ニ依リ檢査ニ關スル書類ハ此ノ限ニ在ラス
第三十條 本令ニ依リ届出若ハ書類ノ提出ヲ怠リ又ハ其ノ届出若ハ提出書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ取締役、監査役、支配人又ハ銀行法第三十二條第一項ノ營業所ノ代表者ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附則
第三十一條 本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十二條 銀行條例施行細則ハ之ヲ廢止ス
舊令ニ依リテ爲シタル申請、認可其ノ他ノ行爲ハ本令中之

第十三類 産業、移民 第一編 産業

ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本令施行ノ際現ニ存スル株式會社以外ノ銀行ニ付テハ本令中取締役トアルハ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員)トシ株主總會ノ決議録トアルハ合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面、商法施行前ニ設立シタル合資會社ニ在リテハ社員總會ノ決議録トシ定款トアルハ商法施行前ニ設立シタル合資會社ニ在リテハ會社契約トス

第三十四條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニシテ舊法ニ依リ營業ノ認可ヲ受ケタル銀行カ其ノ組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル株式會社ト爲ラントスルトキハ認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 理由書

二 定款

三 社員總會ノ決議録

四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表

五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告及催告ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面

第三十五條 第四條ノ規定ハ銀行法第四十四條ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預リ金

二 保護預リ

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ産業組合ノ金銭出納事務ノ取扱

五 公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三十六條 第十五條ノ規定ハ銀行法第四十六條ノ規定ニ依ル認可ノ申請ニ之ヲ準用ス

第三十七條 昭和二年十二月ニ至ル迄ノ銀行ノ業務ニ付テハ舊令附屬雜形ニ準シ業務報告書ヲ作成スヘシ(様式省略)

貯蓄銀行法

(大正十年四月十四日)總、大、法律第七十四號 (大臣副署)

沿革 昭和二年三月法律第二十四號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ

貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ合併ニ因リテ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付

三 不動産ヲ抵當トスル貸付

四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トスル貸付

五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限度トスル貸付

六 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

七 銀行引受手形ノ買入

前項ニ規定スル社債及株式ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預ケ金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條第一項第三號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ニ規定スル受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲ケル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付テ之ヲ準用ス

第十五條 貯蓄銀行カ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依ル契約ニ基ク銀行ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二一年間仍存續ス

第十六條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
- 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十七條 (削除)

第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事項ニ付テハ銀行法ニ依ル

銀行法第十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依ル給付金ハ之ヲ預金ト看做ス

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

附則

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年六月勅令第二百八十四號ヲ以テ十一年一月一日ヨリ施行)

第二十四條 貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十五條 前條第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ仍舊法ニ依ル

第二十六條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニシテ現ニ其ノ商號中ニ貯蓄銀行又ハ貯金銀行ナル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商號ヲ用ウルコトヲ得

第二十七條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行カ第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍舊法ニ依ル但シ其ノ期間内ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條第一項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル

第二十八條 本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後三年ヲ限リ仍之ヲ所有スルコトヲ得

本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル株式ニシテ第十二條ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユルモノニ付テハ本法施行後三年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預ケ金及其ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依ル限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十一條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依ル責任ニ付テハ仍舊法

ニ依ル

第三十二條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限り之ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非シテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

貯蓄銀行法施行細則

(大正十年八月五日 大藏省令第二十九號)

沿革 大正十一年三月大藏省令第二十四號、昭和二年一月第三二號改正

貯蓄銀行法施行細則左ノ通定ム

貯蓄銀行法施行細則

- 第一條 貯蓄銀行業ヲ營マムトスル株式會社ハ免許申請書ニ總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
 - 一 定款
 - 二 業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面
 - 三 免許申請前日ニ於ケル日計表

四 預ケ先ノ預金證明書
五 非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類

株式會社ニシテ其ノ目的ヲ變更シテ貯蓄銀行業ヲ營マムトスルモノハ前項第四號及第五號ノ書類ニ代ヘ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 會社登記簿ノ謄本
- 二 最終ノ財産目録及貸借對照表
- 三 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面
- 四 株主ノ氏名及持株數ヲ記載シタル書面

第二條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ營業業務ノ種類ヲ記載スヘシ

- 一 普通貯金(貯蓄銀行法第一條第一項第一號及第二號ノ預金)
- 二 据置貯金(貯蓄銀行法第一條第一項第三號ノ預金)
- 三 定期積金(貯蓄銀行法第一條第一項第四號ノ受入金)
- 四 定期預リ金
- 五 保護預リ
- 六 債權ノ取立
- 七 公共團體又ハ産業組合ノ金銭出納事務ノ取扱
- 八 公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金

第三條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ業務ノ方法ニ

付左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 預金拂戻ノ豫告期間ニ關スルコト
 - 二 預金者又ハ積金者ニ對スル利益ノ分配又ハ特別利益ノ提供ニ關スルコト
 - 三 預金者又ハ積金者ニ對スル貸付ノ特約ニ關スルコト
 - 四 保護預リ品ノ種類及保管ノ方法
 - 五 其ノ他重要ナル事項
- 据置貯金又ハ定期積金ニ付テハ前項ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 預ケ入又ハ拂込ノ時期、回數及金額
 - 二 拂戻又ハ給付ノ時期、回數及金額
 - 三 契約ノ不履行、契約ノ解除又ハ契約ニ基ク權利義務ノ讓渡ニ關スルコト
 - 四 利息支拂備金又ハ給付補填備金ニ關スルコト
 - 五 勧誘又ハ集金ノ方法及び經費ニ關スルコト
- 第四條 拂戻ニ付期限ヲ定ムル預金契約ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得定期積金ノ契約期間ニ付亦同シ
- 第五條 貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ依リ供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ依リ供託スル國債及有價證券ノ供託價格ハ每半年末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第七條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ依リ新ニ供託

ヲ爲シタルトキハ供託受領證ノ寫ヲ添附シ每半年末日ヨリ一月内ニ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク前項ニ準シ届出ツヘシ

第八條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債又ハ有價證券ノ下戻ヲ受ケムトスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外地方長官其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供託局、供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スヘシ

貯蓄銀行ハ前項ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由並國債又ハ有價證券ノ種類、記號、番號、枚數、券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ニ對シ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第九條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行法第十一條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケムトスルトキハ認可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 社債又ハ株式ノ種類
- 二 社債又ハ株式ヲ發行シタル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
- 三 擔保附社債信託法ニ依リテ發行シタル社債ニ在リテハ

其ノ受託會社ノ商號

四 社債ノ元金又ハ利息ノ支拂ニ付保證アルモノニ在リテハ其ノ保證人ノ氏名又ハ商號及住所

第十條 貯蓄銀行カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ爲シタル後各貯蓄銀行ノ總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 株主總會ノ決議録及社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面

二 合併ニ關スル契約書

三 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面

四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表

五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告及催告並商法第二百二十條ノ二ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面

第十一條 貯蓄銀行カ定款ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及株主總會ノ決議録ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ資本減少ニ關シ定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ尙前條第四號及第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十二條 貯蓄銀行カ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスル

トキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

第十五條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シテ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

一 銀行法第六條ニ掲ケタル事項ニ付定款變更ノ認可ヲ受ケテ之ヲ實行シタルトキ

二 取締役又ハ監査役ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第十六條 貯蓄銀行ノ業務報告書ハ附屬雜形ニ依リ調製スヘシ

第十七條 本令ニ定メタル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届出ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ取締役又ハ監査役ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 本令ニ別段ノ規定ヲ設ケサル事項ニ付テハ銀行法施行細則ニ依ル

附則

第十九條 本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 貯蓄銀行條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依リテ爲シタル申請其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當

スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十一條 貯蓄銀行法附則第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ハ本令施行ノ際其ノ現ニ營業ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ本令施行後一月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十二條 本令施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本令第四條ノ規定ニ適合セサルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十三條 貯蓄銀行カ提出スル大正十年七月一日ヨリ同年十二月三十一日ニ至ル間ノ營業ノ報告書ハ舊令附屬雜形ニ依リ調製スヘシ

第二十四條 貯蓄銀行法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ノ提出スル營業ノ報告書ハ附屬雜形ニ依ルコトヲ要セス

附則 (大正十一年大藏省令第二十四號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
貯蓄銀行カ大正十一年司法省令第五號ノ規定ニ依リ貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債又ハ有價證券ノ下戻ヲ受ケムトスル場合ニ付テハ仍舊令ニ依ル

(様式省略)

● 保險業法

(明治三十三年三月二十二日)總、司、農、副署
法律第六十九號

沿革 明治四五年四月法律第一八號、昭和二年四月第五〇號改正
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保險業法

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス但生命保險ヲ目的トスル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得

第四條ノ二 保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

會社ハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコトヲ得

第五條 保險會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 普通保險約款
- 四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
- 五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類

第六條 (削除)

第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
- 二 保險契約無効ノ原因
- 三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
- 四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
- 五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
- 六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務
- 七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍

第八條 第五條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認

可ヲ得ルコトヲ要ス

第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ本法及ヒ第五條ニ掲ケタル書類ニ定メタル事項ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ財産ノ供託若クハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 保險會社カ本法、主務官廳ノ命令又ハ第五條ニ掲ケタル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ取締役ノ改選若クハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命シ其他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十三條ノ二 保險會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ清算人ヲ選任ス

商法第八十九條、第九十九條ノ六及ヒ第二百二十六條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合

ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得
商法第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務官廳ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得
商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス

第十三條ノ三 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳之ヲ定ム

第十三條ノ四 保險會社ニ非サルモノハ其商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百一十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍
- 二 設立費用償却ノ方法

第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百一十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條ノ二 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第二十條 會社カ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル定款變更ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ減少スヘキ金額、減少ノ方法及ヒ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十條ノ三 第二項、第三項、第二十二條第三項及ヒ第二十五條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條ノ二 會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同クスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ會社ニ移轉スルコトヲ得
會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財産ヲ移轉スヘキコトヲ定ム

ルコトヲ得但主務官廳カ其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スル必要ト認ムル財産ヲ留保スルコトヲ要ス

第一項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條ノ三 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタル保險契約者カ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其保險金額カ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス第二十條ノ六ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ヘタル保險契約者ニシテ其保險契約ニ付キ同條同號ノ事項ヲ變更セラルヘキ者カ同條同號ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其保險金額カ同條同號ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者ノ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同シ

第二十條ノ四 保險契約ノ移轉ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議、財産目録、貸借對照表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十條ノ五 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其移轉セントスル保險契約ノ同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條ノ六 生命保險ノ目的トスル會社カ其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ移轉契約ヲ以テ保險金額ヲ削減シ及ヒ將來ノ保險料ヲ減額スヘキコト又ハ其保險契約ニ付キ定メタル第七條第七號ノ事項ヲ變更スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

第二十條ノ七 前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第二十條ノ二第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其財産ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合又ハ財産ノ保全其他特別ノ必要ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ得テ財産ヲ處分スル場合ハ此限ニ在ラス

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生シタル

債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ニ同シ但保險契約ニ因リテ生シタル債務ヲ辨濟スルハ此限ニ在ラス

第二十條ノ八 保險契約ノ移轉ノ認可アリタルトキハ會社ハ遅滞ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同シ

第二十條ノ九 會社カ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ移轉ヲ爲シタル會社ノ其保險契約ニ付キ有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スヘキコトヲ定メタル財産ニ付キ亦同シ

第二十條ノ二第三項ノ決議ノ後ニ於テ移轉スヘキ保險契約ニ付キ爲シタル收支其他移轉スヘキ保險契約又ハ財産ニ付キ生シタル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第二十條ノ十 會社カ其保險契約全部ノ移轉ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十條ノ十一 會社ハ解散ノ後ト雖三個月内ニ限り第二十條ノ二第三項ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス但保險契約ノ移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十條ノ十二 第二十條ノ十ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議並ニ第二十條ノ三ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十條ノ三第三項ノ規定ニ同シタル割合ヲ超エサルコトヲ證スル書面及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十一條 會社カ營業ノ免許ヲ取消セラレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ保險契約者其他保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ有スル者ニモ對抗スルコトヲ得

第二十二條ノ二 生命保險ノ目的トスル會社カ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其保險契約ニ付キ定メタル第七條第七號ノ事項ヲ變更スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テハ其變更ヲ爲サントスル會社ニ第二十條ノ五及ヒ第二十條ノ七第三項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 第七十三條第二項及第八十七條ノ規定ハ保險

ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社

カ第二十一條又ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條

第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ

之ヲ準用ス

第二十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條

ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者ア

ルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十條ノ第三項ニ規定

シタル割合ヲ超エサルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ

要ス

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ

記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 基金ノ總額

五 基金ノ釀出者カ有スヘキ權利

六 社員ノ責任ノ種類

七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八 剩餘金分配ノ方法

九 會社カ公告ヲ爲ス方法

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ

事由

第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相

互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス

第三十條 發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社

申込證ニ通ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又

ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地

ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限

ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコト

ヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二十六條ニ掲ケタル事項

三 基金ノ釀出者ノ氏名、住所及ヒ其各自カ釀出スル金額

四 發起人ノ氏名、住所

五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額

六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數

七 一定ノ時期迄ニ會社カ成立セサルトキハ入社ノ申込ヲ

取消スコトヲ得ヘキコト

第三十一條 社員カ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滯

ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ

同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第四十三條及ヒ商法第五十六條第一項、第二項、第六十

十一條第三項、第四項、第六十三條乃至第六十三條ノ

四ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十二條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申込人ニ對スル通

知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十四條 相互會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各

事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲

ケタル事項

二 事務所

三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

四 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

五 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ

會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關ス

ル規定

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ

各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條

乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第

四十四條ノ二、第四十四條ノ三第一項、第二項、第四十五

條、第四十八條ノ二、第一百九條、第三十三條、第三百

十八條、第四百二十二條ノ二及ヒ第四百二十二條ノ三ノ規定ハ

相互會社ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條ノ三第二項ノ規

定ニ依ル選任ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二節 社員ノ權利義務

第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコ

トナシ

第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

二 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任

ヲ負フモノ

第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ

會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條ノ二 社員ノ責任カ第三十七條第二號又ハ第三號

ニ該當スル相互會社ニ在リテハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減

ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十九條 社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ釀出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其釀出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第四十二條 第二項ノ二第一項乃至第三項及ヒ第二項ノ四乃至第二十條ノ十二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第三節 會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 商法第五十六條第一項、第二項、第五十七條第一項、第五十九條、第六十一條第一項、第三項、第四項及ヒ第六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス

第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス

第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 社員ノ氏名、住所
- 二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料
- 三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス但保險關係ニ屬スル事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲモタル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ專業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ得

トヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議

又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但シ起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 商法第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條ノ二、第六十九條、第七十條、第七十四條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議

又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第六十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條 商法第六十四條第二項、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第七十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項及ヒ第八十六條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

每年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ釀出者ニ利息ヲ支

拂フコトヲ妨ケス

第六十條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 剰餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十二條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 死亡

三 破産

四 保險關係ノ消滅

第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六個月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當タリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二 社員カ百人未滿ニ減シタルコト
 - 三 社員總會ノ決議
 - 四 合併
 - 五 破産
 - 六 免許ノ取消
- 第七十三條 任意ノ解散合併及ヒ保險契約移轉ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
- 前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十四條 (削除)

第七十五條 第二十二條ノ二及商法第七十六條、第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 (削除)

第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ三個月内ニ生シタルトキニ限り保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ノ目的トスル會社ニ在リテ

ハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ノ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一 一般ノ債務ノ辨濟
- 二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
- 三 基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 (削除)

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十七條、第九十九條、第一百五十七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十六條、第七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第八十四條、第八十五條第一項、第八十六條、第八十八條、第九十一條乃至第九十三條、第二百二十六條乃至第二百二十七條ノ二、第二百二十八條第一項、第二百

三十條、第二百三十二條、第二百三十三條及民法第七十九條、第八十條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 補則

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一 定款

二 社員名簿

三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證

四 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本

五 創立總會ノ決議錄

第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ニ付キ亦同シ

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セス

第四章 計算

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ主務大臣之ヲ定ム

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條ノ二 相互會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第八十四條第二項並ニ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十五條ノ四、第三百三十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百一十一條乃至第四百六十四條、第四百七十三條、第四百七十四條第二項、第四百七十五條乃至第四百七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第一項、第二項及ヒ第四百九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケスシテ保險事業ヲ營ム者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條ノ二 第十三條ノ四ノ規定ニ違反シタル者八十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

- 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメヌ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ
- 六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ
- 七 第二十條ノ規定ニ違反シテ資本減少ヲ爲シタルトキ
- 八 第二十條ノ二、第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ
- 九 第二十條ノ七ノ規定ニ違反シテ財産ノ處分ヲ爲シ若クハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲シタルトキ

- 十 第二十二條又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ
- 十一 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 第九十八條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又ハ基金釀出ノ引受ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ
 - 二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金ヲ分配シタルトキ
 - 三 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ
- 前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ
- 第九十九條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス
 - 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

- 二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
- 三 第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 定款、社員名簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、事業報告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ第五十條第二項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメサルトキ
- 六 商法第八十一條ノ規定ニ依ル監査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ
- 第一百條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス
 - 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 - 二 第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シタルトキ
 - 三 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ

- 責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ
- 四 商法第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 五 清算ノ結了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ
- 六 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第八十條若クハ定款ノ規定ニ違反シテ剩餘財産ヲ分配シタルトキ
- 第一百條ノ二 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ノ犯罪ニ之ヲ準用ス
- 第一百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
- 附則
- 第一百二條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第一百三條 商法施行法第九十五條乃至第一百六條ハ之ヲ削除ス
- 第一百四條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ保險ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第一百五條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ本法、主務官廳ノ命令又ハ第五條ニ

- 掲ケタル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ其事業ヲ禁止スルコトヲ得
- 保險會社カ違法ニ事業ヲ禁止セラレタリトスルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第一百五條ノ二 保險會社カ其事業ヲ禁止セラレタルトキハ之ニ因リテ解散ス
- 第十三條ノ二第一項、第三項、第十三條ノ三、第七十八條、第八十七條及ヒ第九十八條第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第一百六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滯ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
- 第一百七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
- 第一百八條 第三條、第四條、第八條乃至第十三條ノ三及ヒ第七十三條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス

第九條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テサルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第七十八條、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 第九十二條乃至第九十六條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第十二條 第十九條ノ二乃至第二十二條ノ二及ヒ第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第十三條 第二十五條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其保險契約ヲ合資會社若クハ株式會社ニ移轉シ又ハ株式會社ト合併スル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約移轉ノ決議ハ舊商法第五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條ノ三 第二十二條、第二十五條、第七十三條第二項、商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項、第八十三條ノ三及ヒ非訟事件手續法第二百一十一條第一項、第二項ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲ス場合ニ準用ス

第十三條 第九十八條及ヒ第九十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第十四條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第十五條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營業ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (明治四十五年法律第十八號)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正元年十二月勅令第五十六號ヲ以テ同二年二月一日ヨリ施行)

第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ設立シタル會社ニシテ命令ヲ以テ第五條第二號又ハ第五號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項ニ付キ認可ヲ受ケサルモノハ本法施行後六個月内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ認可ヲ受ケタル時現ニ利用スル財産ニ付テハ其利用方法ヲ變更セサル限り認可ヲ受ケタル方法ニ依ラサルコトヲ得

第四條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其合併ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五條 第三十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル會社ニハ之ヲ適用セス

第六條 明治四十四年法律第七十三號附則第四條、第五條、第七條、第九條乃至第十三條、第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖其罰則ヲ適用ス

第八條 裁判所カ本法施行前ニ受理シタル清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則 (昭和二年法律第五十號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年十二月勅令第三百五十三號ヲ以テ同年同月十五日ヨリ施行)

本法施行ノ際保險會社ニ非スシテ其商號又ハ名稱中ニ保險事

業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルモノハ本法施行後六ヶ月内ニ其商號又ハ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

● 保險業法施行規則

(大正元年十二月二十七日 農商務省令第二十九號)

沿革 大正六年九月農商務省令第一九號、一四年八月商工省令第六號、一五年四月第一號、昭和二年二月第一號改正

保險業法施行規則左ノ通改正ス

保險業法施行規則

第一章 總則

第一條 保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ差出スヘキ申請書ニハ理由書ヲ添付スルコトヲ要ス

認可申請ヲ爲スヘキ事項ニシテ總會又ハ之ニ代ルヘキ機關ノ決議ヲ經ヘキモノナルトキハ申請書ニ其ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 保險會社ノ商號又ハ名稱ニ示スヘキ保險ノ種類ハ其ノ主タル目的ノ事業ノ種類ヲ以テ足ル

第三條 商工大臣ヨリ保險會社ニ對シテ爲シタル命令又ハ通知ニシテ其ノ書面ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ商工大臣ハ官報ヲ以テ其ノ事由及命令又ハ通知ノ要領ヲ公告スヘ

シ此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ命令又ハ通知アリタルモノト看做ス

第四條 保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ特殊ノ事由ニ因リ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 保險業法又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價格ヲ示シタル項目ニハ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額及其ノ換算ニ用キタル標準ヲ附記スルコトヲ要ス

第六條 保險會社ハ保險證券、保險契約申込書、被保險者ノ告知書ノ用紙及保險契約者ノ勧誘其ノ他廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツツ遲滞ナク商工大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及第七號ニ定ムル權利ノ範圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額、其ノ標準若ハ第七號書式ニ準シ其ノ金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ金額ノ算出方法ヲ

以テ之ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ生命保險會社カ將來ノ保險料ノ拂込ヲ免除シテ保險金額、保險種類若ハ保險期間ノ變更ヲ約シ又ハ返戻金若ハ配當金ノ支拂ニ代ヘテ保險料拂濟保險證券ノ發行若ハ保險金額ノ増額ヲ約シ又ハ保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコトヲ約シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 保險會社カ保險業法第四條ノ二、第十一條又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ要ス

前項ノ供託受領證ハ商工大臣之ヲ保管シ其ノ保管ニ付キ商工大臣ハ保管證書ヲ會社ニ交付スヘシ

保險會社カ供託物ノ全部ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ供託受領證返還申請書ニ保管證書ヲ添附スルコトヲ要ス其ノ一部ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ保管證書ノ外其ノ金額又ハ物件ノ品名及數量、有價證券ノ種類、額面、數量及番記號、記名式ノ證券ナルトキハ其ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前三項ノ規定ハ供託物ノ變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 第一條乃至第九條、第十二條、第十三條、第十五條乃至第五十一條ノ規定ハ明治三十三年七月一日前ニ設立シタル保險會社並其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役、支配人及清算人ニ之ヲ準用ス

第二章 發起認可及事業免許

第十一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請書ニハ保險業法第五條ニ定ムル書類ノ外發起目論見書ヲ添附スルコトヲ要ス

發起目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 株主又ハ社員若ハ基金釀出者募集ノ有無並募集ノ方法及其ノ範圍
- 二 各發起人ノ引受クヘキ株式ノ數又ハ相互會社ノ各發起人ノ契約スヘキ被保險者又ハ保險ノ目的ノ數並保險金額
- 三 事業開始後保險契約者募集ニ關スル豫定計畫ノ概要並開業後三年間ノ收支豫算

第十二條 保險業法第五條第二號ノ書類ニハ左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 事業經營ノ地域、被保險者又ハ保險ノ目的ノ範圍並保險種類ノ細別
- 二 支店若ハ從タル事務所、出張所及代理店ノ權限ニ關スル事項
- 三 保險金額及保險期間ノ制限
- 四 被保險者又ハ保險ノ目的ノ選擇並保險契約締結ノ手續ニ關スル事項

五 保險料ノ收受、保險金ノ仕拂及保險料ノ拂戻其ノ他返戻金ニ關スル事項

六 保險契約申込書及保險證券ノ様式並保險證券ニ添附スヘキ書類ノ様式

七 再保險ノ授受ニ關スル事項

八 保險契約ノ特約ニ關スル事項

九 保險契約ニ對スル利益又ハ剩餘金ノ分配ニ關スル事項

十 保險證券ニ對スル貸付ニ關スル事項

十一 保險料ノ拂込免除ノ爲保險金額ヲ減少シ又ハ保險種類若ハ保險期間ヲ變更スル場合ニ關スル事項

十二 危險ノ分布及保險ノ目的ノ検査ニ關スル事項

第十三條 保險業法第五條第五號ノ書類ニハ第十六條ノ範圍内ニ於テ左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 所有スヘキ財産ノ種類及其ノ制限
 - 二 貸付ノ種類及其ノ制限
 - 三 擔保貸付ニ在リテハ其ノ擔保物件ノ種類及制限
 - 四 信託スヘキ財産ノ種類及其ノ制限並信託ノ期間
- 生命保險會社ニ在リテハ責任準備金及責任準備金以外ノ財産ニ分チテ前項ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス
- 第十四條** 發起人ハ發起ノ認可ヲ受クルニ非サレハ株主、社員又ハ基金釀出者ヲ募集スルコトヲ得ス

第十五條

保險事業免許ノ申請ハ總取締役及總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ申請書ニハ保險業法第五條ニ定ムル書類ノ外非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ定ムル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號、第三號及第五號ニ定ムル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第三章 財産ノ利用

第十六條

保險會社カ其ノ財産ヲ利用スルニハ國債證券ノ所有及之ヲ擔保トスル貸付ヲ除クノ外左ノ各號ニ付キ其ノ財産(未タ拂込ヲ爲ササル株金又ハ基金ヲ除ク)ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 公共團體ニ對スル無擔保貸付
- 二 第一號ニ該當セサル無擔保貸付
- 三 同一人ニ對スル貸付若ハ預金又ハ同一人ニ對スル債權ヲ擔保トスル貸付
- 四 同一會社ノ株券若ハ債券ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付
- 五 同一公共團體ノ債券ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付
- 六 同一物件ノ所有又ハ之ヲ擔保トスル貸付
- 七 不動産ノ所有
- 八 同一信託會社ニ對スル信託

前項第三號、第四號及第八號又ハ第三號及第五號ノ方法ニ

依リ利用スル金額ハ之ヲ通算ス
保證ハ第一項第一號及第二號ノ適用ニ付テハ之ヲ擔保ト看做サス

第十七條

會社財産ノ價額ノ變動其ノ他會社ノ意思ニ基カサル事由ニ因リ前條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セズ但シ其ノ利用ノ方法ヲ變更スルトキハ前條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第四章 事業ニ關スル報告及届出

第十八條

事業報告書ハ第一號書式ニ準シテ之ヲ作成シ取締役及監査役署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

第十九條

財産目録、貸借對照表、損益計算書及基金ノ償却、其ノ利息ノ支拂、準備金並利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第二號乃至第五號書式ニ準シテ之ヲ作成スルコトヲ要ス

第二十條

財産目録及貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スルコトヲ得ス

第二十一條

保險會社ハ第六號書式ニ準シテ毎月其ノ事業ノ狀況報告書ヲ作成シ翌月十五日迄ニ之ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ要ス

第二十二條

保險會社ハ毎月末日ニ於ケル總勘定元帳ノ殘高ニ依リ貸方借方對照表ヲ作り翌月十五日迄ニ之ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ要ス

第五章 支拂備金及準備金

第二十三條

保險會社ハ事業年度ノ終ニ於テ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

- 一 保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其ノ支拂ヲ爲ササルモノアルトキハ其ノ金額
- 二 既ニ生シタル事由ノ爲ニ保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ノ支拂ヲ要スヘキコトアリト認ムルトキハ其ノ支拂ヲ爲スニ相當ナル金額
- 三 保險金額、拂戻金又ハ保險契約ニ因ル配當金ニ關シ訴訟繫屬中ノモノアルトキハ其ノ金額

第三十二條ノ規定ハ損害保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於ケル支拂備金ノ積立ニ之ヲ準用ス

第二十四條

生命保險會社ハ其ノ生命保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於テモ之ニ對スル責任準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

第二十五條

生命保險契約又ハ其ノ再保險契約ニ對スル責任準備金ハ保險料積立金及未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス但シ之ヲ區別スルコト能ハサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條

前條ノ保險料積立金ハ純保險料式ニ依リテ計算シタル額ヲ下ルコトヲ得ス但シ生命保險契約ニシテ契約後

五年ヲ經過セズ且保險料拂込期間内ニ在ルモノニ對スル保險料積立金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條

損害保險契約ニ對スル責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(第三十二條ノ保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス)中ヨリ其ノ年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲ニ支拂ヒタル保險金額並保險金額ノ外ニ保險契約ニ因リテ支拂ヒタル金額(第三十二條ノ保險者ヨリ得タル保險金額並保險金額ノ外ニ保險契約ニ因リテ得タル金額ヲ控除ス)其ノ契約ノ爲ニ積立ツヘキ支拂備金(第二十三條第二項ノ規定ニ依リ積立ツルコトヲ要セサル支拂備金ヲ控除ス)及其ノ年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十八條

損害保險契約ニ付キ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其ノ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其ノ殘額ニ付キ前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十九條

前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金額ト會社ノ定ムル方法ニ依リテ計算シタル金額トノ間ニ差異アルトキハ會社ハ其ノ多額ナル金額ニ相當スル金額ヲ積立

ツルコトヲ要ス

第三十條 前三條ノ規定ハ生命保險契約ノ再保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十一條 第二十三條及第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ保險會社法令ノ規定ニ依リ貸借對照表ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 保險會社カ損害保險契約ヲ再保險ニ附シタル場合ニ於テハ保險事業ヲ營ムコトヲ認許セラレタル保險者ニ再保險ヲ附シタル場合ニ限リ其ノ再保險ニ附シタル部分ニ付キ責任準備金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ規定ハ前項ノ保險者以外ノ保險者トノ再保險取引ニ付商工大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 保險會社カ保險契約ニ因リ確定金額ノ配當ヲ約シタル場合ニ於テハ其ノ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス利益ノ配當ヲ約シタル場合亦同シ

第三十四條 保險契約ニ關スル準備金及未收保險料計算ノ爲ニ用キタル統計表、計算表其ノ他計算ノ基礎、方法及順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ三年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第六章 保險契約ノ移轉

第三十五條 保險契約移轉ノ決議ノ認可申請ハ雙方ノ會社連署シテ遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 保險契約移轉契約書

二 各會社ノ財産目録及貸借對照表

三 移轉セムトスル保險契約ノ種類、金額、件數、契約者數及其ノ地方別統計表

四 移轉セムトスル保險契約ノ責任準備金額並其ノ金額算出ノ順序及方法ヲ示シタル書類

五 移轉セムトスル財産ノ總額並其ノ種類別ニ各財産ノ數量及價額ヲ記載シタル書類

六 各會社ノ保險契約ノ件數、金額、契約者數並保險契約ノ種類別ノ件數、金額、契約者數及責任準備金額ヲ記載シタル書類

七 保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類

保險金額ノ削減ヲ必要トスル場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ事由、削減ノ方法、削減額及之ニ因リテ生スヘキ責任準備金ノ減少額並將來ノ保險料ヲ減額スヘキ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

保險契約ニ付キ定メタル保險業法第七條第七號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ第二項ノ書類ノ外其ノ事由、變更ノ方法並變更後ニ於ケル保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及範圍ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二項第二號乃至第六號及第三項ニ定ムル書類ハ保險契約移轉ノ決議ノ日ヲ基準トシテ之ヲ作成スルコトヲ要ス

第一項ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ保險業法第二十條ノ三ノ公告ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 保險契約移轉ノ認可申請ハ保險業法第二十條ノ三ノ異議申出期間終了後一箇月内ニ雙方ノ會社連署シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

異議ニ關スル書類ニハ異議ヲ述ヘタル者ノ有無、異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ氏名若ハ名稱、住所及其ノ保險金額ヲ記載シ且保險業法第二十條ノ三第三項ノ規定ニ違反セサルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十七條 保險契約ノ移轉ヲ爲シタル會社カ其ノ移轉シタル保險契約ニ付キ從來用キタル事業方法書、普通保險約款並保險料及責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類ハ前條ノ認可アリタル時ヨリ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼シタルモノト看做ス

保險契約ノ移轉ヲ受ケタル會社ハ移轉ヲ受ケタル財産ニ限リ移轉ヲ爲シタル會社ノ財産利用方法書ニ從ヒ之ヲ利用スルコトヲ得

財産ノ移轉ヲ受ケタル爲第十六條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

財産ノ利用方法ヲ變更スルトキハ第十六條ノ制限及會社ノ

財産利用方法書ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十八條 第三十六條ノ認可アリタルトキハ保險契約ノ移轉ヲ受ケタル會社ハ一箇月内ニ移轉セラレタル保險契約ノ契約者ニ其ノ旨ヲ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十九條 保險業法第二十條ノ八ノ公告ハ保險業法第二十條ノ三ノ公告ト同一ノ方法ニ依リ遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要ス

第七章 任意解散、合併、組織變更及資本減少

第四十條 任意解散ノ決議ノ認可申請書ニハ財産目録、貸借對照表、保險契約者ノ數及其ノ保險金額ノ地方別統計表、保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類並合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

保險契約ニ付キ定メタル保險業法第七條第七號ノ事項ヲ變更スルトスル場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ事由、變更ノ方法並變更後ニ於ケル保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及範圍ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條

保險業法第二十二條第一項ノ公告ヲ爲シタル後合併ヲ爲ササルニ至リタルトキハ各會社ハ其ノ公告ト同一ノ方法ニ依リ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十三條

合資會社ノ組織變更ノ決議ノ認可申請書ニハ財産目錄、貸借對照表及組織變更後ノ株式會社ノ定款、保險金額、契約者數及其ノ地方別統計表並保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ合資會社ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條ノ二

資本減少ニ關スル定款變更ノ認可申請書ニハ減少スヘキ金額、減少ノ方法、財産目錄、貸借對照表、保險契約者ノ數及其ノ保險金額ノ地方別統計表並保險契約者ニ對シテ爲スヘキ公告ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第八章 清算人

第四十四條

商法第八十九條、第九十九條ノ六及第二百二十六條第二項ノ規定ニ依リ保險會社ノ利害關係人カ清算人ノ選任ヲ請求スルニハ其ノ申請書ニ利害關係人タルコトヲ證明スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十五條

保險業法第十三條ノ二第四項ノ規定ニ依リ株主又ハ社員カ清算人ノ選任ヲ請求スルニハ其ノ申請書ニ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主タルコト若ハ社員ノ十分ノ一以

上ニ當ル社員タルコトヲ證明スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス定款ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲ス社員ニ付キ他ノ標準ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ標準ニ適合スルコトヲ證明スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第四十六條

保險業法第十三條ノ三ノ規定ニ依リ定メタル報酬額ハ商工大臣必要アリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四十七條

保險會社ノ清算人ハ毎月ノ清算狀況ヲ翌月十五日マテニ商工大臣ニ届出ツルコトヲ要ス但シ重要ナル事項ニ付テハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第四十八條

保險會社ノ清算人カ商法第九十二條、第二百二十七條又ハ第二百三十條ノ規定ニ依リ總會ニ於テ財産目錄、貸借對照表、事業報告書又ハ決算報告書ノ承認ヲ得タルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ差出スコトヲ要ス

第四十九條

保險會社ノ清算人ハ商法第二百三十三條ノ規定ニ依リ保存者ノ選任アリタルトキハ其ノ氏名若ハ名稱及住所ヲ遲滞ナク商工大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第九章 罰則

第五十條

保險會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ヲ保險證券ニ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ記載シタル書

面ヲ保險證券ニ添付セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル書類ヲ添付シタルトキ

二

第七條、第十四條、第十六條、第十七條、第二十條、第三十四條又ハ第三十七條第四項ノ規定ニ違反シタルトキ

第五十一條

保險會社ノ取締役、監査役、支配人又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ科料ニ處ス

一

第三十五條、第四十一條、第四十三條及第四十三條ノ二ノ規定ニ依リ商工大臣ノ認許シタル方法ニ違反シテ公告ヲ爲シタルトキ

二

第三十九條及第四十二條ニ定ムル方法ト異ル方法ニ依リ公告ヲ爲シタルトキ

三

第六條、第二十一條、第二十二條、第四十七條又ハ第四十八條ノ規定ニ違反シテ届出又ハ書類ノ差出ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第十章 附則

第五十二條

本則ハ明治四十五年法律第十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正二年二月一日ヨリ施行)

第五十三條

本則ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ其ノ施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第五十四條

保險會社ニシテ明治四十五年法律第十八號附則

第三條第一項ノ規定ニ依リ保險業法第五條第五號ノ書類ニ定ムヘキ事項ニ付キ認可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク認可ノ時ニ於ケル財産ノ利用現狀ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第五十一條

第三號ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條

本則施行後六箇月間ニ限り第八條第三項ニ規定スル事項ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十六條

本則施行ノ當時現ニ利用スル會社ノ財産ニシテ第十六條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス但シ本則施行ノ後其ノ利用方法ヲ變更スルトキハ第十六條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第五十七條

第十八條、第十九條及第二十一條ノ規定ニ該當スル事項ニ付テハ本則施行ノ際既ニ開始セル事業年度ニ限り仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十八條

本則施行ノ際保險事業ヲ營ムコトヲ認許セラレサル保險者ト現ニ再保險ノ取引ヲ爲セル保險會社カ本則施行後引續キ其ノ保險者ニ再保險ヲ附セントスルトキハ本則施行後六箇月内ニ第三十二條第二項ノ認可申請ヲ爲シタル場合ニ限り其ノ處分ヲ受クルニ至ル迄其ノ保險者トノ再保

險取引ニ付キ第三十二條第二項ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附則 (大正十五年商工省令第一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

保險業法第五條第二號ノ書類ニ本令施行ノ際現ニ定ムル保險種類ニ屬スル契約ニ對スル保險料積立金ノ計算ニ付テハ第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得新ナル保險種類ニシテ本令施行ノ際現ニ保險業法第五條第二號ノ書類ノ變更認可申請中ニ係ルモノニ屬スル契約ニ對スル保險料積立金ノ計算ニ付キ亦同シ

(書式省略)

信託法

(大正十一年四月二十一日)總、大、司
法律第六十二號 大臣副署

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

信託法

第一條 本法ニ於テ信託ト稱スルハ財産權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

第二條 信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 登記又ハ登録スヘキ財産權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

ル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

裁判所ハ事情ニ依リ信託財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第九條 受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得

第十條 法令ニ依リ或財産權ヲ享有スルコトヲ得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得

第十一條 信託ハ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受益者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ホサス但シ受益者ノ債權カ辨濟期ニ到ラサルトキ又ハ受益者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 受託者ハ信託財産ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス

ヲ得ス

有價證券ニ付テハ信託ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財産ナルコトヲ表示シ株券及社債券ニ付テハ尙株主名簿又ハ社債原簿ニ信託財産タル旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第四條 受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財産ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 未成年者、禁治產者、準禁治產者及破產者ハ受託者ト爲ルコトヲ得

妻カ信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條 信託行爲ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關ス

前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十四條 信託財産ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財産ハ信託財産ニ屬ス

第十五條 信託財産ハ受託者ノ相續財産ニ屬セス

第十六條 信託財産ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外信託財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル強制執行又ハ競賣ニ對シテハ委託者、其ノ相續人、受益者及受託者ハ異議ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 信託財産ニ屬スル債權ト信託財産ニ屬セサル債務トハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第十八條 信託財産カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ於テハ受託者カ其ノ目的タル財産ヲ取得スルモ其ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第十九條 受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ニ付テハ信託財産ノ限度ニ於テノミ其ノ履行ノ責ニ任

第二十條 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意

擔スル債務亦同シ

ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス
第二十一條 信託財産ニ屬スル金錢ノ管理方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財産ヲ固有財産ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケ信託財産ヲ固有財産ト爲スハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ信託財産ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ニ因リ信託財産ノ管理方法カ受益者ノ利益ニ適セサルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 受託者數人アルトキハ信託財産ハ其ノ合有トス前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ爲シタル意意表示ハ他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第二十五條 受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トス信託事務ノ處理ニ付負

擔スル債務亦同シ

第二十六條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ其ノ責ニ任ス信託行爲ニ依リ他人ヲシテ信託事務ヲ處理セシメタルトキ亦同シ

第二十七條 受託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財産ニ損失ヲ生セシメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シテ損失ノ填補又ハ信託財産ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 信託財産ハ固有財産及他ノ信託財産ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信託財産タル金錢ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テ信託財産ニ損失ヲ生シタルトキハ受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力ヲ理由トシテ其責ヲ

免ルルコトヲ得ス

第三十條 信託財産ニ付附、混和又ハ加工アリタル場合ニ於テハ各信託財産及固有財産ハ各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登記若ハ登録アリタルトキ又ハ登記若ハ登録スヘカラサル信託財産ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ本旨ニ反スルコトヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキニ限ル

第三十二條 受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第三十三條 第三十一條ニ規定スル取消權ハ受益者又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時ヨリ一月内ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十四條 受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルトキハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶シテ其ノ責任ヲ負ス

第三十五條 受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除

タノ外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クノコトヲ得ス

第三十六條 受託者ハ信託財産ニ關シテ負擔シタル租稅、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ受ケタル損害ノ補償ニ付テハ信託財産ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先チテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得
受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ受益者カ不特定ナルトキ及未タ存在セザルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十七條 前條ノ規定ハ受託者カ信託財産ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合ニ其ノ報酬ニ付之ヲ準用ス受託者カ受益者ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合亦同シ

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者ノ權利ハ受託者カ第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル損失ノ填補及信託財産復舊ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス
受託者ハ信託引受ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財産目錄ヲ作ルコトヲ要ス

第四十條 利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閲覧ヲ請求

スルコトヲ得

委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ關スル書類ノ閱覽ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且検査役ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十二條 受託者カ死亡シタルトキ又ハ破産、禁治産者ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス受託者タル法人ヲ解散シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託財産ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人亦同シ

第四十三條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外受益者及委託者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十四條 信託行爲ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託者ト爲リ

タル者其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス

第四十五條 第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄仍受託者ノ權利義務ヲ有ス

第四十六條 己ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第四十七條 受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者、其ノ相續人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得

第四十八條 第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ信託財産ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタル者カ信託ノ引受ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セ

第八條第三項ノ規定ハ受託者ニ付之ヲ準用ス

第五十條 受託者ノ更迭アリタルトキハ信託財産ハ前受託者

ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタルモノト看做ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタルトキハ信託財産ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

第五十一條 第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル權利ハ新受託者亦之ヲ行フコトヲ得

第五十二條 受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ前受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財産ノ限度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

第五十三條 信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

第五十四條 前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定スル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ第三十七條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對シテ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲信託財産ヲ留置スルコトヲ得

トヲ要ス

受益者又ハ信託管理人カ前項ノ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ行爲アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 信託行爲ヲ以テ定メタル事由發生シタルトキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

第五十七條 委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外受益者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テ信託財産ヲ以テスルニ非サレハ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ其ノ他己ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコトヲ得

第五十九條 第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託ノ解除ニ關シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十條 信託ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ效力ヲ生ス

第六十一條 第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ信託カ解除セラレタルトキハ信託財産ハ受益者ニ歸屬ス

第六十二條 信託終了ノ場合ニ於テ信託行爲ニ定メタル信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ信託財産ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

第六十三條 信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ歸屬權利者ニ移轉スル迄ハ仍信託ハ存續スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利者ヲ受益者ト看做ス

第六十四條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産カ受益者其ノ他ノ者ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 信託終了ノ場合ニ於テハ受託者ハ信託事務ノ最終ノ計算ヲ爲シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益ヲ目的トスル信託ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付テハ後六條ノ規定ヲ適用ス

第六十七條 公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條 公益信託ノ引受ニ付テハ受託者ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十九條 主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ處理ニ付檢査ヲ爲シ且財産ノ供託其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七十條 公益信託ニ付信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ信託ノ本旨ニ反セサル限り信託ノ條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第七十二條 公益信託ニ付テハ第七條第一項第三項第二十二條第一項但書及第四十七條乃至第四十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬ス但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付テハ職權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第七十三條 公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續セシムルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

●信託業法

(大正十一年四月二十一日)總務大臣
(法律第六十五號) 臣副署

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル信託業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

信託業法

第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二條 信託業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 信託會社ハ左ニ掲クル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 金錢
 - 二 有價證券
 - 三 金錢債權
 - 四 動産
 - 五 土地及其ノ定著物
 - 六 地上權及土地ノ賃借權
- 第五條 信託會社ハ左ニ掲クル業務ニ限り之ヲ併セ營ムコト

第十三類 産業、移民 第一編 産業

ヲ得

- 一 保護預り
 - 二 債務ノ保證
 - 三 不動産賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ貸借ノ媒介
 - 四 公債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
 - 五 左ノ事項ニ關スル代理事務
 - イ 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借
 - ロ 財産ノ整理又ハ清算
 - ハ 債權ノ取立
 - ニ 債務ノ履行
- 第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得
- 第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス
- 第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セ

サル金銭信託ニ限り元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得

第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス

信託會社ハ金銭信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲必要ナル場合ニ限り信託行爲ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得

第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

- 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
 - 二 公債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付
 - 三 不動産ノ買入又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付
 - 四 不動産ノ買入
 - 五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付
 - 六 公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付
 - 七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
 - 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入
- 前項第三號ニ規定スル不動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第十三條 信託會社ハ每半年業務報告書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

貸借對照表ハ每半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ

第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
- 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
- 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ

第十六條 合併後存続スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス

第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監査役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ
- 三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ
- 四 第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
- 六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ

信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ

七 信託會社カ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目錄ヲ作ラサルトキ

八 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依ル閱覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第二十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行)

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノハ本法施行後五年ヲ限り第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

●信託業法施行細則

(大正十一年十二月一日)
大藏省令第五十七號

沿革 大正一三年一月大藏省令第三三號改正

信託業法施行細則左ノ通定ム

信託業法施行細則

- 第一條 信託業ヲ營マムトスル株式會社ハ免許申請書ニ總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
- 一定款
 - 業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面
 - 免許申請前日ニ於ケル日計表
 - 預ケ先ノ預金證明書
 - 非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類
- 株式會社ニシテ其ノ目的ヲ變更シテ信託業ヲ營マムトスルモノハ前項第四號及第五號ノ書類ニ代ヘ左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 會社登記簿ノ謄本
 - 免許申請ノ際現ニ存スル取引ノ性質ヲ知ルニ足ル書面
 - 最終ノ財産目錄及貸借對照表
 - 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面

- 株主ノ氏名又ハ商號及持株數ヲ記載シタル書面
- 代理店ヲ有スル者ニ在リテハ代理店ノ所在地、代理店主ノ氏名又ハ商號及住所ヲ記載シタル書面並代理店契約書

第二條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依

- リ其ノ營ム信託業務ノ種類ヲ記載スヘシ
- 金錢信託ニ付テハ其ノ運用方法ニ依ル區分
 - 運用方法ノ特定セル金錢信託
 - 運用方法ノ指定アル金錢信託
 - 運用方法ノ特定及指定ナキ金錢信託
 - 金錢信託以外ノ信託ニ付テハ信託引受ノ際受入ルル財産ノ種類ニ依ル區分
 - 金錢信託以外ノ金錢ノ信託
 - 有價證券ノ信託
 - 金錢債權ノ信託
 - 動産ノ信託
 - 土地及其ノ定著物ノ信託
 - 地上權ノ信託
 - 土地ノ賃借權ノ信託
- 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ併セ營ム業務ノ種類ヲ記載スヘシ
- 保護預り

項

- 債務ノ保證
 - 不動産賣買ノ媒介
 - 不動産賃借ノ媒介
 - 金錢貸借ノ媒介
 - 公債社債若ハ株式ノ募集又ハ其ノ拂込金受入ノ取扱
 - 公債社債若ハ株式ノ元利金又ハ配當金ノ支拂ノ取扱
 - 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借ノ代理事務
 - 財産ノ整理又ハ清算ノ代理事務
 - 債權取立ノ代理事務
 - 債務履行ノ代理事務
- 第三條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ其ノ營ム信託業務ノ方法ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 信託引受ノ際受入ルル動産ノ種類
 - 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ノ種類
 - 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ニ關スル事項
 - 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲ス場合ニ於ケル財産ノ種類及價格算定ノ方法
 - 信託會社力受クヘキ報酬額ノ計算方法
 - 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關スル事項
 - 委託者又ハ受益者ニ對スル特別利益ノ提供ニ關スル事項

八 其ノ他重要ナル事項

- 第四條 信託會社力營業ノ免許ヲ得タル日ヨリ六月内ニ業務ヲ開始セサルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ但シ己ムコトヲ得サル事由ニ因リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 信託會社力業務ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ
- 第六條 信託契約ヲ爲スニハ書面ヲ用ウヘシ
- 第七條 信託契約書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託者及信託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ
- 委託者、受益者及信託會社ノ氏名又ハ商號
 - 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アルトキハ其ノ範圍、資格其ノ他受益者トナルヘキ者ヲ知ルコトヲ得ヘキ事項
 - 受益權ノ發生ニ付受益者力信託ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示スルヲ要件トスルコト又ハ委託者力受益者ヲ指定若ハ變更スル權利ヲ有スルコトヲ定メタルトキハ之ニ關スル事項
 - 信託ノ目的
 - 信託契約締結ノ際ニ於ケル信託財産ノ種類、數量及價額

六 信託法第三條ノ規定ニ依ル登記、登録又ハ信託財産ナルコトノ表示及記載ニ關スル事項

七 契約ノ期間

八 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ヲ特定又ハ指定シタルトキハ其ノ種類

九 受益者ニ交付スヘキ信託財産ノ種類並其ノ交付ノ方法及時期

十 信託財産タル金錢ト他ノ信託財産タル金錢トノ合同運用ニ關スル事項

十一 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ補填補足ノ割合其ノ他之ニ關スル事項

十二 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲シ得ヘキコトヲ定ムルトキハ其ノ財産ノ種類、價格算定ノ方法

十三 信託會社カ受クヘキ報酬ニ付其ノ額又ハ其ノ計算方法、支拂義務者並支拂ノ方法及時期

十四 信託財産ニ關スル租税、公課、修繕費其ノ他ノ費用ニ關スル事項

十五 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關スル事項

十六 信託終了ノ場合ニ於ケル最終計算及其ノ報告ニ關スル事項

ル事項

十七 左ノ事項ニ付信託契約ニ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル事項

イ 信託法第八條第一項但書ノ規定ニ依ル信託管理人之指定

ロ 受託者數人アル場合ニ於ケル信託事務ノ處理

ハ 受託者ノ辭任

ニ 任務終了ノ場合ニ於ケル新受託者ノ選任

ホ 信託終了ノ事由

ヘ 金錢信託以外ノ信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル解除

ト 信託法第五十八條ノ規定ニ依ル信託ノ解除

十八 證書作成ノ年月日

十九 其ノ他重要ナル事項

第八條 信託會社ハ五百圓未満ノ金錢信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 信託會社ハ信託期間二年ヲ下ル金錢信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス但シ運用方法ノ特定セルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 信託會社ハ其ノ保證ノ責ニ任スヘキ限度ノ確定セサル信託ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 信託會社ノ保證スル債務ノ總額ハ其ノ資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

一人ノ債務者ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 主タル債務者カ會社ナルトキハ信託會社カ其ノ會社ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ該會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ拂込金及準備金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 主タル債務者カ會社ニ非サルトキハ信託會社ハ物上擔保ヲ徵スルニ非サレハ保證ヲ爲スコトヲ得ス但シ主タル債務者カ公共團體又ハ産業組合ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 信託會社カ國債、地方債、特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ社債若ハ株式、不動産又ハ法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ擔保トシテ保證シタル債務額ハ第十一條及第十二條ノ適用ニ付信託會社ノ保證スル債務ノ總額ヨリ之ヲ除算ス

第十五條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託額カ資本金ノ十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ五十萬圓)ニ達スル迄ハ每事業年度末日ヨリ二十日以内ニ資本金ノ二分ノ一以上(資本金千萬元以上ナルトキハ五萬圓以上)ノ金額ニ相當スル供託ヲ爲スヘシ

第十六條 前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ハ其ノ供託價格カ資本金ノ十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ百萬圓)ヲ超過スル部分ニ非サレハ其ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得ス但シ供託換ノ目的ヲ以テ供託シタル國債ノ供託價格以下ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託國債ノ供託價格ハ每事業年度末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二十條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ノ下戻ヲ受ケムトスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外地方長官カ其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供託局、供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スヘシ

信託會社ハ前項ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由並國債ノ種類、記號、番號、枚數、券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ニ對シ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 信託會社カ信託業法第九條ノ規定ニ依リ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ補足スヘキ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ利益歩合ハ大藏大臣ノ定ムル歩合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 信託會社カ信託業法第十一條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十三條 信託會社ノ事業年度ハ毎年六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ翌年五月迄トス

第二十四條 信託業法第十三條第一項ノ業務報告書ハ附屬雜形ニ準シテ調製シ事業年度經過後二月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ提出ヲ延期スルコトヲ得

第二十五條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ規定ニ依リ手續ヲ爲シタル後信託會社ノ總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 株主總會ノ決議錄及社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ

足ル書面

二 合併ニ關スル契約書

三 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面

四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表

五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告及催告並商法第二百二十條ノ二ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面

第二十六條 信託會社カ定款ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及株主總會ノ決議錄ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ資本減少ニ關シ定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ尙前條第四號及第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十七條 信託會社カ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十八條 信託會社カ代理店ヲ設置セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及代理店契約書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十九條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

一 取締役又ハ監査役ノ就任又ハ退任アリタルトキ

二 本店、支店又ハ代理店ヲ移轉シタルトキ

三 代理店契約ノ變更、消滅又ハ更新アリタルトキ

四 訴訟事件ノ被告トナリタルトキ

五 支拂停止ヲ爲シタルトキ

六 業務ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキ

七 和議開始ノ申立ヲ爲シ、和議認可ノ決定力確定シ又ハ和議力其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

八 破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキ

九 強制和議認可ノ決定力確定シ又ハ強制和議力其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

第三十條 信託業法又ハ本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三十一條 本令ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役又ハ監査役ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條及第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第五條及第二十九條ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届出ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ

附則

第十三類 産業、移民 第一編 産業

本令ハ信託業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條第二項ノ規定ハ信託業法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム株式會社カ營業ノ免許ヲ受ケムトスル場合ニ付之ヲ準用ス

信託業法附則第二項ノ適用ヲ受クヘキ株式會社カ提出スル免許申請書ニハ第一條第二項ニ依リ添附スヘキ書類ノ外本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營メルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

本令施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ信託業法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本令施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本令ノ規定ニ適合セサルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

(様式省略)

擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日)總、大、司、副署
法律第五十二號

沿革 明治四二年四月法律第二九號、四五年四月第一四號、大正三年二月第三號、一一年四月第六六號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル擔保附社債信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル

附則

第十三類 産業、移民 第一編 産業

信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ
第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス
第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 動産質
 - 二 證書アル債權質
 - 三 不動産抵當
 - 四 船舶抵當
 - 五 鐵道抵當
 - 六 工場抵當
 - 七 鑛業抵當
 - 八 軌道抵當
 - 九 輕便鐵道抵當
 - 十 運河抵當
- 第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得

應ニ於テ之ヲ爲ス

商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ
第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ
一 委託會社及受託會社ノ商號
二 社債ノ總額

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲シメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官

三 各社債ノ金額

四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額

五 社債ノ利率

六 社債償還ノ方法及期限

七 利息支拂ノ方法及期限

八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示

九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示

十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテ

モ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ其ノ事項ヲ公告スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項

二 物上擔保附社債ナルコト

三 信託證書ノ表示

四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所

前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依リ債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 債券ノ番號

四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレ

ハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ
前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ召集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得
前項ノ召集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第五十一條 商法第五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ召集自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ
受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ
商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ
第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ
第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半数以上ニシテ社債總額ノ半数以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得
各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低額ノ一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付召集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ召集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ召集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債権者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債権者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債権者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債権者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債権者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條 社債権者集會ヲ招集シタル者ハ決議録ヲ作成スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置ク

受託會社ハ委託會社又ハ社債権者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條 社債権者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條 社債権者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債権者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條 社債権者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ效力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債権者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債権者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債権者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ノ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セ

第七十五條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債権者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権

者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遅延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ解散シタルトキハ委託會社ハ遲滯ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ
民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲

ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滯ナク債權額ニ應ジテ各社債權者ニ交付スヘシ
受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ノ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ
受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外

ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ
受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス
受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社

カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得
信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第一百條

前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ前ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行為ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ前ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行為ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第一百零一條

前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

前受託會社ノ取締役、又ハ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行為ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス

受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第六條ノ規定ニ違反シタルトキ

第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ

第九十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債

第九十八條

前二條ノ規定ニ違反シタルトキ

本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ

第九十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ

第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ

第九十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ

第九十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第九十三條

第百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第百九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添付スヘシ

第百十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

第百十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ委託會社ヲ登記權利者トス

第百十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第百十六條又ハ第百十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

第百二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十八年六月勅令第百八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

擔保附社債信託法施行細則

(明治三十八年五月三十一日)
大藏省令第三十五號
沿革 大正五年五月大藏省令第一二號、昭和二年一月第三三號
改正

擔保附社債信託法施行細則左ノ通相定ム

擔保附社債信託法施行細則

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マントスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添付シテ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ差出スヘシ

一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面

三 最終ノ貸借對照表
第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滞ナク左ノ書類ヲ添付シテ届出ツヘシ

一 信託證書謄本

二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本

三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面
前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス

前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添付スヘシ

第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)

第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ差出スヘシ

一 信託證書案
二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本

三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シタル書面

第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ届書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ招集アリタルトキハ遲滞ナク集會ノ目的、場所、期日及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

信託會社カ社債權者集會ノ決議錄ヲ作成シ又ハ決議錄謄本ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ決議錄謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ

社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ記載シタル書面ヲ添付シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面

二 招集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ

招集ノ手續ヲ爲ササリシ事實ヲ記載シタル書面
前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債権者ナルト
キハ前項ノ書類ノ外其ノ社債権者カ各自有スル債券額及社
債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書
面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債
券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀
行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債権者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債権者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ社債権者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但シ申請者カ社債権者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録本ヲ添附スヘシ

- 一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會社ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面
- 二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル届書ニハ

同條第一項ノ契約書謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第十五條ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ引續ノ顛末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滞ナク各會社共同シテ左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併ニ依リ信託ノ業務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 合併ニ關スル契約書
- 二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存続スル會社ノ定款
- 三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各自ノ貸借對照表
- 四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
- 五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面

合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存続スル會社カ新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附ス

第十三類 産業、移民 第一編 産業

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞

ナク供託金受領書謄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債権者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面
- 二 信託事務ニ關スル計算書
- 三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル許可申請書ニハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關スル計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申請者カ社債権者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録本ヲ添附スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ

第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一ニ當ル社債権者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滞ナク届出ツヘシ

清算カ終了シタルトキハ遲滞ナク決算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登録ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滞ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

- 一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
- 二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及

第十三類 産業、移民 第一編 産業

第十三類 産業、移民 第一編 産業

- 其ノ決定アリタルトキ
- 三 検査役ノ選任アリタルトキ
 - 四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ
 - 五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ招集ヲ爲シタルトキ

第二十六條 信託會社カ其ノ定款ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二十六條ノ二 信託會社ノ營業年度ハ毎年六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ翌年五月迄トス但シ銀行事業ヲ兼營スル信託會社ニ在リテハ銀行ノ營業年度ニ依ル

第二十六條ノ三 信託業法施行細則第二十四條ノ規定ハ信託(附屬様式)

(本様式ニ記載スルノ外他ノ勘定アルトキハ類似ノ項ニ準シテ便宜調製スヘシ)

信託契約ノ口數及社債金額左ノ如シ

種類	前期繰越		当期契約		当期解約		現在契約	
	口數	社債金額	口數	社債金額	口數	社債金額	口數	社債金額
當會社募集		圓		圓		圓		圓
當會社總額引受								
委託會社募集								
計								

會社ニ之ヲ準用ス但シ社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ營業報告書中ニ之ヲ記載スヘシ

銀行事業又ハ信託業法ニ依ル信託業ヲ兼營スル信託會社ニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ銀行法、信託業法又ハ其ノ他ノ特別ノ法律ニ依リテ提出スヘキ業務報告書中ニ社債ニ關スル事項ヲ附屬様式ニ準シテ記載スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十八年七月一日ヨリ施行)

第三者總額引受

計									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(承繼契約ニヨリ前受託會社ヨリ引渡サレタル高ハ当期契約ニ辭任又ハ解任ニ依リ引繼キタル高ハ当期解約ニ合算シ各其口數及社債金額ヲ相當欄ニ附記スヘシ)

當會社募集社債現在高内譯

委任會社名	現發行高	未發行高	合計	擔保價格
				不動産抵當
				船舶抵當
				鐵道抵當
				工場產物質當
				何々
				、、、、、
				、、、、、
				、、、、、
				、、、、、

當會社總額引受社債現在高内譯

委託會社募集社債現在高内譯

第三者總額引受社債現在高内譯

(右各種ハ受託會社募集社債現在高内譯ニ準シ詳記スヘシ)

擔保附社債ノ引受

第十三類 産業、移民 第一編 産業

運用スルコトヲ得ス

- 一 國債證券、地方債證券其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ債券又ハ株券ノ買入
 - 二 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付
 - 三 掛金者ニ對シ契約給付金額ヲ限度トスル貸付
 - 四 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
- 前項第三號ノ規定ニ依ル貸付金總額ハ拂込濟資本金及諸準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條 無盡業ヲ營ム株式會社カ會社財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス
前項ノ責任ハ取締役カ退任ノ登記ヲ爲シタル後二年間仍存續ス

第十一條 無盡業者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ其ノ經營スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス
會社ニ非シテ無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ主務大臣ノ認許ヲ受ケタル場合ニ限り其ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ得

第十二條 無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及使用人ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ會社ト無盡契約ヲ爲シ又ハ會社ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

ニ備ヘ置クヘシ

第十九條 掛金者ハ無盡業者ニ對シ營業時間内何時ニテモ前半年末貸借對照表ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ前條ノ帳簿中其ノ加入シタル無盡ニ關スル部分ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 無盡業ヲ營ム會社ハ資本又ハ出資ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡業者ヲシテ其ノ事業報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ無盡業者ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ掛金者ノ利益ヲ保護スル爲ニ必要ト認ムルトキハ其ノ事業方法ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

無盡業者カ法令、定款又ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ會社ニ非サル無盡業者又ハ無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ規定ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ニ付之ヲ準用ス

第十三條 無盡業者ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲ササル者アル場合ト雖第一回ノ抽籤入札ノ後ハ給付金額ヲ減少シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ス

第十四條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込ナキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任ス

第十五條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル訴ニ於テハ無盡ノ管理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

前項ノ訴ニ於テ言渡シタル判決ハ無盡ノ加入者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス但シ各加入者ハ拂込ヲ了セサル掛金額ヲ超エテ執行ヲ受クルコトナシ

第十六條 無盡業者ハ毎半年事業ノ報告書ヲ作り主務大臣ニ提出スヘシ

第十七條 無盡業者ハ毎半年ノ貸借對照表ヲ作り新聞紙又ハ事業方法書ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第十八條 無盡業者ハ各無盡ニ付抽籤入札ノ都度其ノ收支ノ計算ヲ帳簿ニ記載シ次回ノ抽籤入札ノ前日迄ニ之ヲ營業所

一 第五條、第八條第一項、第九條、第十一條、第十三條、第十六條乃至第十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第六條ノ規定ニ依リ定メタル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ

三 第八條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

四 正當ノ理由ナクシテ第十九條ノ閱覽ノ請求ヲ拒ミタルトキ

五 第二十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ

第二十五條 第十二條ノ規定ニ違反シ無盡業者ト無盡契約ヲ爲シタル會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役若ハ使用人又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

無盡業者前項ノ無盡契約ヲ爲シタルトキハ會社ニ非サル無盡業者又ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第二十六條 第二十條ノ規定ニ違反シタルトキハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第二十七條 第四條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第二十九條 本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正四年十月勅令第七十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行)

第三十一條 本法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本法施行前ニ爲シタル無盡契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條、第十八條、第二十一條乃至第二十四條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ他ノ事業ト共ニ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業區域外ニ於ケル營業ノ繼續ヲ認許スルコトヲ得

第三十三條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ二箇以上ノ道府縣ニ亙リ無盡業ヲ營ム者カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業區域外ニ於ケル營業ノ繼續ヲ認許スルコトヲ得

法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類、株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 既設會社ニシテ無盡業ヲ營ムトスルモノハ其ノ資本金額及營業所ヲ記載シタル免許申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シテ前條第一項ニ記載シタル書類ノ外左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 會社登記簿ノ謄本
- 二 最終ノ財産目録及貸借對照表
- 三 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面
- 四 株主ノ氏名及持株數ヲ記載シタル書面
- 第三條 會社ニ非スシテ無盡業ヲ營ムトスル者ハ其ノ資本金額、營業所及營業ヲ表示スル名稱ヲ記載シタル免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
- 一 戶籍謄本
- 二 履歴書
- 三 資産調査書
- 四 事業方法書
- 五 無盡契約約款
- 第四條 會社ニ非スシテ新ニ無盡業ヲ免許申請ヲ爲ス者他ノ事業ヲ兼營セムトスルトキハ其ノ事業ノ種類ヲ記載シタル免許申請書ニ事業狀況説明書又ハ事業計畫書ヲ添附シテ地

於テ爲シタル無盡契約ニ關シテハ無盡業者ハ認許期間満了後其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第三十四條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ資本又ハ出資ノ金額ヲ以テスル拂込金額ニ付第三條ノ規定ヲ適用セス

無盡業法施行細則

(大正四年十月五日) (大藏省令第三十號)

沿革 大正一〇年七月大藏省令第二十四號改正 無盡業法施行細則左ノ通定ム

無盡業法施行細則

- 第一條 新設會社ニシテ無盡業ヲ營ムトスルモノハ其ノ資本金額及營業所ヲ記載シタル免許申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 無盡契約約款
- 四 認可申請前日ニ於ケル會社ノ日計表
- 前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面、株式會社ニ在リテハ非訟事件手續

方長官ニ提出スヘシ

前項ノ規定ハ會社ニ非スシテ既ニ無盡業ヲ營ムル者他ノ事業ヲ兼營セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

- 第五條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 無盡ノ種類
- 二 各種無盡ノ豫定收支計算
- 三 各種無盡ニ付無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額ノ算出方法
- 四 各種無盡ニ付給付金カ掛金ヲ超過スル場合ニ於ケル給付資金ノ補填方法
- 五 掛金ノ取立又ハ拂込ノ方法
- 六 抽籤入札其ノ他給付ノ順位ヲ定ムル方法
- 七 入札ノ場合ニ於ケル最低手取金高ノ制限
- 八 入札差金分配ノ方法
- 九 掛金ニ對スル保證又ハ擔保ニ關スルコト
- 十 缺口處理ノ方法
- 十一 代理店ノ權限ニ關スルコト
- 十二 勸誘又ハ集金ニ要スル經費
- 十三 會社ニ非スシテ無盡業ヲ營ム者ノ事業經營區域
- 十四 貸借對照表ヲ新聞紙ニ公告セサル者ニ在リテハ其ノ公告方法
- 前項第二號ノ豫定收支計算ハ無盡ノ口數、毎回ノ掛金額、

給付ノ金額、回数及其ノ毎回ニ於ケル収入及支出金額ヲ表
記スルコトヲ要ス

無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ニ在リテハ其ノ旨ヲ事業方法書
ニ附記スルコトヲ要ス

第六條 無盡契約約款ニハ前條第五號乃至第九號ノ事項ノ外
左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 掛金延滞ノ場合ニ於ケル違約金又ハ遅延利息ニ關スル
コト

二 無盡契約解除ノ條件及效果ニ關スルコト

三 無盡契約ニ基ク權利義務ノ讓渡ニ關スルコト

第七條 無盡契約ヲ爲スニハ書面ヲ用フルコトヲ要ス無盡契
約書ニハ無盡契約約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル
書面ヲ添付スヘシ

第八條 無盡契約ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 無盡ノ給付金額ハ千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條 無盡ノ口數ハ百ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 無盡業者ハ特ニ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合
ニ在リテハ前三條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 無盡業者カ事業ヲ開始シタルトキハ遅滞ナク地方
大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

長官ニ届出ツヘシ

第十二條ノ二 無盡業ヲ營ム會社ノ取締役又ハ監査役ニ異動
ヲ生シタルトキハ遅滞ナク其ノ住所、氏名及職業ヲ地方長
官ニ届出ツヘシ

第十三條 無盡業者カ支拂停止ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ
具シテ地方長官ニ届出ツヘシ

第十四條 無盡業者カ其ノ事業ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキ
ハ其ノ事由ヲ具シテ地方長官ニ届出ツヘシ

第十五條 無盡業者カ破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗
告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキハ其
ノ事由ヲ具シテ地方長官ニ届出ツヘシ無盡業者カ協約契約
ニ付裁判所ノ認可ヲ受ケ又ハ協約契約カ其ノ效力ヲ失ヒタ
ルトキ亦同シ

第十六條 無盡業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ
商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後各會社ノ業務執行社員
ノ全員、總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添
附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 總會ノ決議録又ハ社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足
ルヘキ書面

二 合併ニ關スル契約書

三 合併ニ因リ存続スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社
ノ定款

四 商法第七十八條第一項ニ依リ作成シタル貸借對照表

五 商法第七十八條第二項ニ依ル公告、催告及商法第二百
二十條ノ二ノ通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書
面

第十七條 合名會社カ組織ヲ變更シテ合資會社トナリ若ハ合
資會社カ組織ヲ變更シテ合名會社トナリタルトキハ其ノ届
書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル總社員ノ同意ア
リタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添付シテ大藏大臣ニ提
出スヘシ

第十八條 株式合資會社カ組織ヲ變更シテ株式會社トナリタ
ルトキハ其ノ届書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル
株主總會ノ決議録、無限責任社員ノ一致アリタルコトヲ知
ルニ足ルヘキ書面ヲ添付シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十九條 無盡業ヲ營ム會社カ定款ヲ變更セムトスルトキハ
認可申請書ニ理由書、株主總會ノ決議録、總社員ノ同意ア
リタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添付シテ地方長官ニ提
出スヘシ

株式會社又ハ株式合資會社ノ資本減少ニ關スル定款變更認
可申請書ニハ前項ノ書類ノ外第十六條第四號及第五號ノ書
面ヲ添付スヘシ

第二十條 會社ニ非サル無盡業者カ資本金額又ハ營業所ヲ變
更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添付シテ地方長
官ニ提出スヘシ

第二十一條 無盡業者カ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ變更シ
タルトキハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第二十二條 無盡業者カ事業方法ヲ變更セムトスルトキハ認
可申請書ニ理由書ヲ添付シテ地方長官ニ提出スヘシ

第二十三條 無盡業者ノ事業年度ハ毎年一月ヨリ六月迄及七
月ヨリ十二月迄トス

第二十四條 無盡業法第十六條ノ事業報告書ハ附屬雛形ニ準
シテ調製シ事業年度經過後二月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ
但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケテ
延期スルコトヲ得

第二十五條 無盡業法第十八條ノ帳簿ニハ無盡ノ番號及現在
口數ヲ記載シ左記各號ニ關スル收支計算ヲ明ニスヘシ

一 掛金

二 給付金(入札差金ヲ含ム)

三 入札差金

四 解約ニ因ル受拂金

五 利益ニ組入ルヘキ金額

第二十五條 本則中給付金、給付金額トアルハ有價證券ノ給付ヲ爲ス無盡ニ在リテハ給付證券、給付證券價額トシ、無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額トアルハ無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業ニ在リテハ管理手数料其ノ他管理者ノ取得スヘキ利益トス

第二十六條 無盡業法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本則施行後一月内ニ其ノ事業狀況ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱、營業所、資本金額、拂込資本金額、無盡契約高、給付濟高、其ノ兼營スル他業ノ種類、最終ノ貸借對照表及會社ノ取締役、監査役又ハ業務執行社員ノ氏名ヲ記載シ定款、營業規程ヲ添付スヘシ

第二十七條 無盡業法第三十二條ノ規定ニ依リ他ノ事業ノ兼營ノ認許ヲ申請セムトスルトキハ認許申請書ニ其ノ兼營セムトスル事業ノ經過、現在ノ狀況及將來ノ計畫ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十八條 無盡業法第三十三條ノ規定ニ依リ營業區域外ニ於ケル營業繼續ノ認許ヲ申請セムトスルトキハ認許申請書ニ事業ノ將來ニ關スル計畫ヲ記載シタル書面ヲ添附シ其ノ營業地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

前項ノ認許ヲ受ケタル無盡業者カ資本金額又ハ定款ヲ變更セムトスルトキハ主タル營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ認可申請書ヲ提出スヘシ

第二十九條 無盡業法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ニシテ其ノ營業ノ免許ヲ得サルモノノ事業報告書ハ第二十三條ノ雛形ニ依ルコトヲ要セス

第三十條 無盡業法又ハ本則ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ會社ニ非サル無盡業者又ハ無盡業ヲ營ム會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ヲ科料ニ處ス

一 第七條、第十二條乃至第十五條、第十七條、第十八條、

第二十條第二項又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第二十四條ノ規定ニ違反シ帳簿ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

本則ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
(様式省略)

第四章 鑛業

●鑛業法

(明治三十八年三月八日)總、農、大、法律第四十五號)大臣副署

沿革 明治四〇年四月法律第四一號、四三年三月第一〇號、四四年三月第九號、大正一三年七月第二二號、昭和二年三月第三六號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鋅鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿侖鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單一一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス

第三條 未タ掘採セサル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ(鑛山監督署長)ニ届出ヘシ其ノ届出ナキトキハ(鑛山監督署長)之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地帶第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河川、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、

所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ(鑛山監督署長)ニ委任スルコトヲ得

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セララルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分

ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス
前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業権者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業権者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認めタルトキ又ハ鑛業ノ價値ナシト認めタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二 試掘権者試掘権ノ存続期間満了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘

鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ鑛業権者ト看做ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 採掘権者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

第三十六條 鑛業権者ハ隣接鑛區ノ鑛業権者及抵當権者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形状ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利

ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業権者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業権者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サルトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添付スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及

第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ採掘権ヲ取消スヘシ

抵當権ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當権者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業権ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業権ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認めタルトキハ農商務大臣ハ鑛業権ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業権者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ

施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業権ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 鑛業権者七十二條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業権ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 採掘権取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當権者ニ通知スヘシ

抵當権者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ採掘権ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘権取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス採掘権ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存続スルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ採掘権者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 採掘権者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命

スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

第三章 土地使用

第五十條

本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セ

第五十一條

本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條

鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ

三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管種、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、塙欄其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ

出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入りラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鑛業上急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 錐鑽孔又ハ坑口ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ示ス其ノ

第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増

置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ

關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得

第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキ

ト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ收得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セ

ラル但シ使用物ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ノ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ
一 建設物及工作物ノ保安
二 生命及衛生ノ保護
三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

第七十二條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

第七十三條 農商務大臣ハ探掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫

第七十五條 探掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル

者ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、探掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存続期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務

大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、探掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴訟、訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルモ
ト得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟
ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議
調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者
ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ
提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキ
ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日
ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ
其公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐
偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ〔重禁錮〕又
ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收

キス

第九十六條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法
又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用
スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年
者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第九十七條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇
人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルト
キハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルル
コトヲ得ス

第九十八條 本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外
其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第九十九條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スル
コトヲ得ス

第一百條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本
法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第一百零一條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第一百零二條 鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登録ト看做
ス

第一百零三條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル採掘
ノ特許ハ採掘權ノ登録ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第

ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス
第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル
者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル
者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背
シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令
ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル
命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第
七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ
除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十
圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ
又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條ア
ルモノハ刑法ニ依ル

第一百零一條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第一百零二條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免
レムトシタル者ハ其ノ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百零三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シ
タル者ニハ刑法ノ減輕、〔再犯〕加重及〔數罪俱發〕ノ例ヲ用

二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期
限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第一百零四條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘鑛
區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登録ヲ得タルモノト看
做ス

第一百零五條 鑛業條例ニ依ル採掘權ノ書入ノ登録ハ抵當權ノ
登録ト看做ス

第一百零六條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ
採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期
間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一百零七條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條
例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行
ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不
足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百零八條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル
鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第一百零九條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限
リ之ヲ適用セス

第一百十條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ
行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依
リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一百十一條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定

第一百十二條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定

第一百十三條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定

請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第一百八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第一百九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ採掘スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採掘區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ採掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第二百十條 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督署長ニ届出ルトキハ其ノ届出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

鑛業法施行細則

沿革 明治三十九年五月農商務省令第一五號、四〇年四月第八號、四二年六月第二四號、四四年三月第一〇號、大正元年一月第二一號、五年八月第二〇號、一〇年九月第二七號、一三年一〇月第一八號改正

鑛業法施行細則左ノ通定ム

鑛業法施行細則

第一條 願書、申請書、届書及圖面ハ一件毎ニ之ヲ調製シ様式ノ定アルモノニ付テハ其ノ様式ニ準スヘシ

第二條 農商務大臣又ハ鑛山監督署長ニ差出シタル書面、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第三條 鑛業ニ關シテ命令又ハ通知ヲ發スル場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間満了ノ日ニ命令又ハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第四條 本則ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本則中鑛業ノ出願ニ關スル規定ハ鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付之ヲ準用ス

第六條 書面又ハ圖面不完備ナルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ修正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

第七條 書面又ハ圖面ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ消印記號ニ記載シタル最終ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス

郵便物受取證ニ依リテ前項ノ規定ニ依ル日時外ノ日時ニ差出シタルコトヲ證明シタルトキハ其ノ日時ニ差出シタルモノト看做ス其ノ消印記號ナキ場合又ハ其ノ不明ナル場合ニ於テ郵便物受取證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證明シタルトキ亦同シ

第八條 農商務大臣ニ差出スヘキ書面又ハ圖面ハ鑛山監督署長ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ニ差出シタル日時ヲ以テ差出ノ日時ト看做ス

第九條 同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付鑛業ヲ爲サムトスル者ハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鑛業ノ許可ヲ得タル鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ願書ニ理由書ヲ添附シテ差出スヘシ

第十一條 共同鑛業出願人ハ願書ト共ニ速署シタル代表者選定ノ届書ヲ差出スヘシ

共同鑛業出願人ハ願書ニ代表者ヲ表示シテ前項ノ届出ニ代フルコトヲ得

前二項ノ規定ハ出願人ノ變更、鑛業權ノ設定又ハ移轉ニ因リ鑛業出願人又ハ鑛業權者ト爲ルヘキ者二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定ノ場合ニ於テハ登録稅納付書

ニ代表者ヲ表示シタルトキハ之ヲ以テ代表者ノ届出ト看做ス

第十二條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者代表者ヲ改定シタルトキハ遲滞ナク速署シテ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十三條 鑛業法第七條第一項ノ規定ニ依リ鑛山監督署長代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ通知スヘシ

第十四條 鑛業出願人代表者ニ依リテ鑛業出願ノ取下、區域増減ノ出願又ハ出願人變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ其ノ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ依リテ鑛區ノ増減、合併又ハ分割ヲ出願スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 鑛業ニ關スル出願ニシテ鑛利保護上又ハ鑛區分合上出願地及鑛區ノ面積百萬坪ヲ超ユル場合ニ於テハ願書ニ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

第十六條 鑛業ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所ニ係ルトキハ出願ノ日ヨリ三十日以内ニ所轄官廳ノ許可書若ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

鑛業出願後其ノ出願地鑛業法第十條第二項ノ場所トナリタルトキハ其ノ公示ノ日ヨリ三十日以内ニ前項ノ書面ヲ差出

スヘシ

第十六條ノ二 鑛業出願地カ實地調査ニ因リテ鑛業法第十條

第二項ノ場所ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ前條ノ規定ニ拘ラス相當ノ期限ヲ附シ其ノ差出スヘキ書面ヲ提出ヲ命スルコトヲ得錯誤ニ因リ其ノ書面ノ添附ヲ遺漏シタルモノト認メタルトキ亦同シ

第十七條 鑛業出願地ノ形狀鑛業ヲ爲スニ不適當ナリト認ム

ルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得

第十八條 鑛業出願人他人ノ鑛區ニ鄰接シテ鑛區ヲ定メムト

スルトキハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置クヘシ但シ鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキ、試掘鑛區ノ範圍内ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲ストキ又ハ鑛業法第三十三條ノ二ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
前項鄰接鑛業權者ノ承諾ヲ得タルトキハ願書ニ承諾書ヲ添附シテ差出スヘシ之ヲ添附セサルトキハ承諾ナキモノト看做ス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲前項ノ距離ノ延長又ハ減縮ニ必要ナリト認ムルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經相當ノ期限ヲ附シテ出願地ノ増減ヲ命スルコトヲ得
第十九條 鑛業願書ニ添附スヘキ圖面ハ様式第十四號ニ準シテ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一 出願地ノ名稱及種目

二 出願地ノ面積

三 南北線

四 縮尺

五 二箇以上ノ不動基點其ノ名稱及特徵

六 出願地ノ各隅トナルヘキ測點其ノ番號

七 境界線基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數

八 出願地ヨリ五十間以内ニ於ケル他ノ鑛區トノ關係

九 出願地又ハ其ノ附近ニ於ケル鑛床ノ露頭及其ノ走向、傾斜

十 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條又ハ第十一條ニ記載シタルモノ

第二十條 採掘出願人ハ其ノ願書ニ採掘モムトスル鑛物ノ鑛

床ニ關スル説明書ヲ添附スヘシ

第二十一條 試掘又ハ採掘ノ願書及出願地又ハ鑛區ノ増減ノ

願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發送郵便局ヨリ受附ノ年月日及時刻ヲ

記載シタル受取證ヲ請置クヘシ

第二十二條 〔鑛山監督〕署長ハ相當ノ期限ヲ附シ出願人ニ鑛

業ノ設備ニ關スル設計書ヲ提出ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リテ設計書ヲ提出シタル試掘出願人カ出願

ノ許可後其ノ設計ヲ變更シテ作業セムトスルトキハ〔鑛山

監督〕署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條ノ二 〔鑛山監督〕署長ハ相當ノ期限ヲ附シ試掘權

者ニ鑛業ノ設備ニ關スル設計書ヲ提出ヲ命シ若ハ理由ヲ示シテ設計書ノ變更ヲ命スルコトヲ得

試掘權者カ前項ノ命令ニ依リテ提出シタル設計書ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ〔鑛山監督〕署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 (削除)

第二十四條 〔鑛山監督〕署長ハ鑛業ニ關スル出願又ハ鑛區ニ

付實地調査ヲ必要ト認ムルトキハ調査事項及調査期日ヲ指定シ出願人又ハ鑛業權者ニ立會ヲ命スルコトヲ得若シ調査

期日ヲ指定スルコト能ハサルトキハ豫定期日ヲ定メ確定期日ハ出張吏員ノ指定ニ依ルヘキコトヲ命スヘシ

出張吏員カ確定期日ヲ指定スルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ但シ出願人又ハ鑛業權者ニ於テ異議ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 鑛業出願人變更ノ屆書ニハ新舊出願人連署スヘシ

第二十五條ノ二 試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲

シタル後出願人ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ試掘權

ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十五條ノ三 試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲

シタル後試掘權ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ届出アリ

タルモノト看做ス

第二十六條 相續ニ因リテ鑛業出願人ト爲リタル者又ハ氏

名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業出願人ハ戶籍吏ニ届出

タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ事實ヲ證スヘキ

書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ法人ノ代表

者ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十七條 共同鑛業出願人脱退シタルトキハ代表者若シ代

表者ナキニ至リタルトキハ共同出願人ハ脱退ノ日ヨリ十日

以内ニ其ノ原由ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ〔鑛山監督〕署

長ニ届出ヘシ

第二十八條 採掘出願地ノ訂正願書ニハ訂正理由書ヲ添附ス

ヘシ

第二十九條 採掘出願地ノ訂正又ハ鑛業出願地ノ増減ノ願書

ニ添附スヘキ圖面ニハ新舊出願地ノ關係ヲ明示スヘシ

第二十九條ノ二 第三十六條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ

出願人ハ出願地ノ増減並鑛種名ノ更正ヲ出願スルコトヲ得

ス

第三十條 鑛業法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル抽籤ハ關係

鑛業出願人立會ノ上〔鑛山監督〕署長之ヲ行フ

〔鑛山監督〕署長ハ抽籤ノ日時ヲ定メ少クトモ十四日前ニ關

係鑛業出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル鑛業出願人抽籤日時ニ出頭セサルト

キハ〔鑛山監督〕署長ハ二名以上ノ〔鑛山監督〕署職員立會ノ上之ヲ行フ

第三十一條 鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附シ且之ニ添附スヘキ圖面ニハ合併又ハ分割スヘキ區域ノ關係ヲ明示スヘシ但シ分割ノ願書ニ添附スヘキ圖面ハ各區域毎ニ之ヲ調製スヘシ

鑛業法第三十五條第二項ノ規定ニ依ル抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ順位ニ關スル協定書ハ合併又ハ分割ノ願書ニ之ヲ添附スヘシ

第三十二條 鑛業法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル鑛區增區ノ願書ニハ鑛床圖ノ説明書、鄰接鑛業權者及抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業法第三十六條第二項ノ規定ニ依ル鑛區訂正ノ願書ニハ鑛床圖ノ説明書、鄰接鑛業權者ノ承諾書又ハ鑛業法第九十條ノ規定ニ依ル裁決書若ハ判決書ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ願書ニ添附スヘキ鑛床圖ハ平面圖及截面圖ノ二種ニ分チテ之ヲ調製スヘシ

第三十三條 鑛區訂正ノ願書ニ關シテハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 鑛區ノ訂正、増減又ハ改正ノ願書ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 鑛業法第三十七條第三項ノ規定ニ依ル減區又ハ増減區ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第三十六條 鑛業ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録稅ヲ納付スヘシ此ノ期間内ニ登録稅納付書ヲ差出シタルモ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ在リテハ期間後ト雖更ニ登録稅ヲ納付スルコトヲ得

登録稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ第七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ登録稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第四項ノ規定ハ第十條ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 鑛區ノ合併、分割、減區又ハ増減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ合併、分割又ハ減少前ノ鑛業權ニ付登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ登録稅納付書ニ添附シテ差出スヘシ但シ鑛區ノ分合又ハ増減ノ願書ト共ニ

承諾書ヲ差出シタルモノニ付テハ納付書ニ其ノ事由ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十七條 鑛區所在地ノ名稱、種目、境界、基點又ハ面積カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ鑛業權ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令書ニ調査圖ヲ添附スヘシ

〔鑛山監督〕署長カ鑛業ノ表示變更ニ關スル鑛區圖ノ提出ヲ要セサルモノト認メタルトキ又ハ前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖ヲ調査シ完備シタルモノト認メタルトキハ第三十六條第一項ニ準シ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ〔鑛山監督〕署長ハ願書、申請書又ハ届書ヲ受理セス

- 一 試掘又ハ採掘出願地ノ全部カ所轄〔鑛山監督〕署ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ
- 二 出願ノ鑛物カ鑛業法第二條ノ規定ニ該當セサルトキ
- 三 圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ之ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
- 四 手数料ヲ納付セサルトキ
- 五 (削除)

第十四條ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ

第二十一條ノ規定ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

第二十五條ノ規定ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ

第二十五條ノ二ノ規定ニ違背シ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添附セサルトキ

第三十一條第二項ノ規定ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ

第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ違背シ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ添附セサルトキ

第三十八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ〔鑛山監督〕署長ハ登録稅納付書ヲ受理セス

第三十六條第四項又ハ第三十七條第三項ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ

第三十六條ノ二ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ〔鑛山監督〕署長ハ願書又ハ届書ヲ却下ス

一 實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハサルトキ

- 二 願書ニ添附シタル圖面力實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
- 三 第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
- 四 第十六條ニ規定シタル期間内又ハ第十六條クニノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ
- 五 第十七條又ハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ差出ササルトキ
- 六 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ
- 七 (削除)
- 八 第二十四條ノ規定ニ依リテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
- 九 第三十六條ニ規定シタル期間内ニ登録稅納付書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
- 十 第七十九條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ協定書ヲ差出ササルトキ
- 第四十條 相續ニ因リテ鑛業權者若ハ抵當權者ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業權者若ハ抵當權者ハ戶籍吏ニ届出タル日又ハ登記ノ日ヨリ十四日以内ニ其ノ登録ヲ申請スヘシ法人ノ代表者ヲ變更シタルトキハ之ニ

- 準シテ其ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ
- 第四十一條 鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ
- 第四十二條 試掘權者ハ試掘鑛區圖及試掘工程表ヲ、採掘權者ハ坑内實測圖及鑛業簿ノ外採掘鑛區圖及鑛業施業案ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ
- 第四十三條 鑛業權者ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ノ登録アリタル日ヨリ六箇月以内ニ事業ニ著手セス又ハ六箇月以上休業セムトスルトキハ其ノ期間ヲ附シ理由ヲ詳記シテ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ
- 休業期間内ニ事業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ
- 第四十四條 鑛業施業案ハ様式第十九號ニ準シテ之ヲ調製シ之ヲ説明スヘキ圖面ヲ添ヘ鑛業ニ著手ノ日ヨリ三十日以前ニ差出スヘシ
- 鑛業ノ種類又ハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ理由ヲ明示シ様式ノ記載事項ヲ増減スルコトヲ得
- 第四十五條 〔鑛山監督〕署長ハ鑛業法第四十五條第一項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命スルニハ少クトモ三十日以上ノ期限ヲ附スヘシ

第四十六條 鑛業法第四十五條第二項ノ規定ニ依ル變更願書ニハ新ナル施業案及變更ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十七條 坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於テル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ

坑内實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其ノ他ニ在リテハ毎年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ何時ニテモ坑内實測圖ノ複本ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ提出期若ハ提出回数ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前期ノ坑内實測圖複本ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

第四十八條 鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

鑛業簿ノ複本ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各七月末日及一月末日迄ニ差出スヘシ

第四十九條 前三條ノ規定ニ依リテ調製シ若ハ差出スヘキ書類又ハ圖面ハ採掘權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ採掘權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ調製シ若ハ差出スヘシ

第五十條 鑛業明細表ハ様式第十八號ニ準シテ之ヲ調製シ毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ

第五十一條 前條ノ規定ニ依リテ差出スヘキ書類ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニハ鑛業權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第五十二條 前五條ノ規定ニ依リ坑内實測圖若ハ鑛業簿ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十三條 二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ第四十四條及第四十六條乃至第五十一條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

第五十四條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選任シ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ

前項ノ代理人ハ鑛業法及鑛業法ノ施行ニ關スル命令ノ規定ニ依リテ鑛業ノ管理ニ關シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ手續其ノ他ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

第五十五條 試掘權者ハ試掘工程表ヲ調製シテ一箇月毎ニ開坑ニ關スル狀況、鑛產物ノ數量、行業日數及工數ヲ記載スヘシ

第五十六條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ヲ處分セムトスルト

キハ其ノ方法及數量ヲ記載シ〔鑛山監督〕署長ヲ出願スヘシ

第五十七條 鑛業法第四十九條ノ規定ニ依ル實地調査ノ願書

ニハ調査區域及其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ添付スヘシ

〔鑛山監督〕署長調査ヲ要スルモノト認メタルトキハ調査日

數並之ニ要スル人夫及物品ノ豫定書ヲ調製シ出願人ニ交付

スヘシ

出願人ハ人夫及物品ヲ準備シ現場ニ立會フヘシ

第五十八條 鑛業法第五十二條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ

立入り測量又ハ檢査ヲ爲サムトスル者ハ土地ノ名稱、種目

及其ノ目的ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第五十九條 鑛業法第五十三條ノ規定ニ依リテ障礙物ヲ除却

セムトスル者ハ障礙物ノ種類、名稱、存在ノ場所、所有者

及占有者ノ氏名又ハ名稱並豫定價額ヲ記載シタル願書ヲ差

出スヘシ

第六十條 鑛業法第五十四條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ニ立

入り又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ土地ノ名稱、占有者ノ氏

名又ハ名稱及其ノ目的ヲ記載シテ出願スヘシ

前項ノ出願ハ電信ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

本條ノ出願ニ對シ電信ヲ以テ指令ヲ受ケムトスル者ハ土地

ノ名稱、占有者ノ氏名又ハ名稱及立入り又ハ使用ノ目的ヲ

記スルニ相當スル電信料ヲ前納スヘシ

第六十一條 鑛業法第五十二條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ

他人ノ土地ニ立入り、之ヲ使用シ又ハ障礙物ヲ除却セムト

スル者ハ〔鑛山監督〕署長ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第六十二條 鑛業法第五十六條ノ規定ニ依リテ他人ノ土地ヲ使

用セムトスル者ハ土地ノ名稱、種目、面積、所有者ノ氏名

又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願

書ニ土地登記簿本、未登記ノ土地ニ付テハ土地臺帳簿本、

關係地實測圖及工事設計書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六十三條 鑛業權者鑛業法ノ規定ニ基キテ他人ノ土地ニ關

スル權利ヲ取得シタルトキ、使用ヲ始メタルトキ、使用ヲ

終リタルトキ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ直ニ〔鑛山

監督〕署長ニ届出ヘシ

前項ノ權利取得ニ關スル届書ニハ土地ノ名稱、種目、面積、

所有者ノ氏名又ハ名稱、住所、使用ノ目的、時期及期間並

補償金及擔保ヲ記載スヘシ

第六十四條乃至第六十七條 (削除)

第六十八條 鑛業法第九十條第一項又ハ第九十二條第一項ノ

規定ニ依ル申請書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載シ請求地ニ於

ケル工事又ハ鑛床ノ關係圖並所有者及關係人又ハ鄰接鑛業

權者ト交渉シタル始末書ヲ添付スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト

能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ

得

一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二 所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住

所

三 鑛業權ノ登録番號

四 申請ノ目的及理由

〔鑛山監督〕署長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ所有

者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ

所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタ

ル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ

所有者及關係人又ハ鄰接鑛業權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ

差出ササルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ申請書ノミニ依リテ裁

決スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同

シ

申請人第六條ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ

爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス

裁決書ニハ理由ヲ附シテ〔鑛山監督〕署長之ヲ申請人、所有

者及關係人、鄰接鑛業權者ニ交付スヘシ

第六十九條 鑛業法第九十條第二項又ハ第九十二條第二項ノ

規定ニ依ル訴願ニハ〔鑛山監督〕署長ノ與ヘタル裁決書ノ謄

本ヲ添ヘテ差出スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條 鑛業法第八十九條、第九十條第二項、第九十一條

及第九十二條第二項ノ規定ニ依リテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提

起シタル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘ

シ

第七十一條 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ基ク處分又ハ

裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第三十九條ノ規定ニ

依リ却下ニ付テハ〔鑛山監督〕署ノ揭示場ニ揭示スルコトニ

依リテ之ヲ爲ス

第七十二條 第二十六條、第二十七條、第四十條乃至第四十

三條、第四十九條、第五十一條、第五十二條、第五十五條、

第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十一條、第八十

六條及第八十七條ノ規定ニ違背シタル者、第二十二條ノ二

第一項ノ規定ニ依ル命令ノ期間内ニ設計書ヲ差出ササルト

キ若ハ第二十二條第二項及第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ

依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作業シタル者、

第二十四條ノ規定ニ基ク指定ノ期日ニ立會ハス若ハ調査事

項ノ説明ヲ爲ササル者、第三十七條第一項ノ規定ニ依ル命

令ノ期間内ニ鑛區圖ヲ差出ササルトキ若ハ第三項ノ規定ニ

違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者又ハ第九十條ノ規定ニ

依リ扶助規則ヲ差出ササル者若ハ第八十九條ノ規定ニ依リ

扶助規則ヲ改定セサル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條 第五十四條ノ規定ニ依リテ鑛業代理人ヲ定メタ

ル場合ニハ鑛業權者、法定代理人又ハ法人ニ適用スヘキ本

則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサ

ル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第七十四條 本則ハ第七十二條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ準用ス

附則

第七十五條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十六條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七十七條 鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 本則施行前ニ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ニシテ鑛業法及本則中ニ別段ノ定ナキモノニ付テハ鑛業條例ノ施行ニ關スル農商務省令及農商務省告示ノ規定ヲ適用ス

第七十九條 鑛業條例第四十六條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル出願ニシテ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘタルモノニ付テハ〔鑛山監督〕署長ハ相當ノ期限ヲ附シテ抵當權ノ順位ニ關スル協定書ヲ差出サシムルコトヲ得

第八十條 本則施行前ニ明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依リテ鑛業總代人ト看做サレタル者ハ本則ノ規定ニ依リテ定メタル代表者ト看做ス

第八十一條 本則施行前ヨリ引續キ鑛業ヲ爲ス者ハ本則施行

定スヘシ

第八十八條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十五條ノ規定ニ依リテ鑛夫名簿ヲ調製スヘシ

第八十九條 鑛業條例第七十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫救恤規則中第六十六條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ探掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ改定シテ許可ヲ受クヘシ但シ改定前ニ扶助ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ給與金額ハ第六十六條ニ定メタル最低額ヲ下ルコトヲ得ス

第九十條 本則施行前ヨリ引續キ試掘ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六十六條ノ規定ニ依リテ扶助規則ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第九十一條 鑛業法第九十九條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 事業ノ現状ヲ詳記セル書類

二 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ出願鑛物ヲ採取スルコトヲ證スル書類

第九十二條 鑛業法第二十條ノ規定ニ依ル届書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 事業ノ現状ヲ詳記セル書類

二 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ鑛業法第

ノ日ヨリ十日以内ニ鑛區所在地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ〔鑛山監督〕署長ニ届出ヘシ

第八十二條 本則施行前試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ニ付テハ第四十三條ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八十三條 本則施行前ヨリ引續キ探掘ヲ爲ス者ハ明治三十八年十一月末日迄ニ第四十四條ノ規定ニ依リテ調製シタル施業案ヲ差出スヘシ

第八十四條 明治三十二年農商務省令第三號ノ規定ニ依ル鑛業代理人ハ本則ノ規定ニ依ル鑛業代理人ト同一ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第八十五條 鑛業條例第四十八條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ九十日以内ニ土地ノ名稱、種目及使用ノ目的ヲ記載シタル届書ニ關係地實測圖工事設計書及使用ノ權利ヲ證スル書面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第八十六條 鑛業條例第六十四條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル鑛夫使役規則中第六十四條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ探掘權者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ改定シ許可ヲ受クヘシ

第八十七條 鑛業條例第七十條ノ規定ニ依リテ調製シタル鑛夫名簿中第六十五條ニ規定シタル事項ニ付其ノ規定ヲ異ニスルモノアルトキハ本則施行ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ改

二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採取スルコトヲ證スル書類

三 坑井ノ所在ヲ認知シ得ヘキ圖面

前項第三號ノ圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一 所在地ノ名稱及種目

二 不動基點並其ノ名稱及特徵

三 坑井ト不動基點ト連結シタル測點間ノ方位及間數

(様式省略)

●砂鑛法

(明治四十二年三月二十五日)總、農、大臣
法律 第十 三 號 副 署

沿革 大正五年三月法律第三一號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛法

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登録ヲ得タル

土地ノ區域ヲ謂フ

第四條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル

權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業

權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキ

ハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ〔鑛山監督〕署長ノ裁決ヲ申請ス

ルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ

權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコト

ヲ得

第六條 金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採掘鑛區内ニ存ス

ル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區内ニ既ニ存スル

砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條 砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ強制執

行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條 砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主

務大臣ニ出願スヘシ

第九條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ

受クヘシ

土地所有者ハ命令ノ定ムル期間内ニ於テ自ラ砂鑛權ノ出願

ヲ爲ストキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大

臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトス

ルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對

シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セム

トスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當

ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサ

ルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協

議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁

決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條 前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルト

キト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供

託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十七條 鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法

第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一 洗鑛

二 製鍊所ノ建設

三 洗滌用水路及溜池ノ開設

四 砂鑛原料ノ置場

第十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ

工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ

搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲ス

コトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用

ス

第十九條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ

以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二十條 第二十三條ニ於テ準用シタル鑛業法第十條第三項

又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第二十一條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立

入リテ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ〔鑛山監督〕署長ノ許

可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金

ニ處ス

當該官吏ノ訊問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職

務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前

項ニ同シ

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、

第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二

十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、

第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第

七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九

十一條乃至第九十三條、第三百三條及第四百四條ノ規定ハ砂鑛

業ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第二十四條 本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權

ノ登録ト看做ス

第二十六條 本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲

シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ

命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ〔鑛山監督〕署長ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ

於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條 本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二

項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登録ヲ申請スヘシ其ノ登録アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登録アル迄仍舊鑛業法ヲ適用ス

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登録アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場定ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

砂鑛法施行細則

(明治四十二年六月二十一日)

農商務省令第二十六號
○號、五年八月第二四號、八年三月第六號、一四年一月

商工省令第一三改號正

砂鑛法施行細則左ノ通相定ム

砂鑛法施行細則

第一條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ出願後三十日以内ニ土地所有者ノ承諾書若ハ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

出願地ニ付前項ノ規定ニ依リ差出スヘキ書面ノ提出ナキトキハ鑛務署長ハ相當ノ期限ヲ附シ其ノ提出又ハ減區出願ヲ命スヘシ

第二條 土地所有者カ砂鑛權ノ出願ヲ承諾セサルトキハ鑛山監督署長ハ土地所有者ニ砂鑛願書ノ提出ヲ命スヘシ

土地所有者カ前項ノ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ砂鑛願書ヲ差出ササルトキハ砂鑛權ノ出願ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三條 砂鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定ム但シ河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスルモノ又ハ河岸ニ沿フテ境界ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 直線ヲ以テ砂鑛區ノ境界ヲ定ムル場合ニ於テハ砂鑛願書ニ添付スヘキ圖面ハ様式第九號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

- 一 出願地ノ名稱及種目
- 二 出願地ノ面積

ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條 砂鑛出願ニ付手数料不足ナルトキハ鑛務署長ハ其ノ追納ヲ命スヘシ

出願人ハ前項ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ手数料ヲ納付スヘシ

第六條ノ二 砂鑛出願地カ實地調査ニ因リテ他人ノ所有地ニ係ルコトヲ發見シタルトキハ鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ附シ第一條ノ規定ニ依リ差出スヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第七條 砂鑛ノ出願許可スヘキモノト決定シタルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ登録稅ヲ納付スヘシ此ノ期間内ニ登録稅納付書ヲ差出シタルモノ不受理ノ處分ヲ受ケタルモノハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ在リテハ期間後ト雖モ更ニ登録稅ヲ納付スルコトヲ得

登錄稅ハ第一項ノ通知書ヲ受ケタル者若ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ之ヲ納付スヘシ郵便ヲ以テ納付スル場合ニ關シテハ鑛業法施行細則第七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ登録稅ハ第一項ノ通知書ト共ニ納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ願書、申請書又

- 三 南北線
- 四 縮尺
- 五 二箇以上ノ不動基點並其ノ名稱及特徵
- 六 出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點並其ノ番號
- 七 境界線並基點ト連結シタル測點間ノ方位及其ノ間數
- 八 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
- 九 河床ニ存スル砂鑛ヲ目的トスル砂鑛願書ニ添付スヘキ圖面ハ様式第十號ニ依リテ之ヲ調製シ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ
- 十 出願河川ノ名稱及河川ニ沿ヘル土地ノ名稱種目
- 十一 出願區域ノ總延長並幹流及支流ノ各延長
- 十二 南北線
- 十三 縮尺
- 十四 出願區域ノ各端
- 十五 各端ニ關スル不動基點並其ノ特徵及名稱
- 十六 基點ト各端ノ測點トノ間ノ間數及其ノ方位
- 十七 出願地及其ノ附近ニ於ケル地形其ノ他鑛業法第十條及第十一條ニ記載シタルモノ
- 十八 河床ノ全幅ヲ出願區域ト爲ササルモノニ付テハ河床中ノ境界線

第五條 砂鑛法第十一條第二項ノ規定ニ依ル減區又ハ増減區

八届書ヲ受理セス

- 一 砂鑛出願地ノ全部カ所轄〔鑛山監督〕署ノ管轄區域内ニ在ラサルトキ
- 二 出願ノ砂鑛カ砂鑛法第一條ノ規定ニ該當セサルトキ
- 三 圖面ヲ添附スヘキ砂鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セサルトキ又ハ添附圖面ニ依リ區域分明ナラサルトキ
- 四 手数料ヲ納付セサルトキ
- 五 鑛業法施行細則第十四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ決議書又ハ之ニ相當スル書面ヲ添附セサルトキ
- 六 鑛業法施行細則第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ
- 七 鑛業法施行細則第二十五條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ新舊出願人連署セサルトキ
- 八 鑛業法施行細則第三十一條第二項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シ承諾書及協定書ヲ添附セサルトキ
- 九 (削除)
- 十 第五條ノ規定ニ違背シ承諾書ヲ添附セサルトキ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ〔鑛山監督〕署長ハ登録稅納付書ヲ受理セス
 - 一 第七條第四項又ハ鑛業法施行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ通知書ヲ差出ササルトキ

二 鑛業法施行細則第三十六條ノ二ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ其ノ規定ニ違背シ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附セサルトキ

- 第十條 左ノ場合ニ於テハ〔鑛山監督〕署長ハ願書又ハ届書ヲ却下ス
 - 一 實地調査ノ際出願人カ出願區域ヲ明示スルコト能ハサルカ又ハ鑛業法施行細則第二十四條第一項ノ規定ニ準シテ指定シタル調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハサルトキ
 - 二 願書ニ添附シタル圖面カ實地ノ區域ト著シク相違スルトキ
 - 三 鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ
 - 四 鑛業法施行細則第十六條若ハ第十六條ノ二ノ規定ヲ準用スル場合ニ期限内ニ許可書又ハ證明書ヲ差出ササルトキ又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面ヲ差出ササルトキ
 - 五 鑛業法施行細則第十七條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ區域増減ノ願書ヲ差出ササルトキ
 - 六 鑛業法施行細則第二十二條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期限内ニ設計書ヲ差出ササルトキ

七 (削除)

- 八 鑛業法施行細則第二十四條ノ規定ニ準シテ指定シタル期日ニ出願人立會ヲ爲ササルトキ
- 九 第六條ニ規定シタル期限内ニ手数料ヲ納付セサルトキ
- 十 第七條ニ規定シタル期限内ニ登録稅納付書ヲ提出シ又ハ郵便ニ附セサルトキ
- 十一 第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ノ期限内ニ書面ノ提出又ハ減區出願ヲ爲ササルトキ
- 第十一條 砂鑛權者其ノ砂鑛區内ニ於テ許可ヲ得タル砂鑛以外ノ砂鑛ヲ採取セムトスルトキハ豫メ砂鑛權ノ表示變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 第十二條 (削除)
- 第十三條 砂鑛權者ハ砂鑛區圖ヲ砂鑛業事務所ニ備置クヘシ
- 第十四條 砂鑛權者ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル鑛產物ノ數量、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ記載シタル砂鑛業明細表ヲ〔鑛山監督〕署長ニ差出スヘシ
- 砂鑛權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ砂鑛權ヲ有セシ者ニ於テ其ノ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ砂鑛業明細表ヲ差出スヘシ
- 前二項ノ規定ニ依リテ砂鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
- 第十五條 二箇以上ノ砂鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テ

ハ砂鑛業明細表ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得

- 第十六條 砂鑛法第五條第二項ノ規定ニ依ル裁決申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ請求地ニ於ケル鑛床ノ關係圖及鑛業權者又ハ砂鑛權者ト交渉シタル始末書ヲ添付スヘシ但シ交渉ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ以テ始末書ニ代フルコトヲ得
 - 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 二 鑛業權者又ハ砂鑛權者ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 三 砂鑛權及鑛業權ノ登録番號
 - 四 申請ノ目的及理由
- 〔鑛山監督〕署長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ交付スヘシ
- 鑛業權者又ハ砂鑛權者ハ申請書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシ
- 鑛業權者又ハ砂鑛權者前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ〔鑛山監督〕署長ハ申請書ノミニ依リテ裁決スルコトヲ得申請書ヲ交付スルコト能ハサルトキ亦同シ
- 申請人鑛業法施行細則第六條ノ規定ニ準シテ發スル命令ノ期間内ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ申請書ヲ却下ス
- 裁決書ニハ理由ヲ附シテ〔鑛山監督〕署長之ヲ當事者雙方ニ交付スヘシ
- 第十七條 砂鑛法第五條第三項ノ規定ニ依ル訴願ニハ〔鑛山

監督署長ノ與ヘタル裁決書ノ謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ
前條ノ規定ハ前項ノ訴願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 砂鑛法第十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ
第十六條ノ規定ヲ準用ス

第十九條 鑛業法第九十三條第二項ノ規定ニ準シテ爲ス處分
又ハ裁決ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十條ノ規定ニ
依ル却下ニ付テハ〔鑛山監督〕署ノ揭示場ニ揭示スルコトニ
依リテ之ヲ爲ス

第二十條 第十一條、第十三條、第十四條ノ規定ニ違背シタ
ル者、鑛業法施行細則第二十六條、第四十條、第四十一條、
第四十三條、第六十一條、第六十三條、第七十條、第八十
一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ニ違背シタル者、鑛業法施
行細則第三十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ第一項ノ規
定ニ依ル命令ノ期間内ニ砂鑛區圖ヲ差出ササルトキ又ハ第
三項ノ規定ニ違背シ期間内ニ登録稅ヲ納メサル者、鑛業法
施行細則第二十二條及第二十二條ノ二ヲ準用スル場合ニ於
テ其ノ規定ニ依ル命令ニ基キ提出シタル設計書ニ反シテ作
業シタル者又ハ第二十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル命令ノ
期間内ニ設計書ヲ提出セサル者又ハ鑛業警察規則第五十五
條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條ノ規定ヲ準用
スル場合ニ之ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料
ニ處ス

第二十一條 鑛業法施行細則第一條乃至第八條、第十一條乃
至第十四條、第十六條、第十六條ノ二、第十七條、第二十
一條乃至第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一
條、第三十四條、第三十六條ノ二、第三十七條、第四十條、
第四十一條、第四十三條、第五十四條、第五十七條乃至第
六十三條、第六十八條乃至第七十條、第七十三條鑛業警察
規則第五十五條乃至第五十九條、第六十四條、第六十九條
ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第二十二條 本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
砂鑛採取法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 本則施行前砂鑛採取法施行細則ニ依リテ爲シタ
ル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則中之ニ相當スル規定アル
場合ニ於テハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十四條 本則施行前ニ二人以上共同シテ砂鑛採取ノ出願
ヲ爲シタルトキ又ハ本則施行前ヨリ二人以上共同シテ砂鑛
採取業ヲ爲ストキハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ連署シ
タル代表者選定ノ届出ヲ爲スヘシ

第二十五條 砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛採取地ノ合
併、分割、減區又ハ増減區ノ出願ニ付許可決定ノ通知ヲ受ケ
タルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ合併、
分割又ハ減少前ノ砂鑛權ニ付登録上利害關係ヲ有スル第三

者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差
出スヘシ

前項ノ期限内ニ第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得
ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出ササルトキハ出願ハ之ヲ却下ス

第二十六條 本則施行前砂鑛採取ノ許可ヲ得タル者ニ付鑛業
法施行細則第四十三條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ該條
ノ期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 砂鑛法第二十六條ノ規定ニ依ル届書ニハ鑛業願
書ヲ發送シタル年月日、出願人ノ氏名又ハ名稱及住所、出
願地ノ名稱及届出ノ目的ヲ記載シテ届出人ノ署名捺印ス
ヘシ

前項ノ届書ハ本法施行後六十日以内ニ差出ササルトキハ之
ヲ受理セス
鑛業法施行細則第十四條ノ規定ハ第一項ノ届書ニ付之ヲ準
用ス

第二十八條 砂鑛法第二十七條ノ規定ニ依ル砂鑛權設定ノ登
録申請ハ本法施行後九十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 鑛業法施行細則第八十一條及鑛業警察規則第四
十一條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス

(様式省略)

第五章 水産業

● 漁業法

(明治四十三年四月二十一日)總、内、農、大臣
法律第五十八號(副) 署

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム
漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動
植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入
漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ
除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用
ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ數地ノ所有者ハ行政官廳ノ許
可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ
得

第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利
ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘ
キ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス